

平成 25 年度 認知症介護研究・研修仙台センター運営費研究事業

加齢と健康に関する縦断研究
—心身の健康及びQOLの維持に関する要因分析—

研究事業報告書

平成26年3月

社会福祉法人 東北福祉会

認知症介護研究・研修仙台センター

目 次

1. 目的	1
2. 方法	1
3. 倫理的配慮	1
4. 結果	1
1) 一般健康状態	3
2) 健康状態に関する自覚	11
3) Life history	33
4) QOL	54
5. 結果のまとめと考察	84

加齢と健康に関する縦断研究

—心身の健康及びQOLの維持に関する要因分析—

1. 目的

加齢が心身の健康におよぼす影響を調べるためには、同一の個人を長期間追跡調査する縦断研究の手法を用い、個人のそれまでのライフスタイルや社会との関係性がどうであったのかを生活視点から明らかにしていく必要がある。認知症介護研究・研修仙台センターでは、2002年から10年間にわたり、2002年に55歳以上であった気仙沼大島地区住民を対象に、加齢と健康に関する縦断研究を行ってきた。

本研究では、2002年のベースライン調査から2012年までの計6回の縦断調査データの中から「健康状態」「健康自覚」「ライフヒストリー」「生活の質(QOL)」に関する項目を精査し、調査開始時に設定したコホート(壮年期群、前期高齢期群、後期高齢期群)の群間比較と縦断的な分析を行うことを目的とする。

2. 方法

過去10年間のすべての調査に協力してくれた気仙沼大島の65歳以上の住民177人の縦断データを分析対象とする。分析対象は「健康状態」「健康自覚」「ライフヒストリー」「生活の質(QOL)」等に関するものとする。

3. 倫理的配慮

過去10年間の訪問面接調査による研究は、すべて認知症介護研究・研修仙台センターの倫理審査委員会の承認を受けて行っている。本研究については、認知症介護研究・研修仙台センターの倫理審査小委員会の承認を受けて行う。

4. 結果

初回調査時(2002年)では、55歳以上の住民1550人のうち、1134人に対して調査を行うことができた。2002年、2004年、2006年、2008年、2010年、2012年の計6回の調査が行われ、すべての調査に協力してくれた177人を分析対象とした。対象者177人のうち、女性は105人(59.3%)、男性は72人(40.7%)である。

調査結果は、初回調査時(2002年度)当時の年齢を3群に分け、55歳以上65歳未満を「壮年期群」、65歳以上75歳未満を「前期高齢期群」、75歳以上を「後期高齢期群」として分類し比較検討した。本報告書では、年齢区分を「壮年期群→Y0」、「前期高齢期群→00」、「後期高齢期群→0d0」と表記している。

分析対象者は、「壮年期群→Y0」58人のうち、女性は33人(56.9%)、男性は25人(43.1%)であった。「前期高齢期群→00」78人のうち、女性は47人(60.3%)、男性は31人(39.7%)であった。「後期高齢期群→0d0」41人のうち、女性は25人(61.0%)、男性は16人(39.0%)であった。

性別

人数(割合)

	壮年期群(n=58)	前期高齢期群(n=78)	後期高齢期群(n=41)	全体(n=177)
女性	33 (56.9%)	47 (60.3%)	25 (61.0%)	105 (59.3%)
男性	25 (43.1%)	31 (39.7%)	16 (39.0%)	72 (40.7%)

平均年齢

平均年齢±標準偏差

	壮年期群(n=58)	前期高齢期群(n=78)	後期高齢期群(n=41)	全体(n=177)
2012年	70.8±2.6	79.5±3.0	87.4±2.1	78.5±6.7
2010年	68.8±2.6	77.5±2.9	85.3±2.1	76.4±6.7
2008年	66.7±2.6	75.5±3.0	83.4±2.1	74.4±6.8
2006年	64.7±2.6	73.4±2.9	81.3±2.1	72.4±6.7
2004年	62.7±2.6	71.4±2.9	79.3±2.1	70.4±6.7
2002年	60.8±2.6	69.5±2.9	77.3±2.2	68.5±6.7

平均年齢(男女別)

平均年齢±標準偏差

	壮年期群(n=58)		前期高齢期群(n=78)		後期高齢期群(n=41)		全体(n=177)	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
2012年	70.8±2.8	70.8±2.4	79.5±3.0	79.5±2.9	87.2±1.9	87.6±2.4	78.6±6.7	78.3±6.8
2010年	68.8±2.8	68.7±2.4	77.5±2.9	77.4±2.9	85.2±2.0	85.5±2.4	76.6±6.7	76.2±6.8
2008年	66.7±2.8	66.7±2.4	75.5±3.0	75.5±3.0	83.2±1.9	83.6±2.4	74.6±6.7	74.3±6.9
2006年	64.7±2.8	64.7±2.4	73.4±3.0	73.4±2.9	81.2±1.9	81.5±2.4	72.5±6.8	72.2±6.9
2004年	62.7±2.8	62.7±2.4	71.5±2.9	71.4±2.9	79.1±1.9	79.5±2.4	70.5±6.7	70.2±6.8
2002年	60.8±2.8	60.8±2.4	69.5±3.0	69.5±2.9	77.2±2.1	77.5±2.4	68.6±6.7	68.3±6.8

1) 一般健康状態

■病院にかかるような病気の有無

(全体の結果)

病院にかかる病気が「ある」人は、初回調査時（2002年）が49.2%と最も少ないが、その後は漸増し、2012年調査時では91.0%と大幅に増加している（+41.8ポイント）。（図表1-1）

(壮年期群→Y0)

病院にかかる病気が「ある」人は、初回調査時（2002年）が37.9%と最も少ないが、その後は漸増し、2012年調査時では93.1%と大幅に増加している（+55.2ポイント）。（図表1-2）

(前期高齢期群→00)

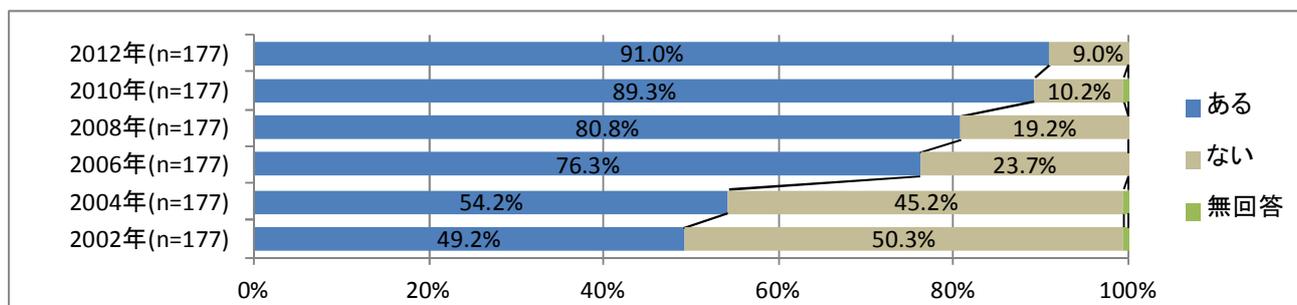
病院にかかる病気が「ある」人は、初回調査時（2002年）が51.3%と最も少ないが、その後は漸増し、2010年調査時では91.0%と大幅に増加している（+39.7ポイント）。（図表1-3）

(後期高齢期群→0d0)

病院にかかる病気が「ある」人は、初回調査時（2002年）から2004年調査時まで61.0%で推移している。2004年調査時以降は漸増し、2008年調査時では87.8%と大きく増加している（+26.8ポイント）。（図表1-4）

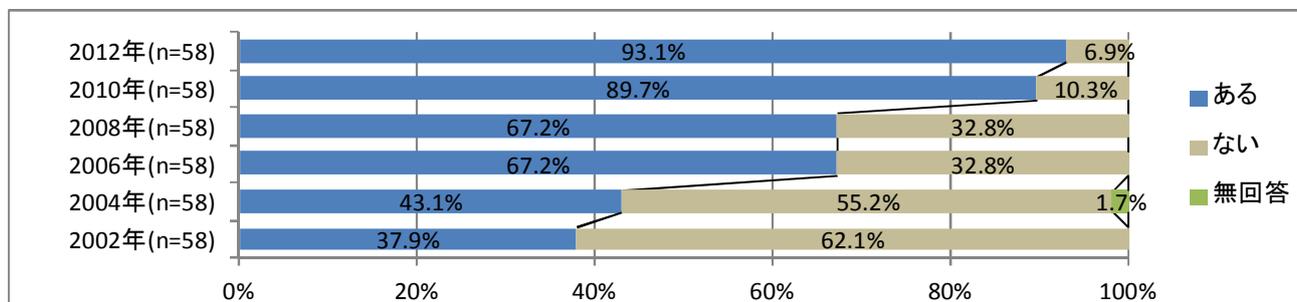
図表1-1 病院にかかるような病気の有無（全体）

	ある	ない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	161 (91.0%)	16 (9.0%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	158 (89.3%)	18 (10.2%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	143 (80.8%)	34 (19.2%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	135 (76.3%)	42 (23.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	96 (54.2%)	80 (45.2%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	87 (49.2%)	89 (50.3%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	



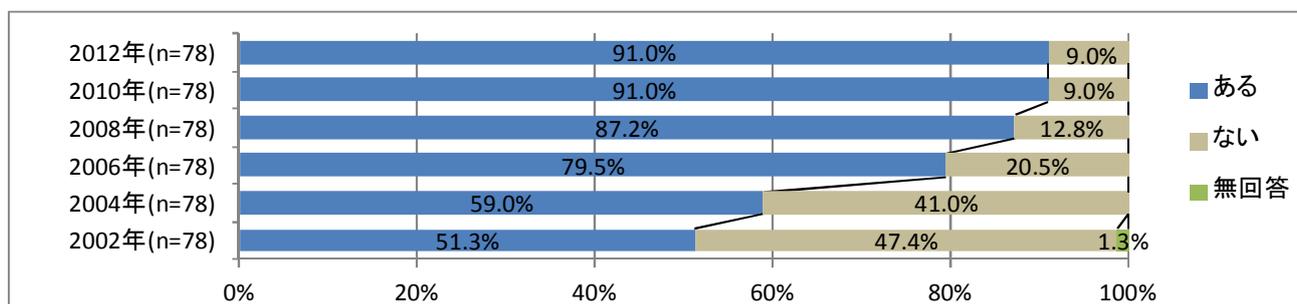
図表 1-2 病院にかかるような病気の有無 (壮年期群)

	ある	ない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	54 (93.1%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	52 (89.7%)	6 (10.3%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	39 (67.2%)	19 (32.8%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	39 (67.2%)	19 (32.8%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	25 (43.1%)	32 (55.2%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	22 (37.9%)	36 (62.1%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



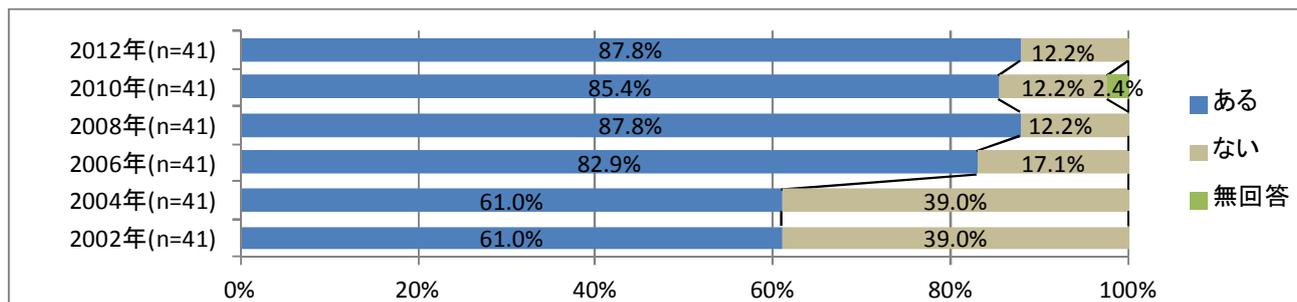
図表 1-3 病院にかかるような病気の有無 (前期高齢期群)

	ある	ない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	71 (91.0%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	71 (91.0%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	68 (87.2%)	10 (12.8%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	62 (79.5%)	16 (20.5%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	46 (59.0%)	32 (41.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	40 (51.3%)	37 (47.4%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	



図表 1-4 病院にかかるような病気の有無 (後期高齢期群)

	ある	ない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	36 (87.8%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	35 (85.4%)	5 (12.2%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	36 (87.8%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	34 (82.9%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	25 (61.0%)	16 (39.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	25 (61.0%)	16 (39.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■病院にかかるような病気の種類

(「Q. 病院にかかるような病気の有無」で「ある」と回答した人のみ)

(全体の結果)

「循環器系の疾患」で通院している人は、すべての調査時で4割以上を占めている。初回調査時(2002年)が40.2%と最も少なく、その後は漸増し、2012年調査時では62.7%と最も多くなっている(+22.5ポイント)。(図表1-5) ※通院している病気(上位5つ)のうち主な病気の種類を以下に示す。

- ・「循環器系の疾患」では「高血圧」が最も多く、すべての調査時で8割以上を占めている。
- ・「視覚器の疾患」では「白内障」が最も多く、すべての調査時で6割以上を占めている。
- ・「代謝性疾患」では「糖尿病」が最も多く、すべての調査時で6割以上を占めている。
- ・「骨・運動器の疾患」のうち、初回調査時(2002年)では「膝痛」「変形性脊椎症」「腰痛」がそれぞれ28.6%と同数であるが、2004年調査時以降は「腰痛」が最も多く、3割以上を占めている。
- ・「消化器系の疾患」では「胃・十二指腸疾患」が最も多く、すべての調査時で4割以上を占めている。

(壮年期群→Y0)

「循環器系の疾患」で通院している人は、すべての調査時で3割以上を占めている。2004年調査時が32.0%と最も少なく、その後は漸増し、2012年調査時では57.4%と最も多くなっている(+25.4ポイント)。(図表1-6) ※通院している病気(上位5つ)のうち主な病気の種類を以下に示す。

- ・「循環器系の疾患」では「高血圧」が最も多く、すべての調査時で8割以上を占めている。
- ・「代謝性疾患」では「糖尿病」が最も多く、すべての調査時で6割以上を占めている。
- ・「骨・運動器の疾患」のうち、初回調査時(2002年)から2004年調査時まで「膝痛」「変形性脊椎症」がそれぞれ半数を占めているが、2006年調査時以降は「腰痛」が4割以上を占めている。
- ・「視覚器の疾患」のうち「白内障」は、すべての調査時で3割以上を占めている。
- ・「消化器系の疾患」のうち「胃・十二指腸疾患」は、初回調査時(2002年)が75.0%と最も多く、2004年調査時と2008年調査時では半数を占めているが、それ以外は1割~3割程度で推移している。

(前期高齢期群→00)

「循環器系の疾患」で通院している人は、初回調査時(2002年)が37.5%と最も少なく、その後は4割~5割程度で推移しているが、2012年調査時では62.0%と10年間で大きく増加している(+24.5ポイント)。(図表1-7) ※通院している病気(上位5つ)のうち主な病気の種類を以下に示す。

- ・「循環器系の疾患」では「高血圧」が最も多く、すべての調査時で8割以上を占めている。
- ・「視覚器の疾患」では「白内障」が最も多く、すべての調査時で7割以上を占めている。
- ・「代謝性疾患」では「糖尿病」が最も多く、すべての調査時で6割以上を占めている。
- ・「消化器系の疾患」のうち「胃・十二指腸疾患」は、初回調査時(2002年)から2004年調査時まで2割~3割程度で推移しているが、2006年調査時では62.5%と最も多く、その後も4割以上で推移している。
- ・「骨・運動器の疾患」のうち「腰痛」は、すべての調査時で3割以上を占めている。

(後期高齢期群→0d0)

「循環器系の疾患」で通院している人は、すべての調査時で4割以上を占めている。初回調査時(2002年)が48.0%と最も少なく、その後は漸増し、2010年調査時では80.0%と大きく増加している(+32.0ポイント)。(図表1-8) ※通院している病気(上位5つ)のうち主な病気の種類を以下に示す。

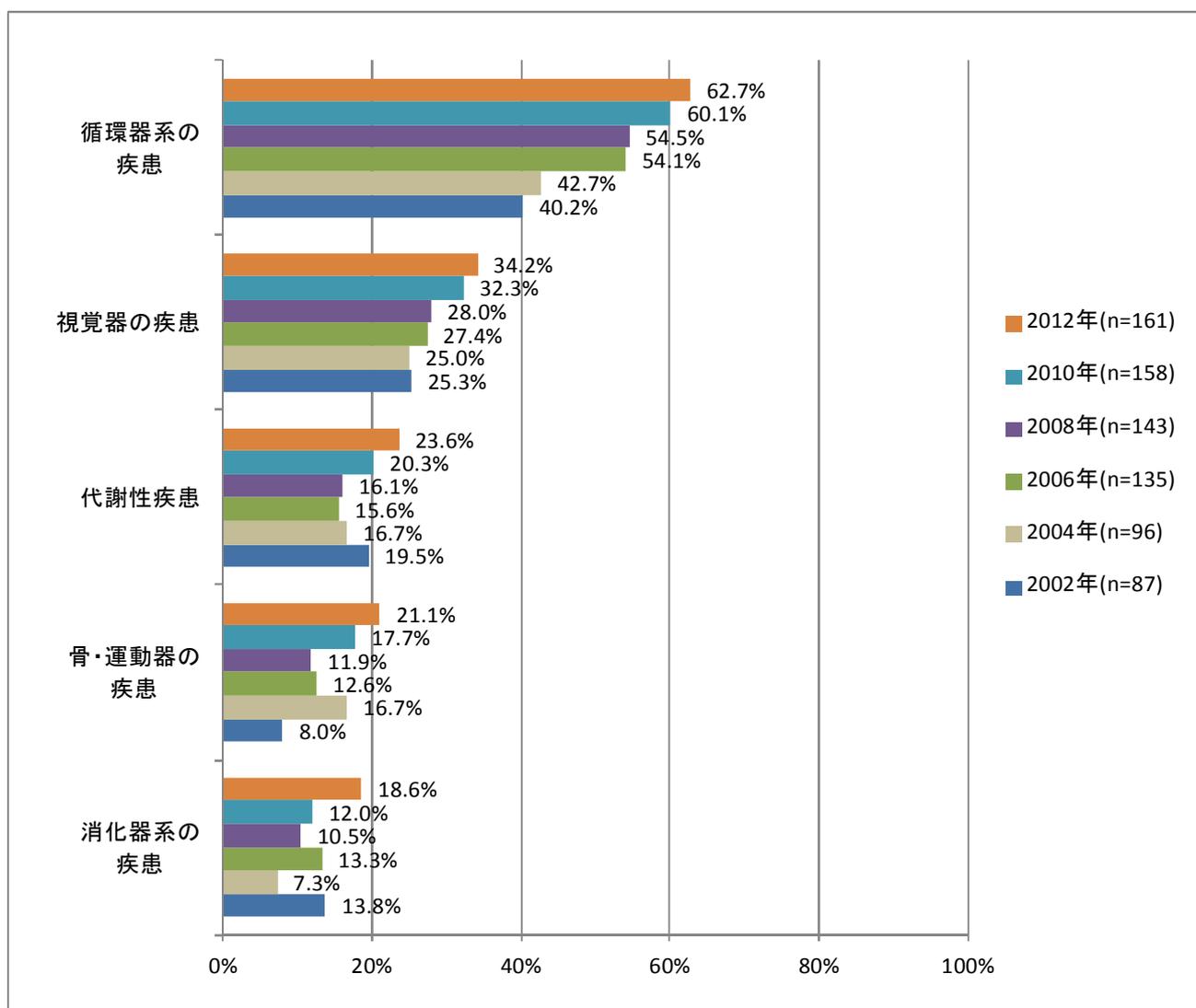
- ・「循環器系の疾患」では「高血圧」が最も多く、すべての調査時で9割以上を占めている。
- ・「視覚器の疾患」では「白内障」が最も多く、すべての調査時で7割以上を占めている。
- ・「骨・運動器の疾患」のうち「骨粗鬆症」は、2004年調査時から2006年調査時が20.0%と最も少ないが、それ以外はほぼ4割を超えている。
- ・「腎・泌尿器の疾患」のうち「前立腺肥大」は、2006年調査時が25.0%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時では71.4%と非常に大きく増加している(+46.4ポイント)。
- ・「代謝性疾患」のうち「脂質代謝異常」は、2010年調査時が40.0%と最も少なく、それ以外は半数以上を占めている。

図表 1-5 病院にかかるような病気の種類（全体）※複数回答

	認知症	脳血管疾患	脳・神経系疾患	精神障害	循環器系の疾患	消化器系の疾患	呼吸器系の疾患	代謝性疾患
2012年(n=161)	1 (0.6%)	14 (8.7%)	3 (1.9%)	4 (2.5%)	101 (62.7%)	30 (18.6%)	5 (3.1%)	38 (23.6%)
2010年(n=158)	0 (0.0%)	12 (7.6%)	3 (1.9%)	3 (1.9%)	95 (60.1%)	19 (12.0%)	5 (3.2%)	32 (20.3%)
2008年(n=143)	0 (0.0%)	14 (9.8%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	78 (54.5%)	15 (10.5%)	5 (3.5%)	23 (16.1%)
2006年(n=135)	0 (0.0%)	5 (3.7%)	2 (1.5%)	1 (0.7%)	73 (54.1%)	18 (13.3%)	5 (3.7%)	21 (15.6%)
2004年(n=96)	0 (0.0%)	4 (4.2%)	1 (1.0%)	2 (2.1%)	41 (42.7%)	7 (7.3%)	3 (3.1%)	16 (16.7%)
2002年(n=87)	0 (0.0%)	4 (4.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	35 (40.2%)	12 (13.8%)	2 (2.3%)	17 (19.5%)

	内分泌疾患	膠原病系	アレルギー	血液疾患	腎・泌尿器疾患	婦人科疾患	骨・運動器の疾患	皮膚疾患
2012年(n=161)	4 (2.5%)	4 (2.5%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	17 (10.6%)	0 (0.0%)	34 (21.1%)	4 (2.5%)
2010年(n=158)	4 (2.5%)	5 (3.2%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)	17 (10.8%)	0 (0.0%)	28 (17.7%)	1 (0.6%)
2008年(n=143)	4 (2.8%)	4 (2.8%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)	15 (10.5%)	0 (0.0%)	17 (11.9%)	4 (2.8%)
2006年(n=135)	5 (3.7%)	3 (2.2%)	2 (1.5%)	2 (1.5%)	11 (8.1%)	0 (0.0%)	17 (12.6%)	0 (0.0%)
2004年(n=96)	2 (2.1%)	2 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (6.3%)	0 (0.0%)	16 (16.7%)	1 (1.0%)
2002年(n=87)	3 (3.4%)	2 (2.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (5.7%)	0 (0.0%)	7 (8.0%)	1 (1.1%)

	視覚器の疾患	耳鼻咽喉の疾患	口腔疾患	外傷	悪性新生物(ガン)	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=161)	55 (34.2%)	3 (1.9%)	2 (1.2%)	3 (1.9%)	13 (8.1%)	5 (3.1%)	341	
2010年(n=158)	51 (32.3%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)	6 (3.8%)	9 (5.7%)	3 (1.9%)	297	
2008年(n=143)	40 (28.0%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	3 (2.1%)	9 (6.3%)	0 (0.0%)	242	
2006年(n=135)	37 (27.4%)	2 (1.5%)	1 (0.7%)	5 (3.7%)	8 (5.9%)	1 (0.7%)	219	
2004年(n=96)	24 (25.0%)	2 (2.1%)	2 (2.1%)	3 (3.1%)	3 (3.1%)	4 (4.2%)	139	
2002年(n=87)	22 (25.3%)	3 (3.4%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	1 (1.1%)	116	



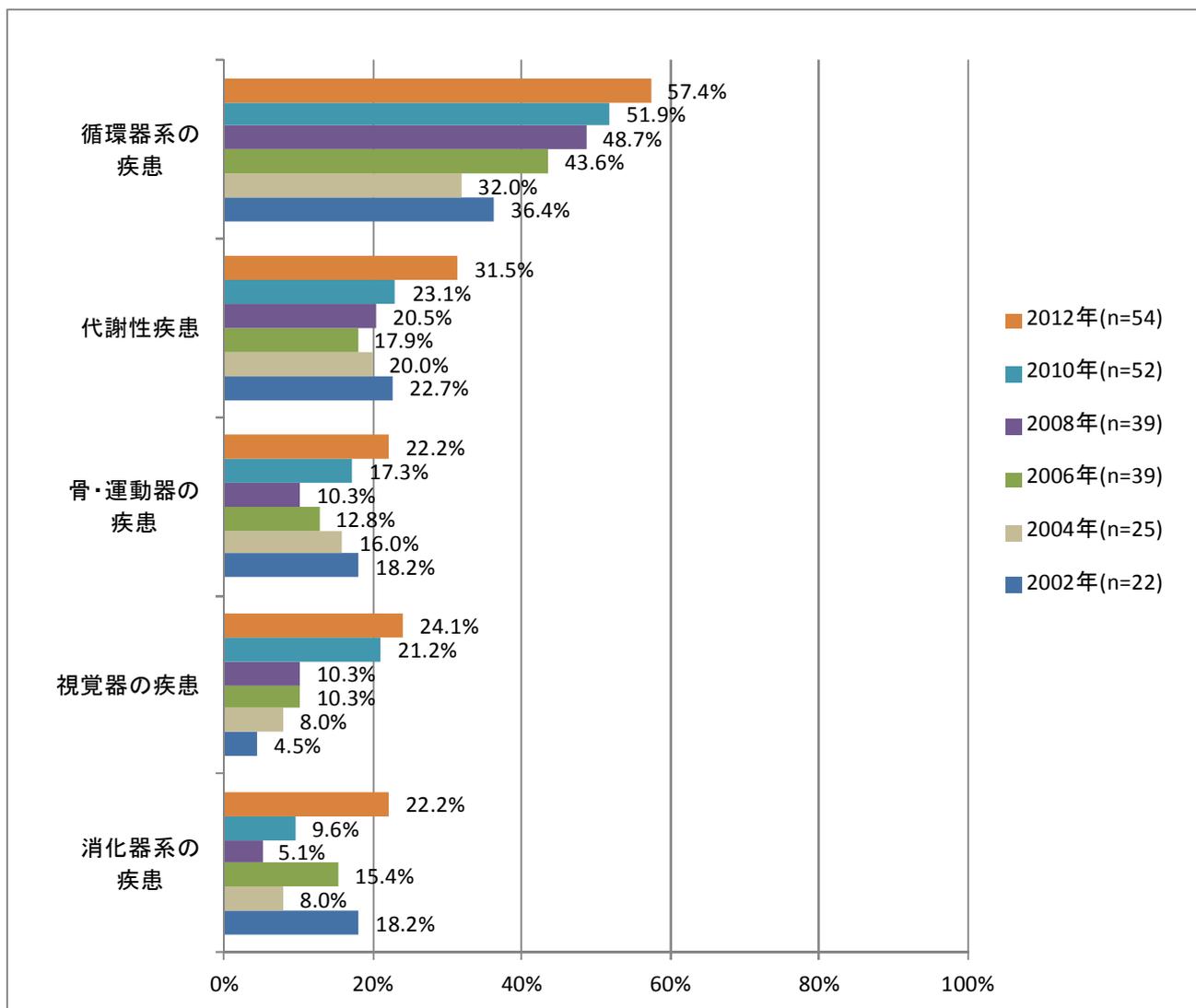
※回答数の多い上位5つを抜粋

	認知症	脳血管疾患	脳・神経系疾患	精神障害	循環器系の疾患	消化器系の疾患	呼吸器系の疾患	代謝性疾患
2012年(n=54)	0 (0.0%)	3 (5.6%)	0 (0.0%)	3 (5.6%)	31 (57.4%)	12 (22.2%)	0 (0.0%)	17 (31.5%)
2010年(n=52)	0 (0.0%)	4 (7.7%)	0 (0.0%)	2 (3.8%)	27 (51.9%)	5 (9.6%)	0 (0.0%)	12 (23.1%)
2008年(n=39)	0 (0.0%)	5 (12.8%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)	19 (48.7%)	2 (5.1%)	0 (0.0%)	8 (20.5%)
2006年(n=39)	0 (0.0%)	2 (5.1%)	1 (2.6%)	1 (2.6%)	17 (43.6%)	6 (15.4%)	0 (0.0%)	7 (17.9%)
2004年(n=25)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	1 (4.0%)	1 (4.0%)	8 (32.0%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	5 (20.0%)
2002年(n=22)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (36.4%)	4 (18.2%)	0 (0.0%)	5 (22.7%)

	内分泌疾患	膠原病系	アレルギー	血液疾患	腎・泌尿器疾患	婦人科疾患	骨・運動器の疾患	皮膚疾患
2012年(n=54)	1 (1.9%)	1 (1.9%)	0 (0.0%)	1 (1.9%)	1 (1.9%)	0 (0.0%)	12 (22.2%)	1 (1.9%)
2010年(n=52)	1 (1.9%)	1 (1.9%)	0 (0.0%)	1 (1.9%)	2 (3.8%)	0 (0.0%)	9 (17.3%)	0 (0.0%)
2008年(n=39)	1 (2.6%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.1%)	0 (0.0%)	4 (10.3%)	0 (0.0%)
2006年(n=39)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)	1 (2.6%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	5 (12.8%)	0 (0.0%)
2004年(n=25)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (16.0%)	0 (0.0%)
2002年(n=22)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (18.2%)	0 (0.0%)

	視覚器の疾患	耳鼻咽喉の疾患	口腔疾患	外傷	悪性新生物(ガン)	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=54)	13 (24.1%)	3 (5.6%)	1 (1.9%)	0 (0.0%)	1 (1.9%)	1 (1.9%)	102	
2010年(n=52)	11 (21.2%)	1 (1.9%)	0 (0.0%)	1 (1.9%)	2 (3.8%)	0 (0.0%)	79	
2008年(n=39)	4 (10.3%)	2 (5.1%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)	3 (7.7%)	0 (0.0%)	53	
2006年(n=39)	4 (10.3%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)	4 (10.3%)	0 (0.0%)	53	
2004年(n=25)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	2 (8.0%)	1 (4.0%)	1 (4.0%)	1 (4.0%)	29	
2002年(n=22)	1 (4.5%)	2 (9.1%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	28	

図表 1-6 病院にかかるような病気の種類（壮年期群）※複数回答



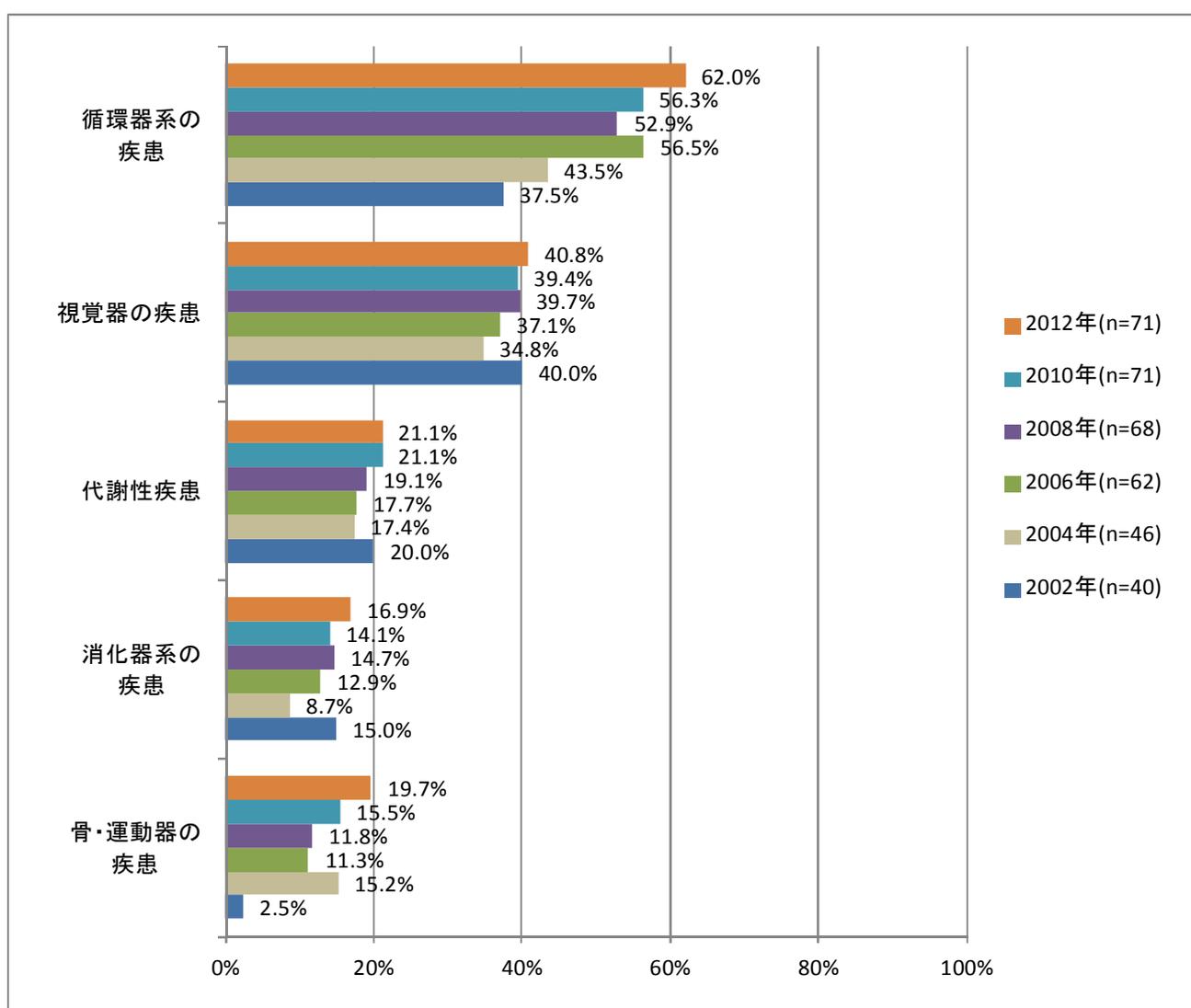
※回答数の多い上位5つを抜粋

図表 1-7 病院にかかるような病気の種類(前期高齢期群) ※複数回答

	認知症	脳血管疾患	脳・神経系疾患	精神障害	循環器系の疾患	消化器系の疾患	呼吸器系の疾患	代謝性疾患
2012年(n=71)	1 (1.4%)	5 (7.0%)	2 (2.8%)	0 (0.0%)	44 (62.0%)	12 (16.9%)	4 (5.6%)	15 (21.1%)
2010年(n=71)	0 (0.0%)	5 (7.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	40 (56.3%)	10 (14.1%)	4 (5.6%)	15 (21.1%)
2008年(n=68)	0 (0.0%)	4 (5.9%)	1 (1.5%)	1 (1.5%)	36 (52.9%)	10 (14.7%)	4 (5.9%)	13 (19.1%)
2006年(n=62)	0 (0.0%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	35 (56.5%)	8 (12.9%)	4 (6.5%)	11 (17.7%)
2004年(n=46)	0 (0.0%)	2 (4.3%)	0 (0.0%)	1 (2.2%)	20 (43.5%)	4 (8.7%)	2 (4.3%)	8 (17.4%)
2002年(n=40)	0 (0.0%)	2 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (37.5%)	6 (15.0%)	1 (2.5%)	8 (20.0%)

	内分泌疾患	膠原病系	アレルギー	血液疾患	腎・泌尿器疾患	婦人科疾患	骨・運動器の疾患	皮膚疾患
2012年(n=71)	2 (2.8%)	2 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (12.7%)	0 (0.0%)	14 (19.7%)	2 (2.8%)
2010年(n=71)	2 (2.8%)	3 (4.2%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	9 (12.7%)	0 (0.0%)	11 (15.5%)	1 (1.4%)
2008年(n=68)	2 (2.9%)	2 (2.9%)	1 (1.5%)	2 (2.9%)	8 (11.8%)	0 (0.0%)	8 (11.8%)	3 (4.4%)
2006年(n=62)	3 (4.8%)	2 (3.2%)	1 (1.6%)	1 (1.6%)	6 (9.7%)	0 (0.0%)	7 (11.3%)	0 (0.0%)
2004年(n=46)	2 (4.3%)	1 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (6.5%)	0 (0.0%)	7 (15.2%)	1 (2.2%)
2002年(n=40)	1 (2.5%)	1 (2.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.0%)	0 (0.0%)	1 (2.5%)	1 (2.5%)

	視覚器の疾患	耳鼻咽喉の疾患	口腔疾患	外傷	悪性新生物(ガン)	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=71)	29 (40.8%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	2 (2.8%)	10 (14.1%)	3 (4.2%)	157	
2010年(n=71)	28 (39.4%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	4 (5.6%)	6 (8.5%)	2 (2.8%)	143	
2008年(n=68)	27 (39.7%)	0 (0.0%)	2 (2.9%)	1 (1.5%)	5 (7.4%)	0 (0.0%)	130	
2006年(n=62)	23 (37.1%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)	2 (3.2%)	3 (4.8%)	0 (0.0%)	109	
2004年(n=46)	16 (34.8%)	1 (2.2%)	0 (0.0%)	1 (2.2%)	2 (4.3%)	1 (2.2%)	72	
2002年(n=40)	16 (40.0%)	1 (2.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	55	



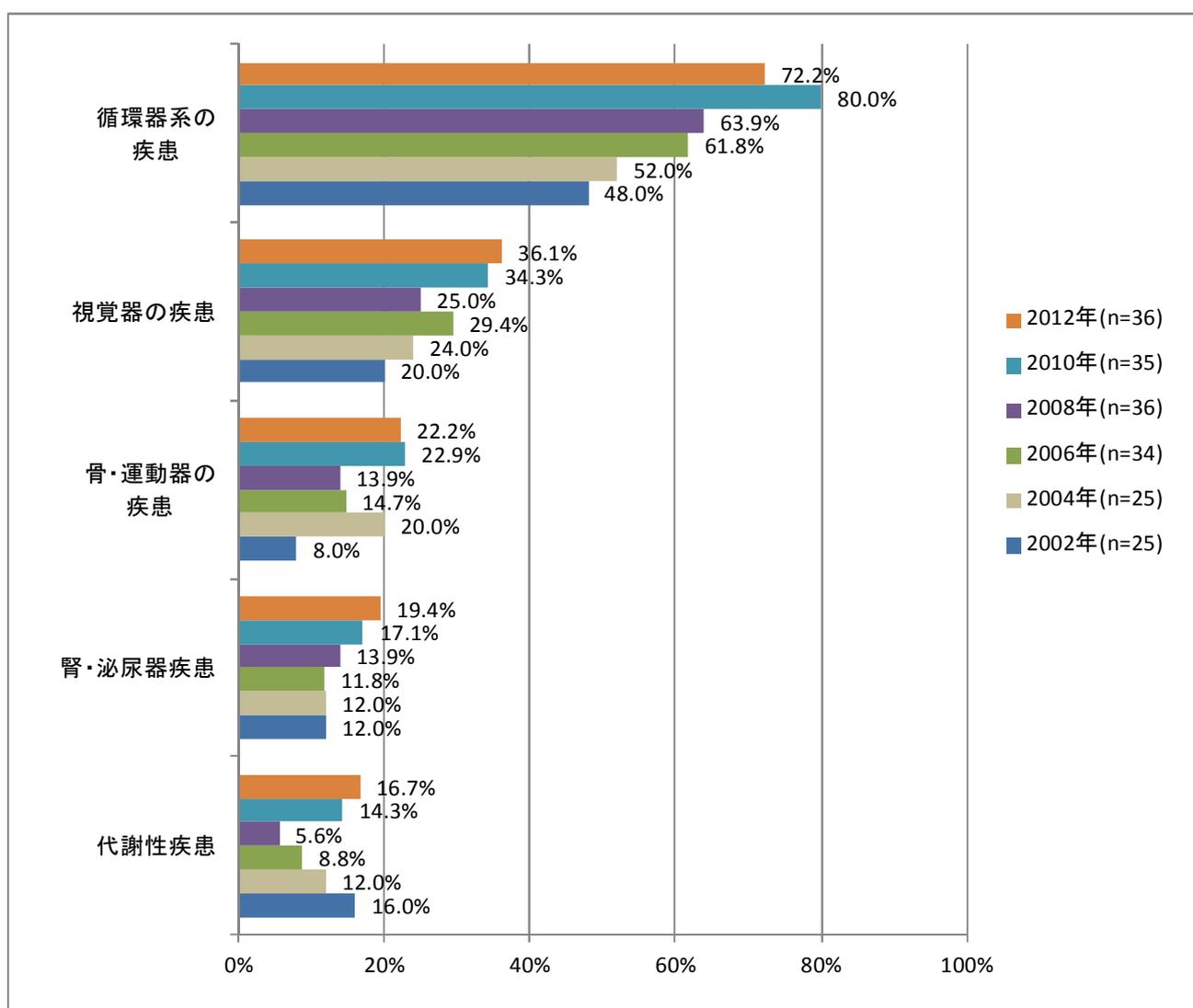
※回答数の多い上位5つを抜粋

図表 1-8 病院にかかるような病気の種類（後期高齢期群）※複数回答

	認知症	脳血管疾患	脳・神経系疾患	精神障害	循環器系の疾患	消化器系の疾患	呼吸器系の疾患	代謝性疾患
2012年(n=36)	0 (0.0%)	6 (16.7%)	1 (2.8%)	1 (2.8%)	26 (72.2%)	6 (16.7%)	1 (2.8%)	6 (16.7%)
2010年(n=35)	0 (0.0%)	3 (8.6%)	2 (5.7%)	1 (2.9%)	28 (80.0%)	4 (11.4%)	1 (2.9%)	5 (14.3%)
2008年(n=36)	0 (0.0%)	5 (13.9%)	1 (2.8%)	0 (0.0%)	23 (63.9%)	3 (8.3%)	1 (2.8%)	2 (5.6%)
2006年(n=34)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	21 (61.8%)	4 (11.8%)	1 (2.9%)	3 (8.8%)
2004年(n=25)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (52.0%)	1 (4.0%)	1 (4.0%)	3 (12.0%)
2002年(n=25)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12 (48.0%)	2 (8.0%)	1 (4.0%)	4 (16.0%)

	内分泌疾患	膠原病系	アレルギー	血液疾患	腎・泌尿器疾患	婦人科疾患	骨・運動器の疾患	皮膚疾患
2012年(n=36)	1 (2.8%)	1 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (19.4%)	0 (0.0%)	8 (22.2%)	1 (2.8%)
2010年(n=35)	1 (2.9%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (17.1%)	0 (0.0%)	8 (22.9%)	0 (0.0%)
2008年(n=36)	1 (2.8%)	1 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (13.9%)	0 (0.0%)	5 (13.9%)	1 (2.8%)
2006年(n=34)	1 (2.9%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (11.8%)	0 (0.0%)	5 (14.7%)	0 (0.0%)
2004年(n=25)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (12.0%)	0 (0.0%)	5 (20.0%)	0 (0.0%)
2002年(n=25)	1 (4.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (12.0%)	0 (0.0%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)

	視覚器の疾患	耳鼻咽喉の疾患	口腔疾患	外傷	悪性新生物(ガン)	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=36)	13 (36.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.8%)	2 (5.6%)	1 (2.8%)	82	
2010年(n=35)	12 (34.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	1 (2.9%)	1 (2.9%)	75	
2008年(n=36)	9 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.8%)	1 (2.8%)	0 (0.0%)	59	
2006年(n=34)	10 (29.4%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	2 (5.9%)	1 (2.9%)	1 (2.9%)	57	
2004年(n=25)	6 (24.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	2 (8.0%)	38	
2002年(n=25)	5 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	33	



※回答数の多い上位5つを抜粋

2) 健康状態に関する自覚

■ふだん自分で健康だと感じるか

(全体の結果)

「とても健康」「まあ健康な方」を合わせた「健康な方」という回答は、初回調査時（2002年）が80.8%と最も多く、それ以降は7割程度で推移している。一方「とても健康」という回答は、2008年調査時が40.7%と最も多く、その後は漸減し、2012年調査時では6.2%と大幅な減少がみられる（-34.5ポイント）。（図表2-1）

(壮年期群→Y0)

「とても健康」「まあ健康な方」を合わせた「健康な方」という回答は、初回調査時（2002年）が86.3%と最も多く、それ以降は7割前後で推移している。一方「とても健康」という回答は、2008年調査時より漸減し、2012年調査時では3.4%と大幅な減少がみられる（-38.0ポイント）。（図表2-2）

(前期高齢期群→00)

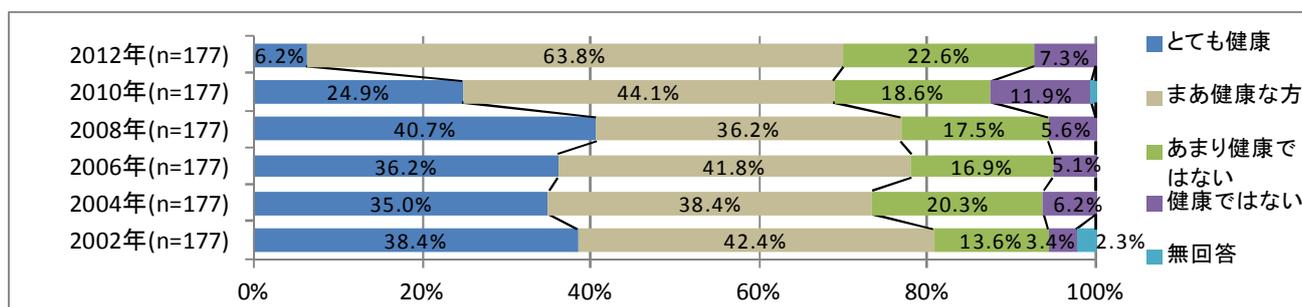
「とても健康」「まあ健康な方」を合わせた「健康な方」という回答は、すべての調査時で7割程度を維持している。2008年調査時より漸減傾向にあり、2012年調査時では69.2%と最も少なくなっている（-9.0ポイント）。一方「とても健康」という回答は、2008年調査時より漸減し、2012年調査時では7.7%と大幅な減少がみられる（-30.8ポイント）。（図表2-3）

(後期高齢期群→0d0)

「とても健康」「まあ健康な方」を合わせた「健康な方」という回答は、すべての調査時で7割前後を占めている。2008年調査時の87.8%をピークに漸減傾向にあり、2012年調査時では65.8%と最も少なくなっている（-22.0ポイント）。一方「とても健康」という回答は、2008年調査時が43.9%と最も多く、その後は漸減し、2012年調査時では7.3%と大幅な減少がみられる（-36.6ポイント）。（図表2-4）

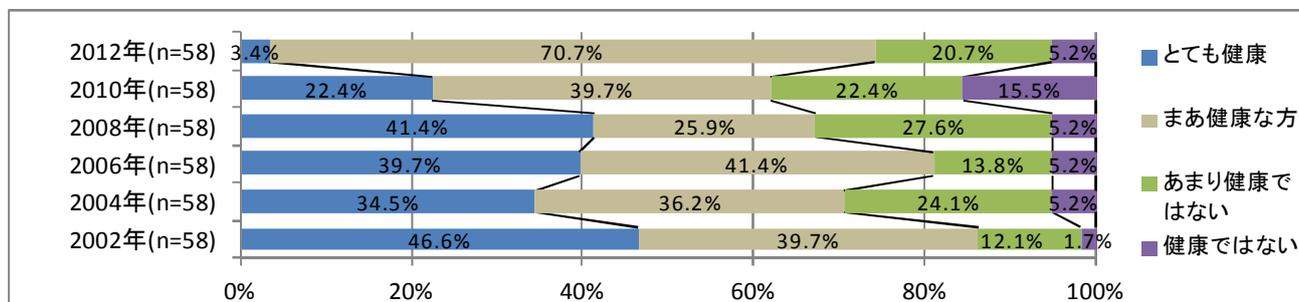
図表 2-1 ふだん自分で健康だと感じるか（全体）

	とても健康	まあ健康な方	あまり健康ではない	健康ではない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	11 (6.2%)	113 (63.8%)	40 (22.6%)	13 (7.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	44 (24.9%)	78 (44.1%)	33 (18.6%)	21 (11.9%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	72 (40.7%)	64 (36.2%)	31 (17.5%)	10 (5.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	64 (36.2%)	74 (41.8%)	30 (16.9%)	9 (5.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	62 (35.0%)	68 (38.4%)	36 (20.3%)	11 (6.2%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	68 (38.4%)	75 (42.4%)	24 (13.6%)	6 (3.4%)	4 (2.3%)	177 (100.0%)	



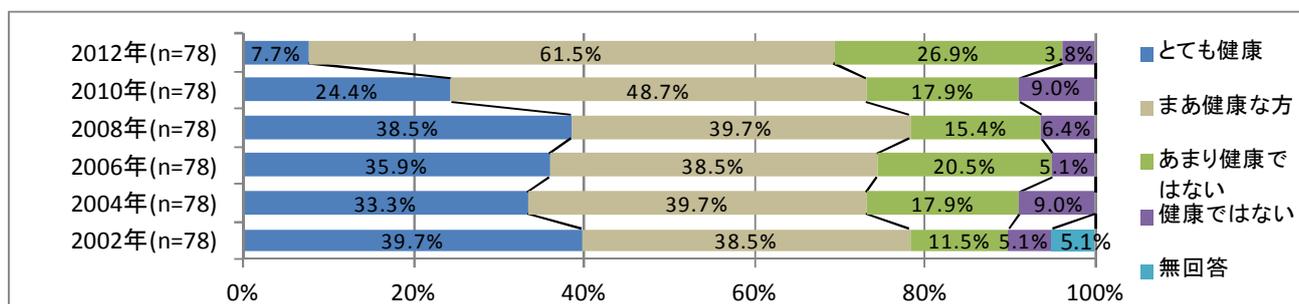
図表 2-2 ふだん自分で健康だと感じるか（壮年期群）

	とても健康	まあ健康な方	あまり健康ではない	健康ではない	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	2 (3.4%)	41 (70.7%)	12 (20.7%)	3 (5.2%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	13 (22.4%)	23 (39.7%)	13 (22.4%)	9 (15.5%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	24 (41.4%)	15 (25.9%)	16 (27.6%)	3 (5.2%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	23 (39.7%)	24 (41.4%)	8 (13.8%)	3 (5.2%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	20 (34.5%)	21 (36.2%)	14 (24.1%)	3 (5.2%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	27 (46.6%)	23 (39.7%)	7 (12.1%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	



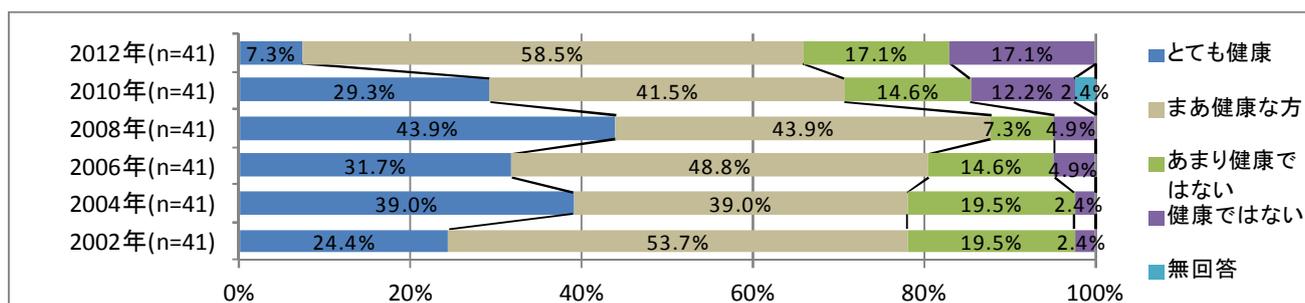
図表 2-3 ふだん自分で健康だと感じるか（前期高齢期群）

	とても健康	まあ健康な方	あまり健康ではない	健康ではない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	6 (7.7%)	48 (61.5%)	21 (26.9%)	3 (3.8%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	19 (24.4%)	38 (48.7%)	14 (17.9%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	30 (38.5%)	31 (39.7%)	12 (15.4%)	5 (6.4%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	28 (35.9%)	30 (38.5%)	16 (20.5%)	4 (5.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	26 (33.3%)	31 (39.7%)	14 (17.9%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	31 (39.7%)	30 (38.5%)	9 (11.5%)	4 (5.1%)	4 (5.1%)	78 (100.0%)	



図表 2-4 ふだん自分で健康だと感じるか（後期高齢期群）

	とても健康	まあ健康な方	あまり健康ではない	健康ではない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	3 (7.3%)	24 (58.5%)	7 (17.1%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	12 (29.3%)	17 (41.5%)	6 (14.6%)	5 (12.2%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	18 (43.9%)	18 (43.9%)	3 (7.3%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	13 (31.7%)	20 (48.8%)	6 (14.6%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	16 (39.0%)	16 (39.0%)	8 (19.5%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	10 (24.4%)	22 (53.7%)	8 (19.5%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■今の健康状態（前回調査時との比較）

（全体の結果）

今の健康状態について、初回調査時（2002年）と2010年調査時では「どちらかというと前の方が健康」という回答が最も多く、4割以上を占めているが、それ以外は「前と変わらない」という回答が4割以上と最も多くなっている。「前の方がとても健康」「どちらかというと前の方が健康」を合わせた「前の方が健康」という回答は、初回調査時（2002年）が74.0%と最も多いが、2004年調査時では37.3%と2年間で大幅に減少している（-36.7ポイント）。2004年調査時以降は漸増傾向にあり、2010年調査時では55.4%に増加している（+18.1ポイント）。（図表2-5）

（壮年期群→Y0）

今の健康状態について、初回調査時（2002年）と2010年調査時では「どちらかというと前の方が健康」という回答が最も多く、4割以上を占めているが、それ以外は「前と変わらない」という回答が半数以上と最も多くなっている。「前の方がとても健康」「どちらかというと前の方が健康」を合わせた「前の方が健康」という回答は、初回調査時（2002年）が67.2%と最も多いが、2004年調査時では29.3%と2年間で大幅に減少している（-37.9ポイント）。2004年調査時以降は漸増傾向にあり、2010年調査時では56.9%に増加している（+27.6ポイント）。（図表2-6）

（前期高齢期群→00）

今の健康状態について、初回調査時（2002年）と2010年調査時では「どちらかというと前の方が健康」という回答が最も多く、4割以上を占めているが、それ以外は「前と変わらない」という回答が最も多く、約半数を占めている。「前の方がとても健康」「どちらかというと前の方が健康」を合わせた「前の方が健康」という回答は、初回調査時（2002年）が78.2%と最も多いが、2004年調査時では42.3%と2年間で大幅に減少している（-35.9ポイント）。2006年調査時以降は漸増傾向にあり、2010年調査時では56.4%に増加している（+14.1ポイント）。（図表2-7）

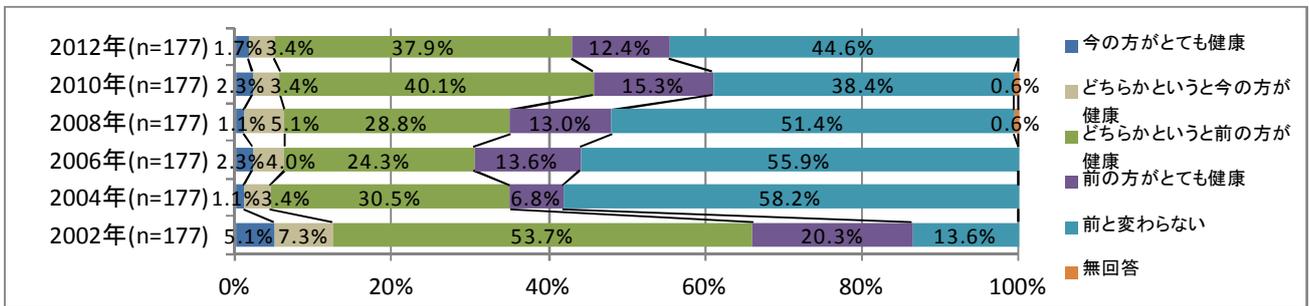
（後期高齢期群→0d0）

今の健康状態について、初回調査時（2002年）と2012年調査時では「どちらかというと前の方が健康」という回答が4割以上と最も多いが、2004年調査時から2010年調査時は「前と変わらない」という回答が最も多く、3割～6割程度を占めている。「前の方がとても健康」「どちらかというと前の方が健康」を合わせた「前の方が健康」という回答は、初回調査時（2002年）が75.6%と最も多いが、その後は漸減傾向にあり、2006年調査時には29.3%と大幅に減少している（-46.3ポイント）。2006年調査時以降は漸増傾向にあり、2012年調査時には61.0%に増加している（+31.7ポイント）。（図表2-8）

図表 2-5 今の健康状態（全体）

	今の方がとても健康	どちらかという 今の方が健康	どちらかという 前の方が健康	前の方が とても健康
2012年(n=177)	3 (1.7%)	6 (3.4%)	67 (37.9%)	22 (12.4%)
2010年(n=177)	4 (2.3%)	6 (3.4%)	71 (40.1%)	27 (15.3%)
2008年(n=177)	2 (1.1%)	9 (5.1%)	51 (28.8%)	23 (13.0%)
2006年(n=177)	4 (2.3%)	7 (4.0%)	43 (24.3%)	24 (13.6%)
2004年(n=177)	2 (1.1%)	6 (3.4%)	54 (30.5%)	12 (6.8%)
2002年(n=177)	9 (5.1%)	13 (7.3%)	95 (53.7%)	36 (20.3%)

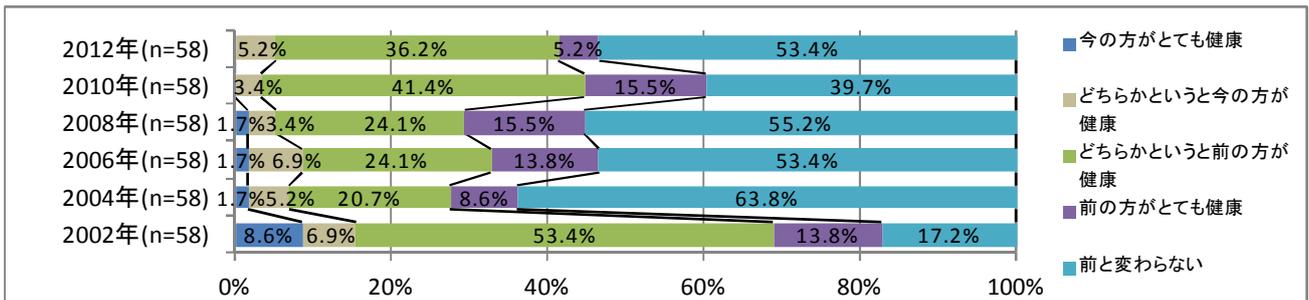
	前と変わらない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	79 (44.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	68 (38.4%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	91 (51.4%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	99 (55.9%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	103 (58.2%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	24 (13.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



図表 2-6 今の健康状態（壮年期群）

	今の方がとても健康	どちらかという 今の方が健康	どちらかという 前の方が健康	前の方が とても健康
2012年(n=58)	0 (0.0%)	3 (5.2%)	21 (36.2%)	3 (5.2%)
2010年(n=58)	0 (0.0%)	2 (3.4%)	24 (41.4%)	9 (15.5%)
2008年(n=58)	1 (1.7%)	2 (3.4%)	14 (24.1%)	9 (15.5%)
2006年(n=58)	1 (1.7%)	4 (6.9%)	14 (24.1%)	8 (13.8%)
2004年(n=58)	1 (1.7%)	3 (5.2%)	12 (20.7%)	5 (8.6%)
2002年(n=58)	5 (8.6%)	4 (6.9%)	31 (53.4%)	8 (13.8%)

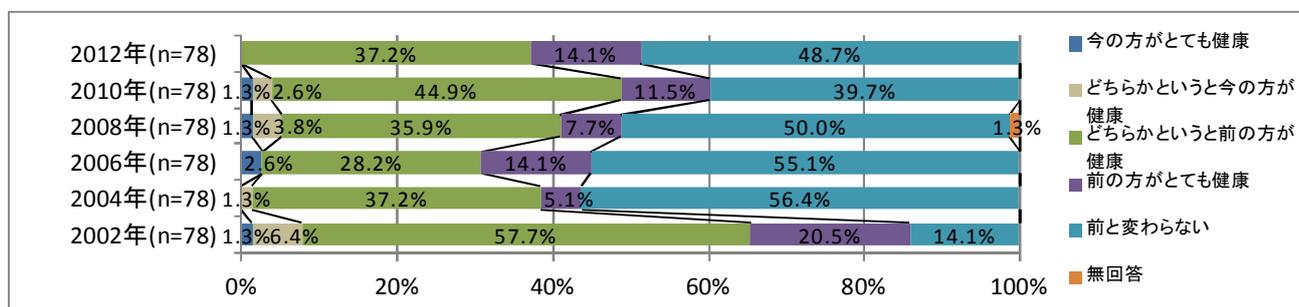
	前と変わらない	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	31 (53.4%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	23 (39.7%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	32 (55.2%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	31 (53.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	37 (63.8%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	10 (17.2%)	58 (100.0%)	



図表 2-7 今の健康状態（前期高齢期群）

	今の方がとても健康	どちらかという 今の方が健康	どちらかという 前の方が健康	前の方が とても健康
2012年(n=78)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (37.2%)	11 (14.1%)
2010年(n=78)	1 (1.3%)	2 (2.6%)	35 (44.9%)	9 (11.5%)
2008年(n=78)	1 (1.3%)	3 (3.8%)	28 (35.9%)	6 (7.7%)
2006年(n=78)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	22 (28.2%)	11 (14.1%)
2004年(n=78)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	29 (37.2%)	4 (5.1%)
2002年(n=78)	1 (1.3%)	5 (6.4%)	45 (57.7%)	16 (20.5%)

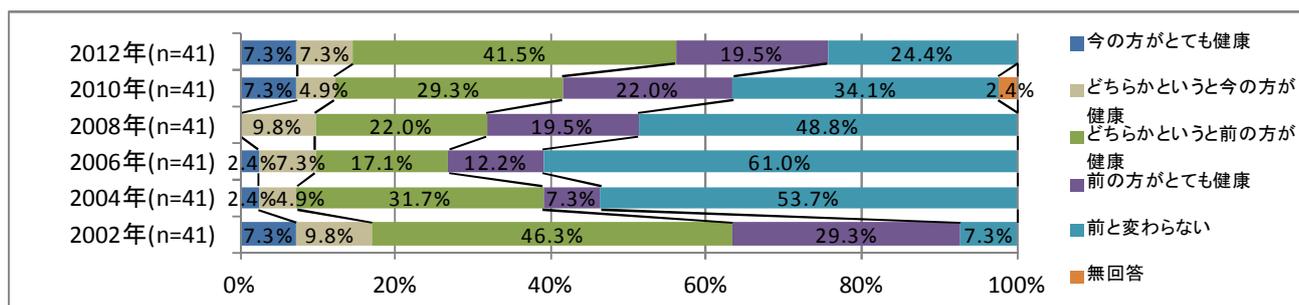
	前と変わらない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	38 (48.7%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	31 (39.7%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	39 (50.0%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	43 (55.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	44 (56.4%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	11 (14.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 2-8 今の健康状態（後期高齢期群）

	今の方がとても健康	どちらかという 今の方が健康	どちらかという 前の方が健康	前の方が とても健康
2012年(n=41)	3 (7.3%)	3 (7.3%)	17 (41.5%)	8 (19.5%)
2010年(n=41)	3 (7.3%)	2 (4.9%)	12 (29.3%)	9 (22.0%)
2008年(n=41)	0 (0.0%)	4 (9.8%)	9 (22.0%)	8 (19.5%)
2006年(n=41)	1 (2.4%)	3 (7.3%)	7 (17.1%)	5 (12.2%)
2004年(n=41)	1 (2.4%)	2 (4.9%)	13 (31.7%)	3 (7.3%)
2002年(n=41)	3 (7.3%)	4 (9.8%)	19 (46.3%)	12 (29.3%)

	前と変わらない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	10 (24.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	14 (34.1%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	20 (48.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	25 (61.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	22 (53.7%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■食欲はあるか

(全体の結果)

「食欲は非常にある」「食欲はある方」を合わせた「食欲はある」という回答は、すべての調査時で約9割を維持しており、大きな変化はみられない。一方「食欲は非常にある」という回答は、2006年調査時の53.7%をピークに漸減し、2012年調査時では31.1%と大きく減少している（-22.6ポイント）。（図表2-9）

(壮年期群→Y0)

「食欲は非常にある」「食欲はある方」を合わせた「食欲はある」という回答は、すべての調査時で約9割を維持しており、大きな変化はみられない。一方「食欲は非常にある」という回答は、2006年調査時の56.9%をピークに漸減し、2012年調査時では27.6%と大きく減少している（-29.3ポイント）。（図表2-10）

(前期高齢期群→00)

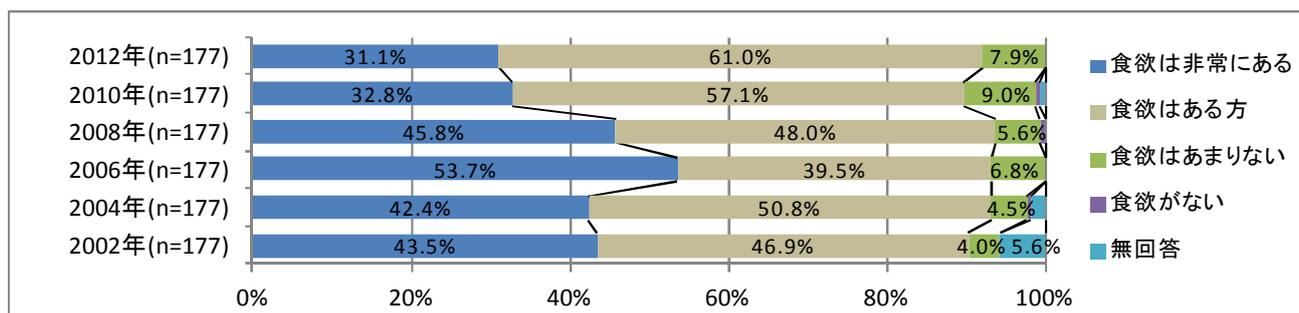
「食欲は非常にある」「食欲はある方」を合わせた「食欲はある」という回答は、すべての調査時で9割以上を維持しており、大きな変化はみられない。一方「食欲は非常にある」という回答は、2006年調査時の60.3%をピークに漸減し、2010年調査時では26.9%と大きく減少している（-33.4ポイント）。（図表2-11）

(後期高齢期群→0d0)

「食欲は非常にある」「食欲はある方」を合わせた「食欲はある」という回答は、すべての調査時で8割以上を維持しており、2012年調査時が97.6%と最も多い。一方「食欲は非常にある」という回答は、初回調査時（2002年）が29.3%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2008年調査時には39.0%と最も多くなっている（+9.7ポイント）。しかし、2008年調査時以降は漸減傾向にあり、2012年調査時には31.7%とやや減少している（-7.3ポイント）。（図表2-12）

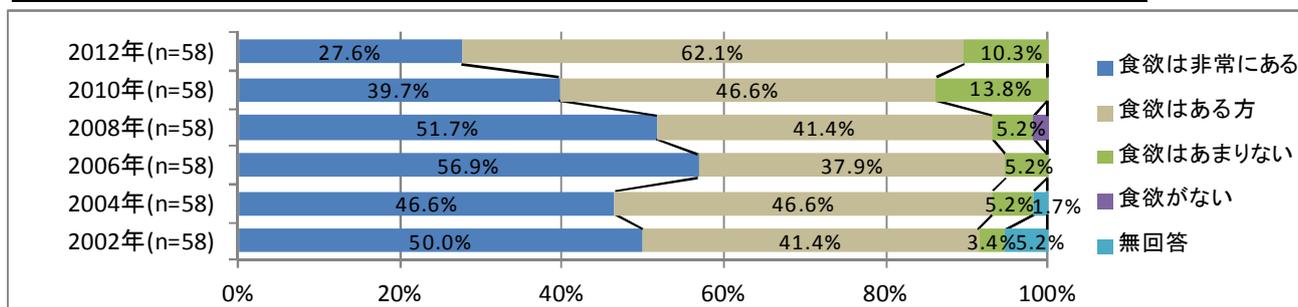
図表2-9 食欲はあるか（全体）

	食欲は非常にある	食欲はある方	食欲はあまりない	食欲がない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	55 (31.1%)	108 (61.0%)	14 (7.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	58 (32.8%)	101 (57.1%)	16 (9.0%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	81 (45.8%)	85 (48.0%)	10 (5.6%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	95 (53.7%)	70 (39.5%)	12 (6.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	75 (42.4%)	90 (50.8%)	8 (4.5%)	1 (0.6%)	3 (1.7%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	77 (43.5%)	83 (46.9%)	7 (4.0%)	0 (0.0%)	10 (5.6%)	177 (100.0%)	



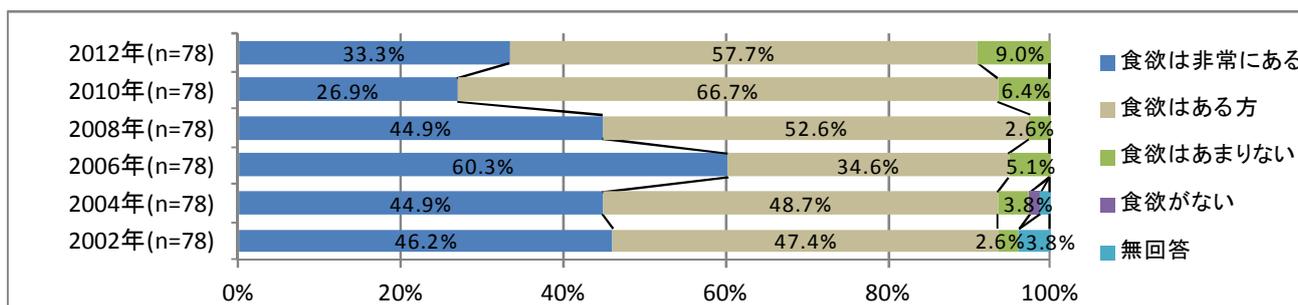
図表 2-10 食欲はあるか（壮年期群）

	食欲は非常にある	食欲はある方	食欲はあまりない	食欲がない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	16 (27.6%)	36 (62.1%)	6 (10.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	23 (39.7%)	27 (46.6%)	8 (13.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	30 (51.7%)	24 (41.4%)	3 (5.2%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	33 (56.9%)	22 (37.9%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	27 (46.6%)	27 (46.6%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	29 (50.0%)	24 (41.4%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	3 (5.2%)	58 (100.0%)	



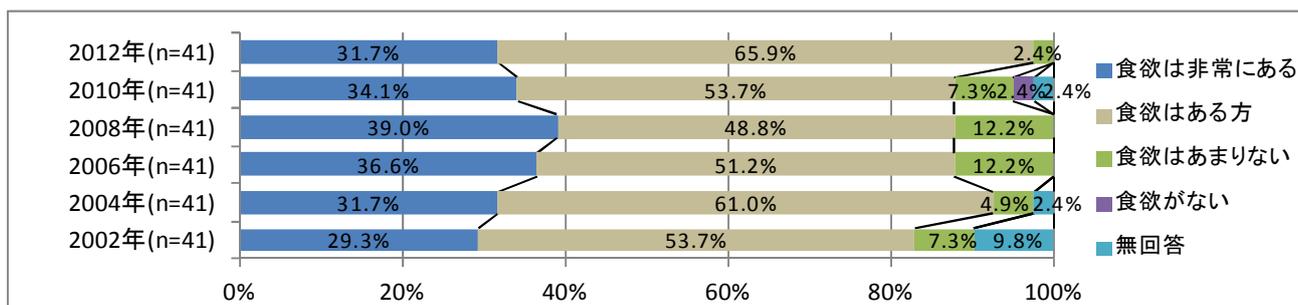
図表 2-11 食欲はあるか（前期高齢期群）

	食欲は非常にある	食欲はある方	食欲はあまりない	食欲がない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	26 (33.3%)	45 (57.7%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	21 (26.9%)	52 (66.7%)	5 (6.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	35 (44.9%)	41 (52.6%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	47 (60.3%)	27 (34.6%)	4 (5.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	35 (44.9%)	38 (48.7%)	3 (3.8%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	36 (46.2%)	37 (47.4%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	3 (3.8%)	78 (100.0%)	



図表 2-12 食欲はあるか（後期高齢期群）

	食欲は非常にある	食欲はある方	食欲はあまりない	食欲がない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	13 (31.7%)	27 (65.9%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	14 (34.1%)	22 (53.7%)	3 (7.3%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	16 (39.0%)	20 (48.8%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	15 (36.6%)	21 (51.2%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	13 (31.7%)	25 (61.0%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	12 (29.3%)	22 (53.7%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	4 (9.8%)	41 (100.0%)	



■今の食欲（前回調査時との比較）

（全体の結果）

食欲は「前と変わらない」という回答が最も多く、すべての調査時で6割以上を占めている。一方「前の方が食欲があった」という回答は、初回調査時（2002年）が27.7%と最も多いが、2004年調査時では10.2%と2年間で減少し（-17.5ポイント）、その後は1割～2割程度で推移している。（図表 2-13）

（壮年期群→Y0）

食欲は「前と変わらない」という回答が最も多く、すべての調査時で約8割を占めている。一方「前の方が食欲があった」という回答は、初回調査時（2002年）と2010年調査時がそれぞれ20.7%を占めているが、それ以外は1割程度で推移している。（図表 2-14）

（前期高齢期群→00）

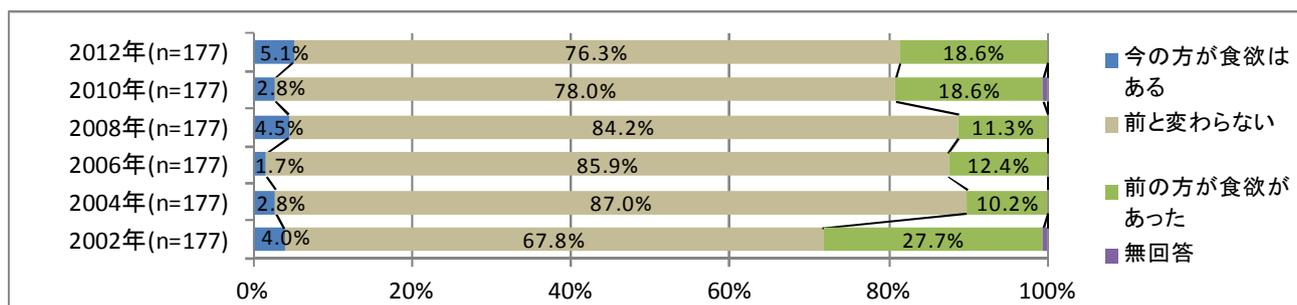
食欲は「前と変わらない」という回答が最も多く、すべての調査時でほぼ7割を超えている。一方「前の方が食欲があった」という回答は、2008年調査時が7.7%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時では26.9%と最も多くなっている（+19.2ポイント）。（図表 2-15）

（後期高齢期群→0d0）

食欲は「前と変わらない」という回答が最も多く、すべての調査時で半数以上を占めている。一方「前の方が食欲があった」という回答は、初回調査時（2002年）が43.9%と最も多いが、2004年調査時では17.1%と2年間で大きく減少している（-26.8ポイント）。2004年調査時以降はやや漸増傾向にあり、2010年調査時では24.4%となっているが（+7.3ポイント）、2012年調査時では17.1%と2年間で減少している（-7.3ポイント）。（図表 2-16）

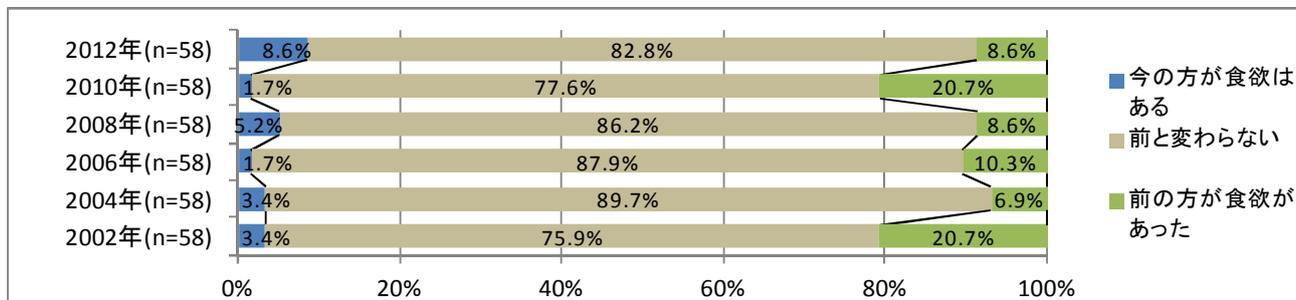
図表 2-13 今の食欲（全体）

	今の方が食欲はある	前と変わらない	前の方が食欲があった	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	9 (5.1%)	135 (76.3%)	33 (18.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	5 (2.8%)	138 (78.0%)	33 (18.6%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	8 (4.5%)	149 (84.2%)	20 (11.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	3 (1.7%)	152 (85.9%)	22 (12.4%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	5 (2.8%)	154 (87.0%)	18 (10.2%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	7 (4.0%)	120 (67.8%)	49 (27.7%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	



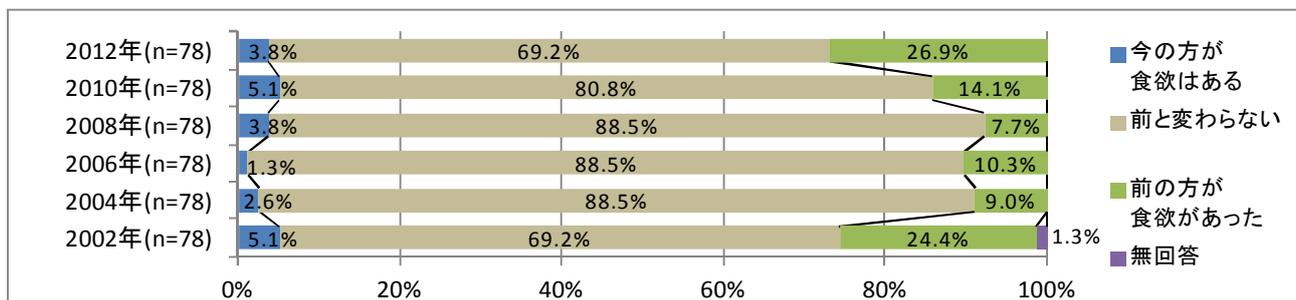
図表 2-14 今の食欲（壮年期群）

	今の方が食欲はある	前と変わらない	前の方が食欲があった	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	5 (8.6%)	48 (82.8%)	5 (8.6%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	1 (1.7%)	45 (77.6%)	12 (20.7%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	3 (5.2%)	50 (86.2%)	5 (8.6%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	1 (1.7%)	51 (87.9%)	6 (10.3%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	2 (3.4%)	52 (89.7%)	4 (6.9%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	2 (3.4%)	44 (75.9%)	12 (20.7%)	58 (100.0%)	



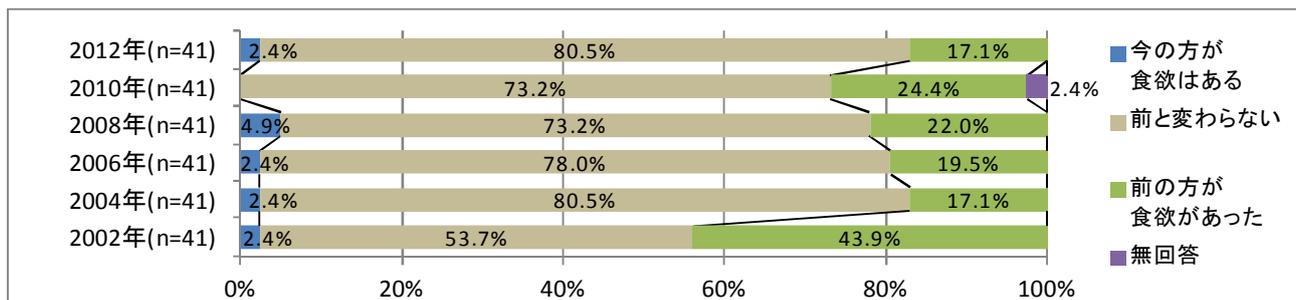
図表 2-15 今の食欲（前期高齢期群）

	今の方が食欲はある	前と変わらない	前の方が食欲があった	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	3 (3.8%)	54 (69.2%)	21 (26.9%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	4 (5.1%)	63 (80.8%)	11 (14.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	3 (3.8%)	69 (88.5%)	6 (7.7%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	1 (1.3%)	69 (88.5%)	8 (10.3%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	2 (2.6%)	69 (88.5%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	4 (5.1%)	54 (69.2%)	19 (24.4%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	



図表 2-16 今の食欲（後期高齢期群）

	今の方が食欲はある	前と変わらない	前の方が食欲があった	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	1 (2.4%)	33 (80.5%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	0 (0.0%)	30 (73.2%)	10 (24.4%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	2 (4.9%)	30 (73.2%)	9 (22.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	1 (2.4%)	32 (78.0%)	8 (19.5%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	1 (2.4%)	33 (80.5%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	1 (2.4%)	22 (53.7%)	18 (43.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■普段よく眠れるか

(全体の結果)

「よく眠れる」「まあ眠れる」を合わせた「眠れる」という回答は、すべての調査時において8割前後で推移している。2006年調査時の84.2%をピークに漸減傾向にあり、2010年調査時では74.0%と最も少なくなっている（-10.2ポイント）。しかし、2012年調査時では78.6%とわずかに増加がみられる（+4.6ポイント）。(図表 2-17)

(壮年期群→Y0)

「よく眠れる」「まあ眠れる」を合わせた「眠れる」という回答は、すべての調査時において7割以上で推移している。2004年調査時の89.6%をピークに漸減傾向にあり、2012年調査時では70.7%と最も少なくなっている（-18.9ポイント）。(図表 2-18)

(前期高齢期群→00)

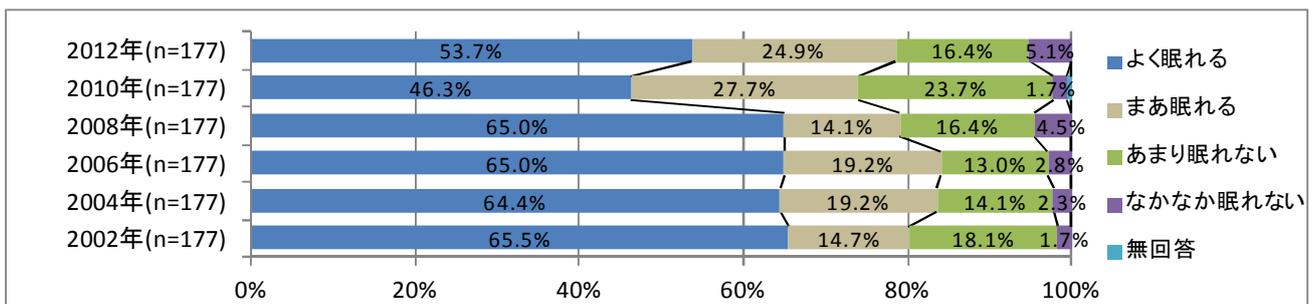
「よく眠れる」「まあ眠れる」を合わせた「眠れる」という回答は、すべての調査時において7割以上で推移している。2006年調査時から漸減傾向にあり、2010年調査時では78.2%となっているが（-5.1ポイント）、2012年調査時では84.6%とこれまでの調査で最も多くなっている（+6.4ポイント）。(図表 2-19)

(後期高齢期群→0d0)

「よく眠れる」「まあ眠れる」を合わせた「眠れる」という回答は、すべての調査時において6割以上で推移している。2006年調査時から漸減傾向にあり、2010年調査時では65.9%と最も少なくなっている（-17.0ポイント）。しかし、2012年調査時では78.0%と12.1ポイント増加している。(図表 2-20)

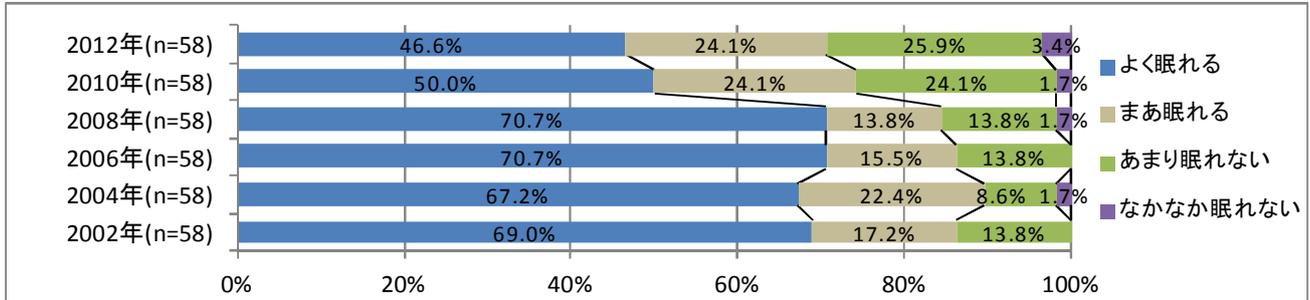
図表 7-17 ふだんよく眠れるか (全体)

	よく眠れる	まあ眠れる	あまり眠れない	なかなか眠れない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	95 (53.7%)	44 (24.9%)	29 (16.4%)	9 (5.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	82 (46.3%)	49 (27.7%)	42 (23.7%)	3 (1.7%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	115 (65.0%)	25 (14.1%)	29 (16.4%)	8 (4.5%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	115 (65.0%)	34 (19.2%)	23 (13.0%)	5 (2.8%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	114 (64.4%)	34 (19.2%)	25 (14.1%)	4 (2.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	116 (65.5%)	26 (14.7%)	32 (18.1%)	3 (1.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



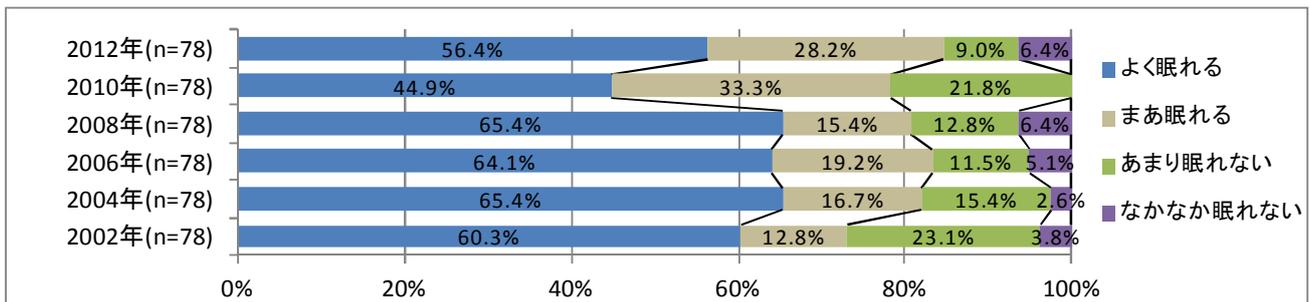
図表 2-18 ふだんよく眠れるか (壮年期群)

	よく眠れる	まあ眠れる	あまり眠れない	なかなか眠れない	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	27 (46.6%)	14 (24.1%)	15 (25.9%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	29 (50.0%)	14 (24.1%)	14 (24.1%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	41 (70.7%)	8 (13.8%)	8 (13.8%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	41 (70.7%)	9 (15.5%)	8 (13.8%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	39 (67.2%)	13 (22.4%)	5 (8.6%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	40 (69.0%)	10 (17.2%)	8 (13.8%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



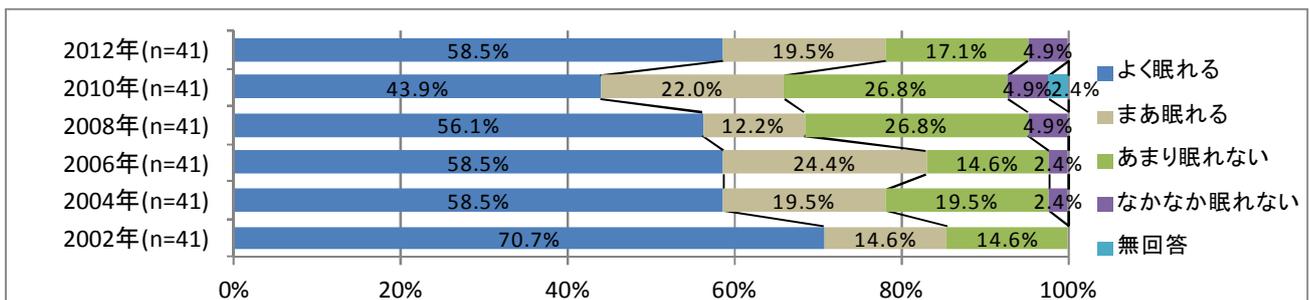
図表 2-19 ふだんよく眠れるか (前期高齢期群)

	よく眠れる	まあ眠れる	あまり眠れない	なかなか眠れない	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	44 (56.4%)	22 (28.2%)	7 (9.0%)	5 (6.4%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	35 (44.9%)	26 (33.3%)	17 (21.8%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	51 (65.4%)	12 (15.4%)	10 (12.8%)	5 (6.4%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	50 (64.1%)	15 (19.2%)	9 (11.5%)	4 (5.1%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	51 (65.4%)	13 (16.7%)	12 (15.4%)	2 (2.6%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	47 (60.3%)	10 (12.8%)	18 (23.1%)	3 (3.8%)	78 (100.0%)	



図表 2-20 ふだんよく眠れるか (後期高齢期群)

	よく眠れる	まあ眠れる	あまり眠れない	なかなか眠れない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	24 (58.5%)	8 (19.5%)	7 (17.1%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	18 (43.9%)	9 (22.0%)	11 (26.8%)	2 (4.9%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	23 (56.1%)	5 (12.2%)	11 (26.8%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	24 (58.5%)	10 (24.4%)	6 (14.6%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	24 (58.5%)	8 (19.5%)	8 (19.5%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	29 (70.7%)	6 (14.6%)	6 (14.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■どのような感じで眠れないのか

(「Q. 普段よく眠れるか」で「あまり眠れない」「なかなか眠れない」と回答した人のみ)

(全体の結果)

初回調査時(2002年)は「寝つきが悪い」という回答が半数以上と最も多いが、2004年調査時以降は「眠りが浅く途中で目覚める」という回答が最も多く、半数以上を占めているが、2010年調査時以降は6割を超えている。(図表 2-21)

(壮年期群→Y0)

「眠りが浅く途中で目覚める」という回答は、初回調査時(2002年)が75.0%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2008年調査時では44.4%と大きく減少している(-30.6ポイント)。しかし、2008年調査時以降は漸増し、2012年調査時では70.6%に増加している(+26.2ポイント)。「寝つきが悪い」という回答は、2004年調査時が66.7%と最も多いが、その後は3割~4割で推移し、2012年調査時では17.6%と最も少ない。(図表 2-22)

(前期高齢期群→00)

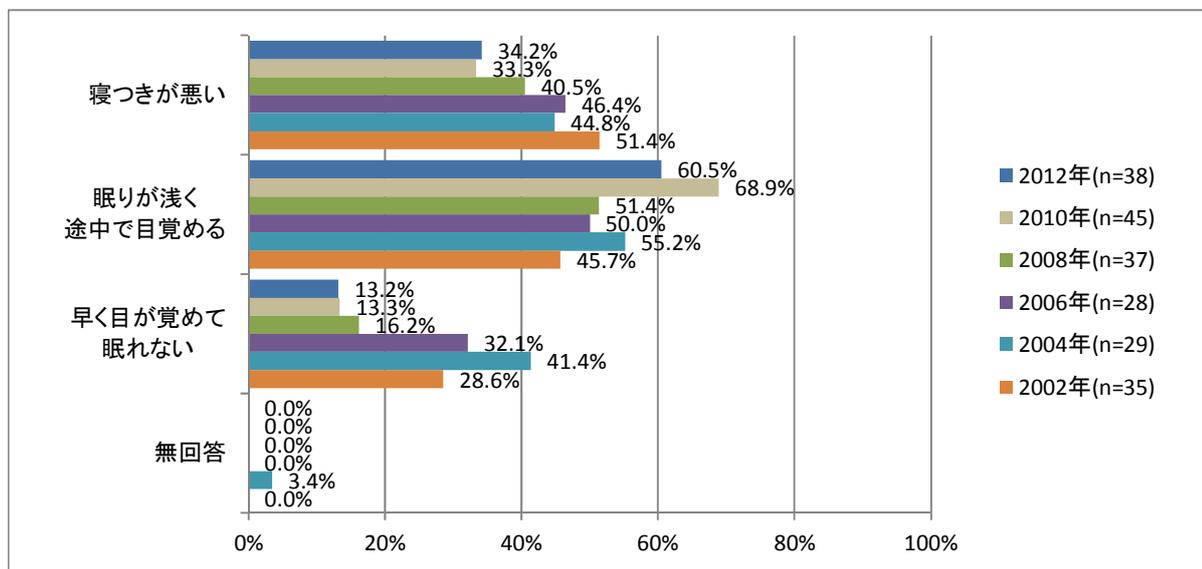
初回調査時(2002年)は「寝つきが悪い」という回答が47.6%と最も多いが、2004年調査時以降は「眠りが浅く途中で目覚める」という回答が半数以上と最も多く、2010年調査時以降は7割を超えている。(図表 2-23)

(後期高齢期群→0d0)

「寝つきが悪い」という回答は、初回調査時(2002年)が83.3%と最も多く、その後は2006年調査時を除いて漸減傾向にあり、2010年調査時では30.8%と大幅に減少している(-52.5ポイント)。しかし、2012年調査時では66.7%と2年間で大きく増加している(+35.9ポイント)。「眠りが浅く途中で目覚める」という回答は、2004年調査時、2008年調査時、2010年調査時には半数を超えているが、それ以外は2割~3割を占めており、2012年調査時が22.2%と最も少ない。(図表 2-24)

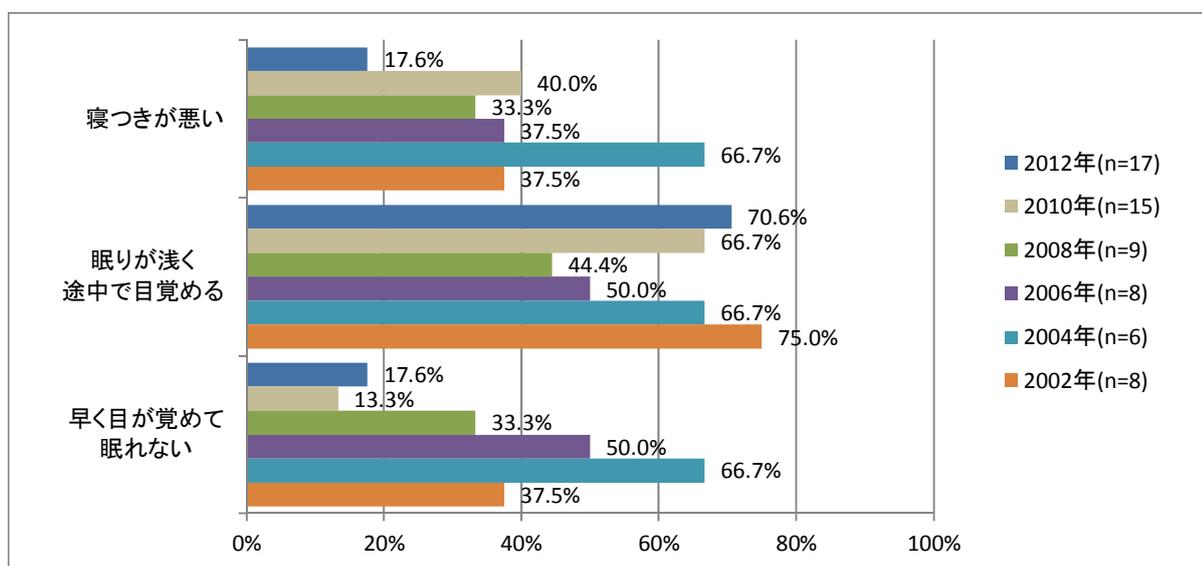
図表 2-21 どのような感じで眠れないのか（全体）※複数回答

	寝つきが悪い	眠りが浅く途中で目覚める	早く目が覚めて眠れない	無回答	回答数	回答数(割合)
2012年(n=38)	13 (34.2%)	23 (60.5%)	5 (13.2%)	0 (0.0%)	41	
2010年(n=45)	15 (33.3%)	31 (68.9%)	6 (13.3%)	0 (0.0%)	52	
2008年(n=37)	15 (40.5%)	19 (51.4%)	6 (16.2%)	0 (0.0%)	40	
2006年(n=28)	13 (46.4%)	14 (50.0%)	9 (32.1%)	0 (0.0%)	36	
2004年(n=29)	13 (44.8%)	16 (55.2%)	12 (41.4%)	1 (3.4%)	42	
2002年(n=35)	18 (51.4%)	16 (45.7%)	10 (28.6%)	0 (0.0%)	44	



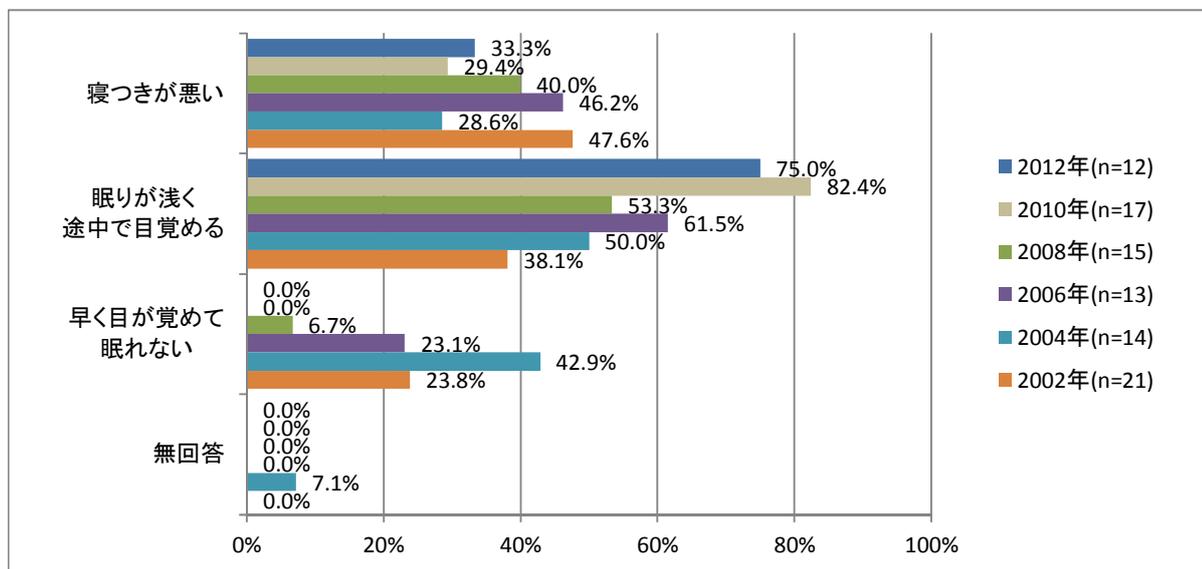
図表 2-22 どのような感じで眠れないのか（壮年期群）※複数回答

	寝つきが悪い	眠りが浅く途中で目覚める	早く目が覚めて眠れない	回答数	回答数(割合)
2012年(n=17)	3 (17.6%)	12 (70.6%)	3 (17.6%)	18	
2010年(n=15)	6 (40.0%)	10 (66.7%)	2 (13.3%)	18	
2008年(n=9)	3 (33.3%)	4 (44.4%)	3 (33.3%)	10	
2006年(n=8)	3 (37.5%)	4 (50.0%)	4 (50.0%)	11	
2004年(n=6)	4 (66.7%)	4 (66.7%)	4 (66.7%)	12	
2002年(n=8)	3 (37.5%)	6 (75.0%)	3 (37.5%)	12	



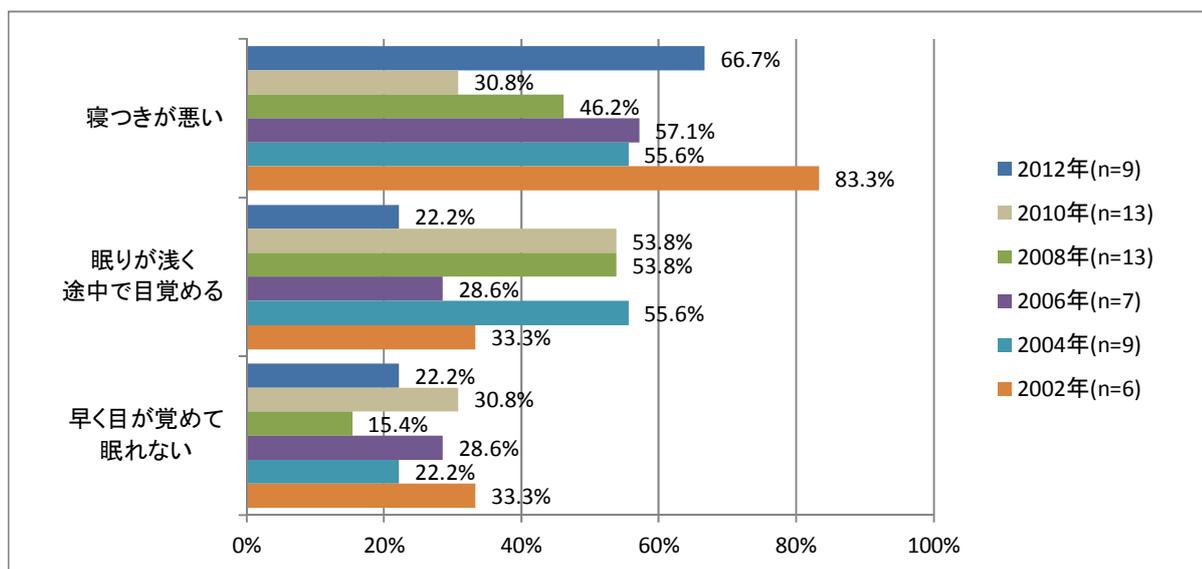
図表 2-23 どのような感じで眠れないのか(前期高齢期群) ※複数回答

	寝つきが悪い	眠りが浅く途中で目覚める	早く目が覚めて眠れない	無回答	回答数	回答数(割合)
2012年(n=12)	4 (33.3%)	9 (75.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13	
2010年(n=17)	5 (29.4%)	14 (82.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19	
2008年(n=15)	6 (40.0%)	8 (53.3%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	15	
2006年(n=13)	6 (46.2%)	8 (61.5%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)	17	
2004年(n=14)	4 (28.6%)	7 (50.0%)	6 (42.9%)	1 (7.1%)	18	
2002年(n=21)	10 (47.6%)	8 (38.1%)	5 (23.8%)	0 (0.0%)	23	



図表 2-24 どのような感じで眠れないのか(後期高齢期群) ※複数回答

	寝つきが悪い	眠りが浅く途中で目覚める	早く目が覚めて眠れない	回答数	回答数(割合)
2012年(n=9)	6 (66.7%)	2 (22.2%)	2 (22.2%)	10	
2010年(n=13)	4 (30.8%)	7 (53.8%)	4 (30.8%)	15	
2008年(n=13)	6 (46.2%)	7 (53.8%)	2 (15.4%)	15	
2006年(n=7)	4 (57.1%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	8	
2004年(n=9)	5 (55.6%)	5 (55.6%)	2 (22.2%)	12	
2002年(n=6)	5 (83.3%)	2 (33.3%)	2 (33.3%)	9	



■今の睡眠（前回調査時との比較）

（全体の結果）

睡眠状況は「前と変わらない」という回答が最も多く、すべての調査時で6割以上を占めている。「前の方がよく眠れた」という回答は、初回調査時（2002年）が25.4%と最も多いが、2004年調査時では13.0%に減少している（-12.4ポイント）。2004年調査時以降はやや漸増傾向にあり、2010年調査時では18.6%となっている（+5.6ポイント）。（図表2-25）

（壮年期群→Y0）

睡眠状況は「前と変わらない」という回答が最も多く、すべての調査時で6割以上を占めている。「前の方がよく眠れた」という回答は、初回調査時（2002年）から増減を示しながら1割～2割程度で推移しており、2010年調査時が22.4%と最も多い。（図表2-26）

（前期高齢期群→00）

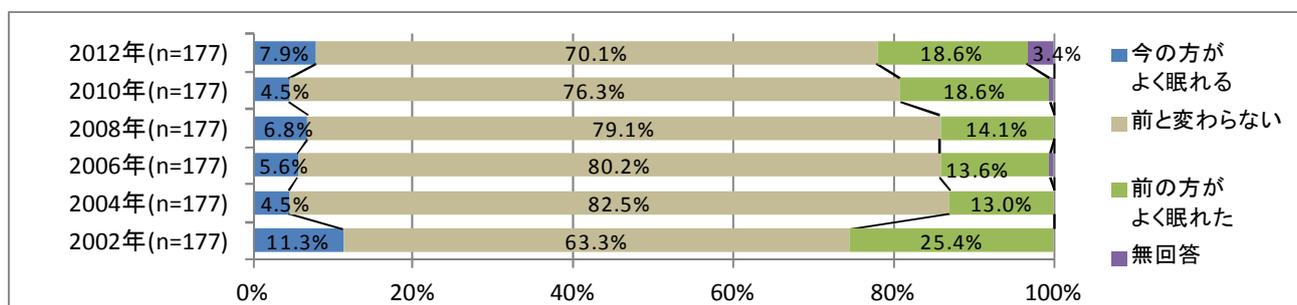
睡眠状況について「前と変わらない」という回答は、すべての調査時で6割以上を占めているが、2008年調査時から漸減傾向にあり、2012年調査時では66.7%に減少している（-15.4ポイント）。「前の方がよく眠れた」という回答は、初回調査時（2002年）が29.5%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2006年調査時では10.3%に減少している（-19.2ポイント）。2008年調査時以降は漸増傾向にあり、2012年調査時では20.5%となっている（+10.2ポイント）。（図表2-27）

（後期高齢期群→0d0）

睡眠状況について「前と変わらない」という回答は、初回調査時（2002年）が63.4%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2006年調査時では85.4%と最も多い（+22.0ポイント）。2006年調査時以降は漸減し、2012年調査時では65.9%となっている（-19.5ポイント）。「前の方がよく眠れた」という回答は、初回調査時（2002年）が26.8%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2006年調査時では9.8%と最も少ない（-17.0ポイント）。2006年調査時以降は漸増傾向にあり、2010年調査時では22.0%となっている（+12.2ポイント）。（図表2-28）

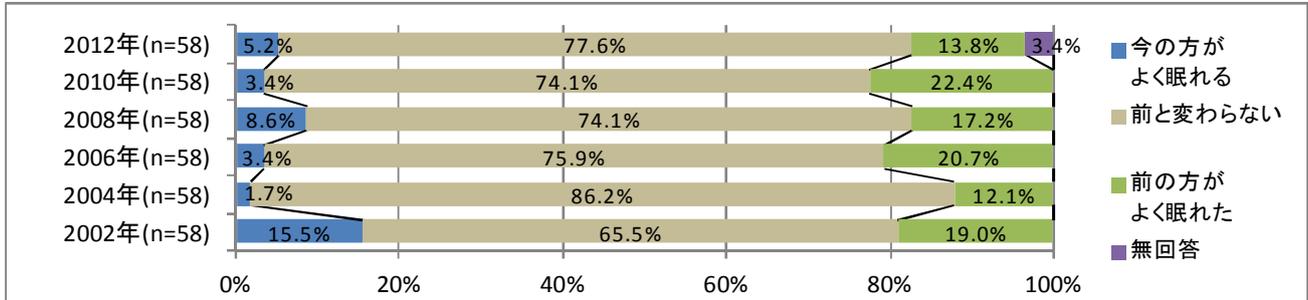
図表2-25 今の睡眠（全体）

	今の方がよく眠れる	前と変わらない	前の方がよく眠れた	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	14 (7.9%)	124 (70.1%)	33 (18.6%)	6 (3.4%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	8 (4.5%)	135 (76.3%)	33 (18.6%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	12 (6.8%)	140 (79.1%)	25 (14.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	10 (5.6%)	142 (80.2%)	24 (13.6%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	8 (4.5%)	146 (82.5%)	23 (13.0%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	20 (11.3%)	112 (63.3%)	45 (25.4%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



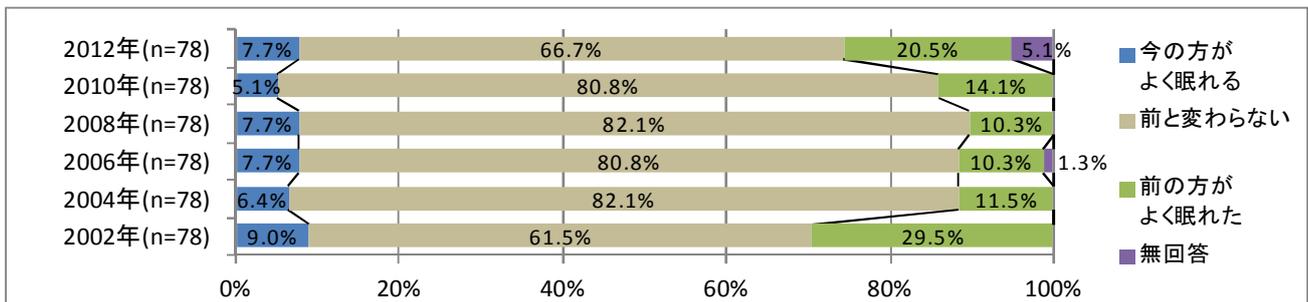
図表 2-26 今の睡眠 (壮年期群)

	今の方がよく眠れる	前と変わらない	前の方がよく眠れた	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	3 (5.2%)	45 (77.6%)	8 (13.8%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	2 (3.4%)	43 (74.1%)	13 (22.4%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	5 (8.6%)	43 (74.1%)	10 (17.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	2 (3.4%)	44 (75.9%)	12 (20.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	1 (1.7%)	50 (86.2%)	7 (12.1%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	9 (15.5%)	38 (65.5%)	11 (19.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



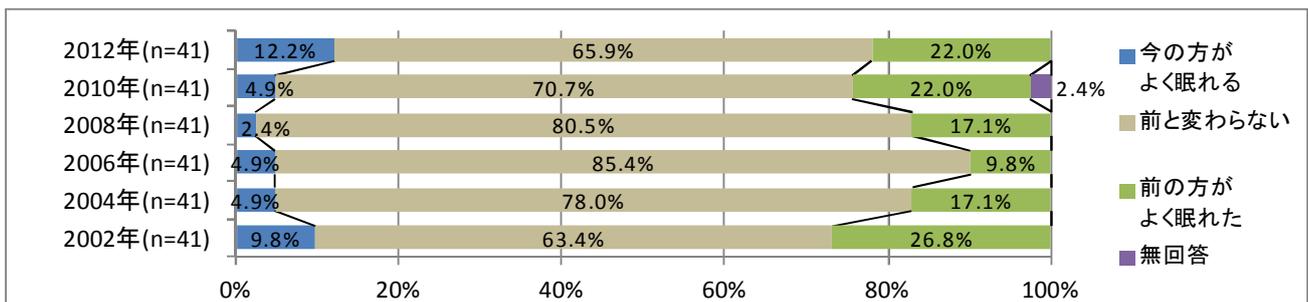
図表 2-27 今の睡眠 (前期高齢期群)

	今の方がよく眠れる	前と変わらない	前の方がよく眠れた	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	6 (7.7%)	52 (66.7%)	16 (20.5%)	4 (5.1%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	4 (5.1%)	63 (80.8%)	11 (14.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	6 (7.7%)	64 (82.1%)	8 (10.3%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	6 (7.7%)	63 (80.8%)	8 (10.3%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	5 (6.4%)	64 (82.1%)	9 (11.5%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	7 (9.0%)	48 (61.5%)	23 (29.5%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 2-28 今の睡眠 (後期高齢期群)

	今の方がよく眠れる	前と変わらない	前の方がよく眠れた	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	5 (12.2%)	27 (65.9%)	9 (22.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	2 (4.9%)	29 (70.7%)	9 (22.0%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	1 (2.4%)	33 (80.5%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	2 (4.9%)	35 (85.4%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	2 (4.9%)	32 (78.0%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	4 (9.8%)	26 (63.4%)	11 (26.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■お通じ（排便）の具合

（全体の結果）

お通じが「非常に良い」「良い方」を合わせた「お通じが良い」という回答は、すべての調査時で8割前後を占めている。2006年調査時の91.0%をピークに漸減し、2012年調査時では76.3%と最も少なくなっている（-14.7ポイント）。一方、お通じが「非常に良い」という回答は、2004年調査時が61.6%と最も多いが、その後は漸減傾向にあり、2012年調査時では37.3%と大きく減少している（-24.3ポイント）。（図表2-29）

（壮年期群→Y0）

お通じが「非常に良い」「良い方」を合わせた「お通じが良い」という回答は、すべての調査時で8割以上を占めている。2008年調査時から漸減傾向にあり、2012年調査時では86.2%と最も少なくなっている（-6.9ポイント）。一方、お通じが「非常に良い」という回答は、2006年調査時から漸増傾向にあり、2010年調査時では62.1%となっている（+8.7ポイント）。しかし、2012年調査時では41.4%と2年間で大きく減少している（-20.7ポイント）。（図表2-30）

（前期高齢期群→00）

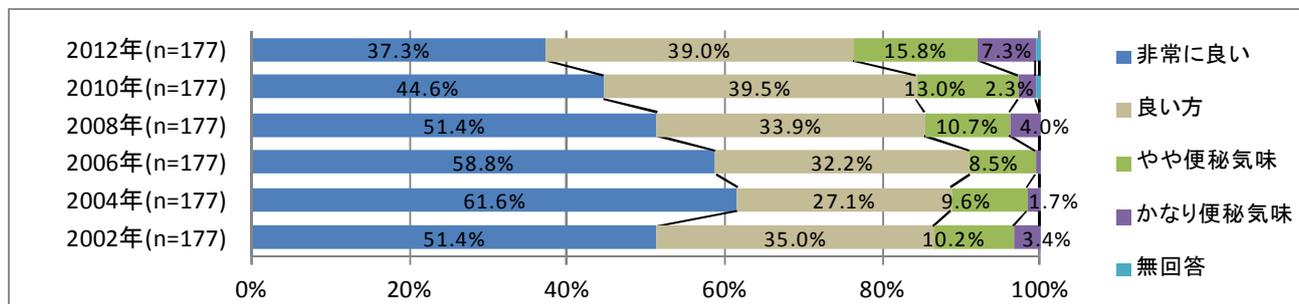
お通じが「非常に良い」「良い方」を合わせた「お通じが良い」という回答は、初回調査時（2002年）から2010年調査時までほぼ9割で推移しているが、2012年調査時では79.5%と最も少ない。一方、お通じが「非常に良い」という回答は、2006年調査時の66.7%をピークに漸減し、2010年調査時では37.2%と大きく減少している（-29.5ポイント）。（図表2-31）

（後期高齢期群→0d0）

お通じが「非常に良い」「良い方」を合わせた「お通じが良い」という回答は、2006年調査時の82.9%をピークに漸減し、2012年調査時では56.1%と最も少ない（-26.8ポイント）。一方、お通じが「非常に良い」という回答は、2004年調査時が58.5%と最も多く、その後は漸減し、2012年調査時では24.4%と大きく減少している（-34.1ポイント）。（図表2-32）

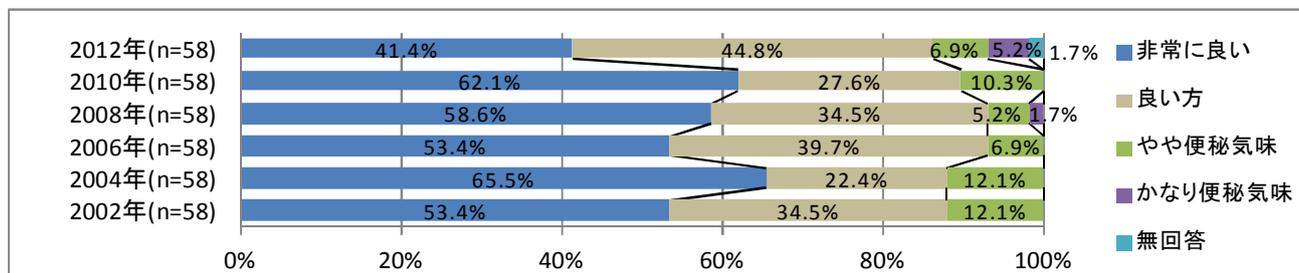
図表2-29 お通じ（排便）の具合（全体）

	非常に良い	良い方	やや便秘気味	かなり便秘気味	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	66 (37.3%)	69 (39.0%)	28 (15.8%)	13 (7.3%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	79 (44.6%)	70 (39.5%)	23 (13.0%)	4 (2.3%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	91 (51.4%)	60 (33.9%)	19 (10.7%)	7 (4.0%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	104 (58.8%)	57 (32.2%)	15 (8.5%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	109 (61.6%)	48 (27.1%)	17 (9.6%)	3 (1.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	91 (51.4%)	62 (35.0%)	18 (10.2%)	6 (3.4%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



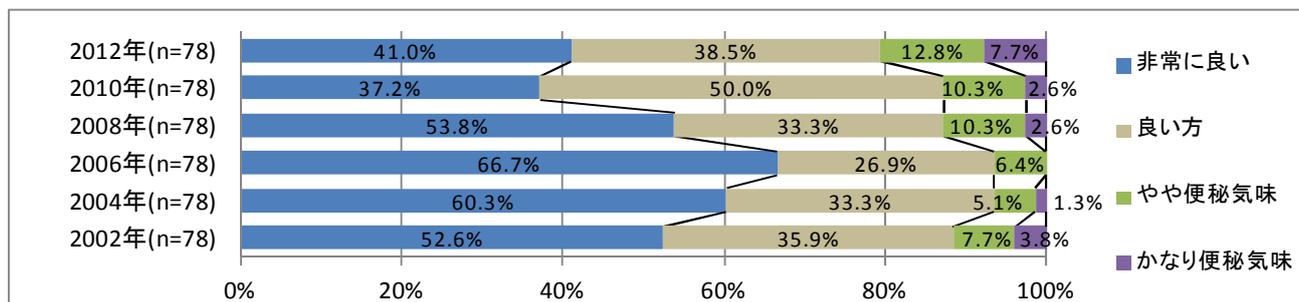
図表 2-30 お通じ（排便）の具合（壮年期群）

	非常に良い	良い方	やや便秘気味	かなり便秘気味	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	24 (41.4%)	26 (44.8%)	4 (6.9%)	3 (5.2%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	36 (62.1%)	16 (27.6%)	6 (10.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	34 (58.6%)	20 (34.5%)	3 (5.2%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	31 (53.4%)	23 (39.7%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	38 (65.5%)	13 (22.4%)	7 (12.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	31 (53.4%)	20 (34.5%)	7 (12.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



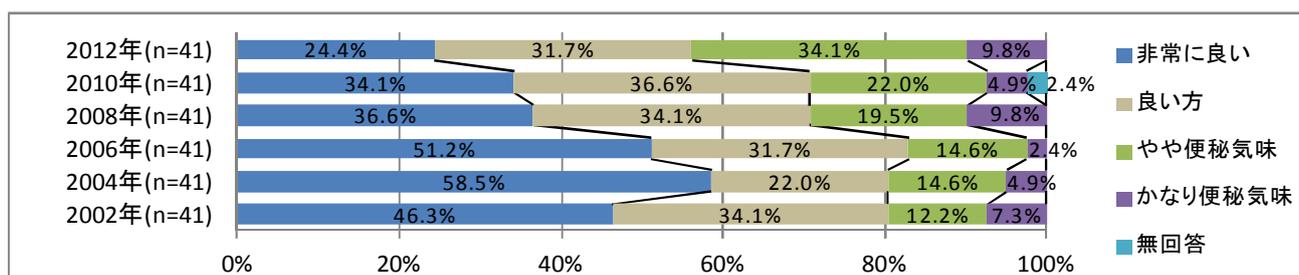
図表 2-31 お通じ（排便）の具合（前期高齢期群）

	非常に良い	良い方	やや便秘気味	かなり便秘気味	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	32 (41.0%)	30 (38.5%)	10 (12.8%)	6 (7.7%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	29 (37.2%)	39 (50.0%)	8 (10.3%)	2 (2.6%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	42 (53.8%)	26 (33.3%)	8 (10.3%)	2 (2.6%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	52 (66.7%)	21 (26.9%)	5 (6.4%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	47 (60.3%)	26 (33.3%)	4 (5.1%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	41 (52.6%)	28 (35.9%)	6 (7.7%)	3 (3.8%)	78 (100.0%)	



図表 2-32 お通じ（排便）の具合（後期高齢期群）

	非常に良い	良い方	やや便秘気味	かなり便秘気味	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	10 (24.4%)	13 (31.7%)	14 (34.1%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	14 (34.1%)	15 (36.6%)	9 (22.0%)	2 (4.9%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	15 (36.6%)	14 (34.1%)	8 (19.5%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	21 (51.2%)	13 (31.7%)	6 (14.6%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	24 (58.5%)	9 (22.0%)	6 (14.6%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	19 (46.3%)	14 (34.1%)	5 (12.2%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■今の排便（前回調査時との比較）

（全体の結果）

排便状況について「前と変わらない」という回答は、すべての調査時で7割以上を維持している。2004年調査時が89.8%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2012年調査時では75.1%と最も少ない（-14.7ポイント）。一方「前の方が便通は良かった」という回答は、2004年調査時が4.5%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時では14.7%と最も多くなっている（+10.2ポイント）。(図表 2-33)

（壮年期群→Y0）

排便状況について「前と変わらない」という回答は、すべての調査時でほぼ8割を超えているが、2006年調査時から漸減傾向にあり、2012年調査時では77.6%となっている（-12.1ポイント）。一方「前の方が便通は良かった」という回答は、2004年調査時が3.4%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2010年調査時では8.6%となっている（+5.2ポイント）。(図表 2-34)

（前期高齢期群→00）

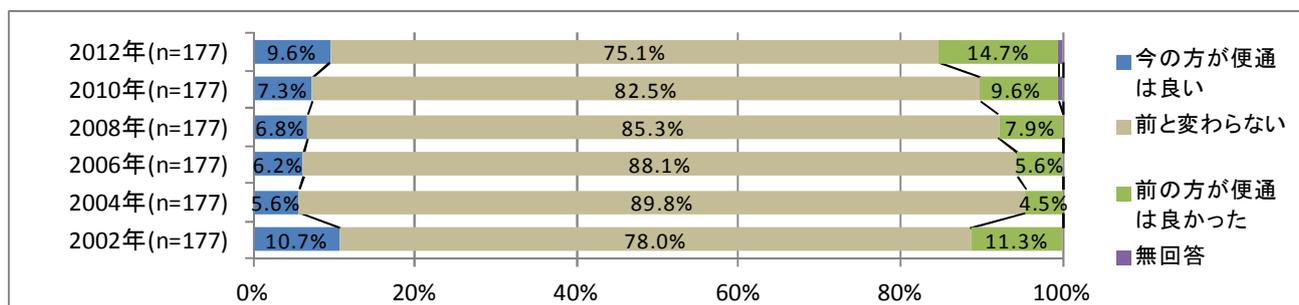
排便状況について「前と変わらない」という回答は、すべての調査時で8割以上を維持している。2004年調査時が92.3%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2012年調査時では80.8%と最も少なくなっている（-11.5ポイント）。一方「前の方が便通は良かった」という回答は、2006年調査時から漸増傾向にあり、2010年調査時では12.8%と最も多くなっている（+7.7ポイント）。(図表 2-35)

（後期高齢期群→0d0）

排便状況について「前と変わらない」という回答は、すべての調査時で6割以上を維持している。2004年調査時が85.4%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2012年調査時では61.0%と大きく減少している（-24.4ポイント）。一方「前の方が便通は良かった」という回答は、2004年調査時が4.9%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2010年調査時では26.8%と大きく増加している（+21.9ポイント）。(図表 2-36)

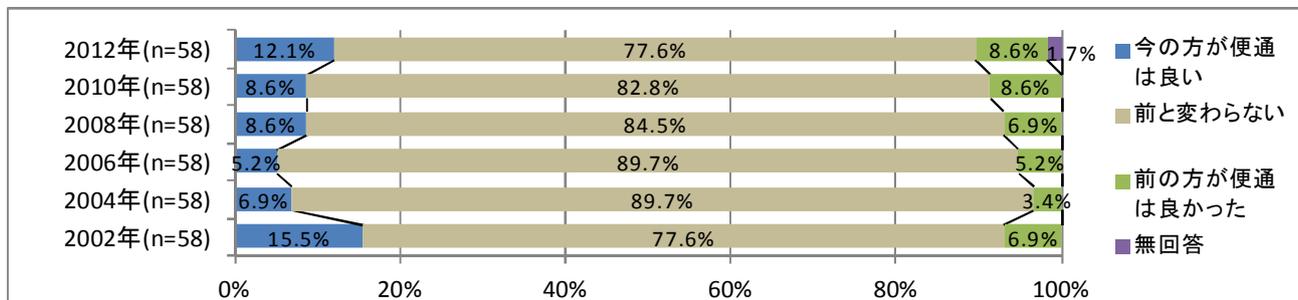
図表 2-33 今の排便（全体）

	今の方が便通は良い	前と変わらない	前の方が便通は良かった	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	17 (9.6%)	133 (75.1%)	26 (14.7%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	13 (7.3%)	146 (82.5%)	17 (9.6%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	12 (6.8%)	151 (85.3%)	14 (7.9%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	11 (6.2%)	156 (88.1%)	10 (5.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	10 (5.6%)	159 (89.8%)	8 (4.5%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	19 (10.7%)	138 (78.0%)	20 (11.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



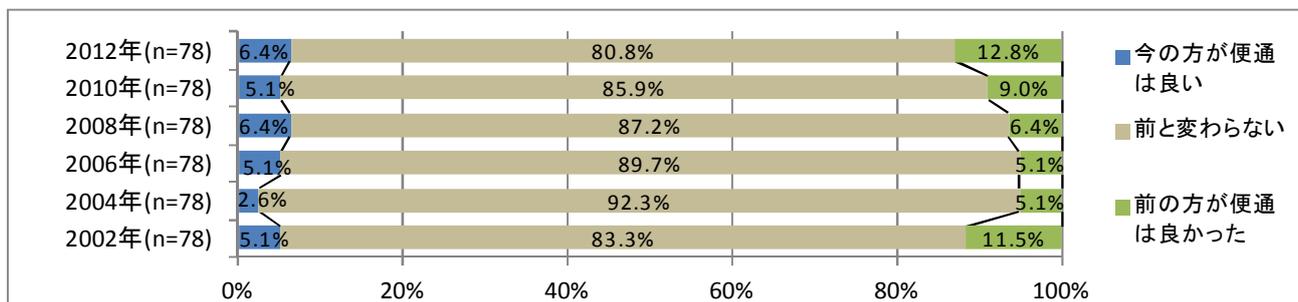
図表 2-34 今の排便（壮年期群）

	今の方が便通は良い	前と変わらない	前の方が便通は良かった	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	7 (12.1%)	45 (77.6%)	5 (8.6%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	5 (8.6%)	48 (82.8%)	5 (8.6%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	5 (8.6%)	49 (84.5%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	3 (5.2%)	52 (89.7%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	4 (6.9%)	52 (89.7%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	9 (15.5%)	45 (77.6%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



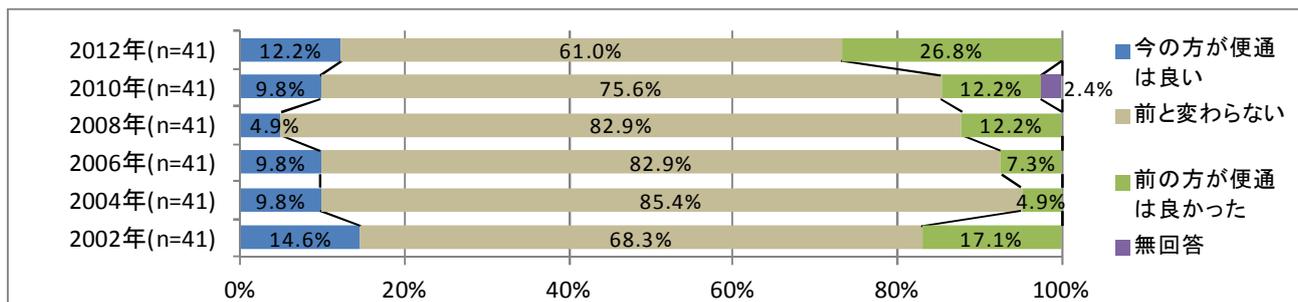
図表 2-35 今の排便（前期高齢期群）

	今の方が便通は良い	前と変わらない	前の方が便通は良かった	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	5 (6.4%)	63 (80.8%)	10 (12.8%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	4 (5.1%)	67 (85.9%)	7 (9.0%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	5 (6.4%)	68 (87.2%)	5 (6.4%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	4 (5.1%)	70 (89.7%)	4 (5.1%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	2 (2.6%)	72 (92.3%)	4 (5.1%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	4 (5.1%)	65 (83.3%)	9 (11.5%)	78 (100.0%)	



図表 2-36 今の排便（後期高齢期群）

	今の方が便通は良い	前と変わらない	前の方が便通は良かった	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	5 (12.2%)	25 (61.0%)	11 (26.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	4 (9.8%)	31 (75.6%)	5 (12.2%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	2 (4.9%)	34 (82.9%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	4 (9.8%)	34 (82.9%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	4 (9.8%)	35 (85.4%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	6 (14.6%)	28 (68.3%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



3) Life history

■これまで生活してきて一番楽しかったこと

(全体の結果)

これまでの生活で一番楽しかったことは、初回調査時（2002年）から2008年調査時まで「家庭」に関する回答が最も多く、約3割を占めているが、2010年調査時以降は「仕事」に関する回答が3割程度と最も多くなっている。「仕事」に関する回答は、2006年調査時が16.9%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時では31.1%と最も多くなっている（+14.2ポイント）。（図表3-1）

(壮年期群→Y0)

これまでの生活で一番楽しかったことは、「家庭」に関する回答が最も多く、すべての調査時で約3割～4割を占めているが、2006年調査時が41.4%と最も多い。「仕事」に関する回答は、初回調査時（2002年）から2008年調査時まで2割程度で推移しているが、2010年調査時以降は29.3%と3割近くに増加している。（図表3-2）

(前期高齢期群→00)

これまでの生活で一番楽しかったことは、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで「家庭」に関する回答が最も多く、約3割を占めているが、2012年調査時では「仕事」に関する回答が34.6%と最も多くなっている。「仕事」に関する回答は、2006年調査時が16.7%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時では34.6%と最も多くなっている（+17.9ポイント）。（図表3-3）

(後期高齢期群→0d0)

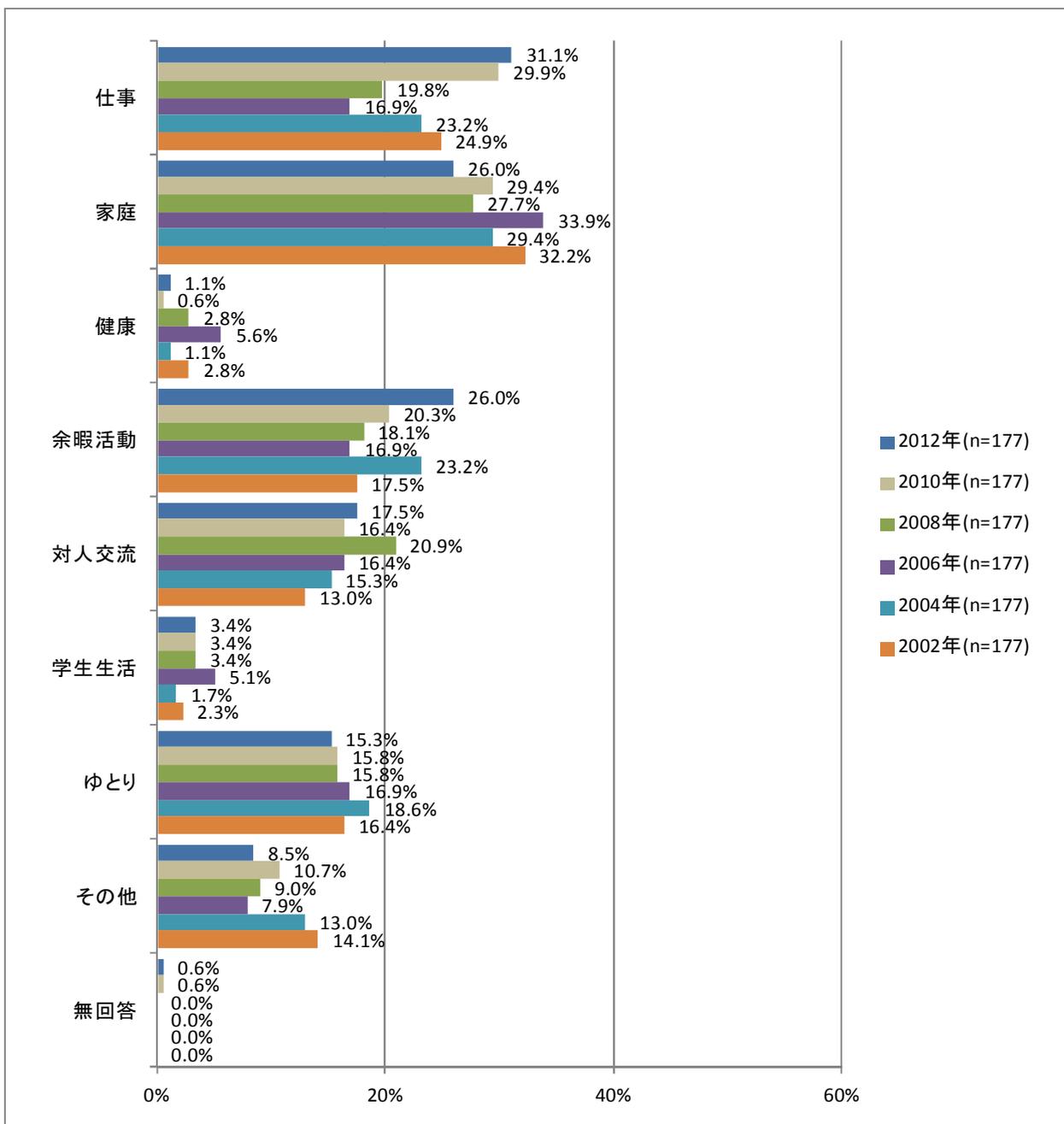
これまでの生活で一番楽しかったことのうち「家庭」に関する回答は、初回調査時（2002年）が36.6%と最も多く、2004年調査時以降は2割前後で推移し、2010年調査時以降は1割程度に減少している。「余暇活動」に関する回答は、2006年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時では31.7%と最も多い（+17.1ポイント）。「仕事」に関する回答は、2006年調査時が12.2%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2010年調査時では29.3%と最も多くなっている（+17.1ポイント）。（図表3-4）

図表 3-1 これまで生活してきて一番楽しかったこと（全体）※複数回答

	仕事	家庭	健康	余暇活動	対人交流	学生生活
2012年(n=177)	55 (31.1%)	46 (26.0%)	2 (1.1%)	46 (26.0%)	31 (17.5%)	6 (3.4%)
2010年(n=177)	53 (29.9%)	52 (29.4%)	1 (0.6%)	36 (20.3%)	29 (16.4%)	6 (3.4%)
2008年(n=177)	35 (19.8%)	49 (27.7%)	5 (2.8%)	32 (18.1%)	37 (20.9%)	6 (3.4%)
2006年(n=177)	30 (16.9%)	60 (33.9%)	10 (5.6%)	30 (16.9%)	29 (16.4%)	9 (5.1%)
2004年(n=177)	41 (23.2%)	52 (29.4%)	2 (1.1%)	41 (23.2%)	27 (15.3%)	3 (1.7%)
2002年(n=177)	44 (24.9%)	57 (32.2%)	5 (2.8%)	31 (17.5%)	23 (13.0%)	4 (2.3%)

	ゆとり	その他	無回答	回答数
2012年(n=177)	27 (15.3%)	15 (8.5%)	1 (0.6%)	229
2010年(n=177)	28 (15.8%)	19 (10.7%)	1 (0.6%)	225
2008年(n=177)	28 (15.8%)	16 (9.0%)	0 (0.0%)	208
2006年(n=177)	30 (16.9%)	14 (7.9%)	0 (0.0%)	212
2004年(n=177)	33 (18.6%)	23 (13.0%)	0 (0.0%)	222
2002年(n=177)	29 (16.4%)	25 (14.1%)	0 (0.0%)	218

回答数(割合)

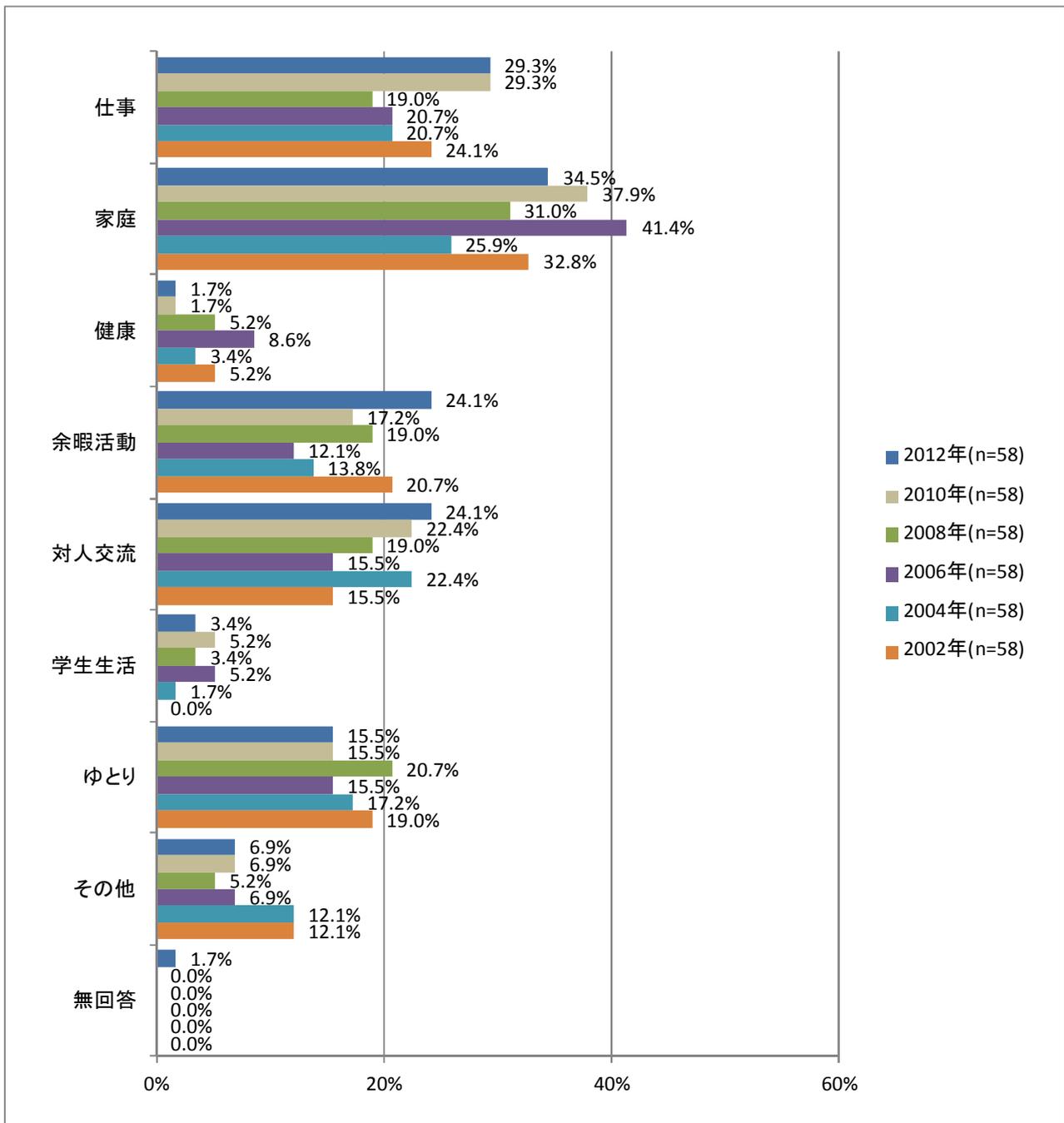


図表 3-2 これまで生活してきた一番楽しかったこと（壮年期群）※複数回答

	仕事	家庭	健康	余暇活動	対人交流	学生生活
2012年(n=58)	17 (29.3%)	20 (34.5%)	1 (1.7%)	14 (24.1%)	14 (24.1%)	2 (3.4%)
2010年(n=58)	17 (29.3%)	22 (37.9%)	1 (1.7%)	10 (17.2%)	13 (22.4%)	3 (5.2%)
2008年(n=58)	11 (19.0%)	18 (31.0%)	3 (5.2%)	11 (19.0%)	11 (19.0%)	2 (3.4%)
2006年(n=58)	12 (20.7%)	24 (41.4%)	5 (8.6%)	7 (12.1%)	9 (15.5%)	3 (5.2%)
2004年(n=58)	12 (20.7%)	15 (25.9%)	2 (3.4%)	8 (13.8%)	13 (22.4%)	1 (1.7%)
2002年(n=58)	14 (24.1%)	19 (32.8%)	3 (5.2%)	12 (20.7%)	9 (15.5%)	0 (0.0%)

	ゆとり	その他	無回答	回答数
2012年(n=58)	9 (15.5%)	4 (6.9%)	1 (1.7%)	82
2010年(n=58)	9 (15.5%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	79
2008年(n=58)	12 (20.7%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	71
2006年(n=58)	9 (15.5%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	73
2004年(n=58)	10 (17.2%)	7 (12.1%)	0 (0.0%)	68
2002年(n=58)	11 (19.0%)	7 (12.1%)	0 (0.0%)	75

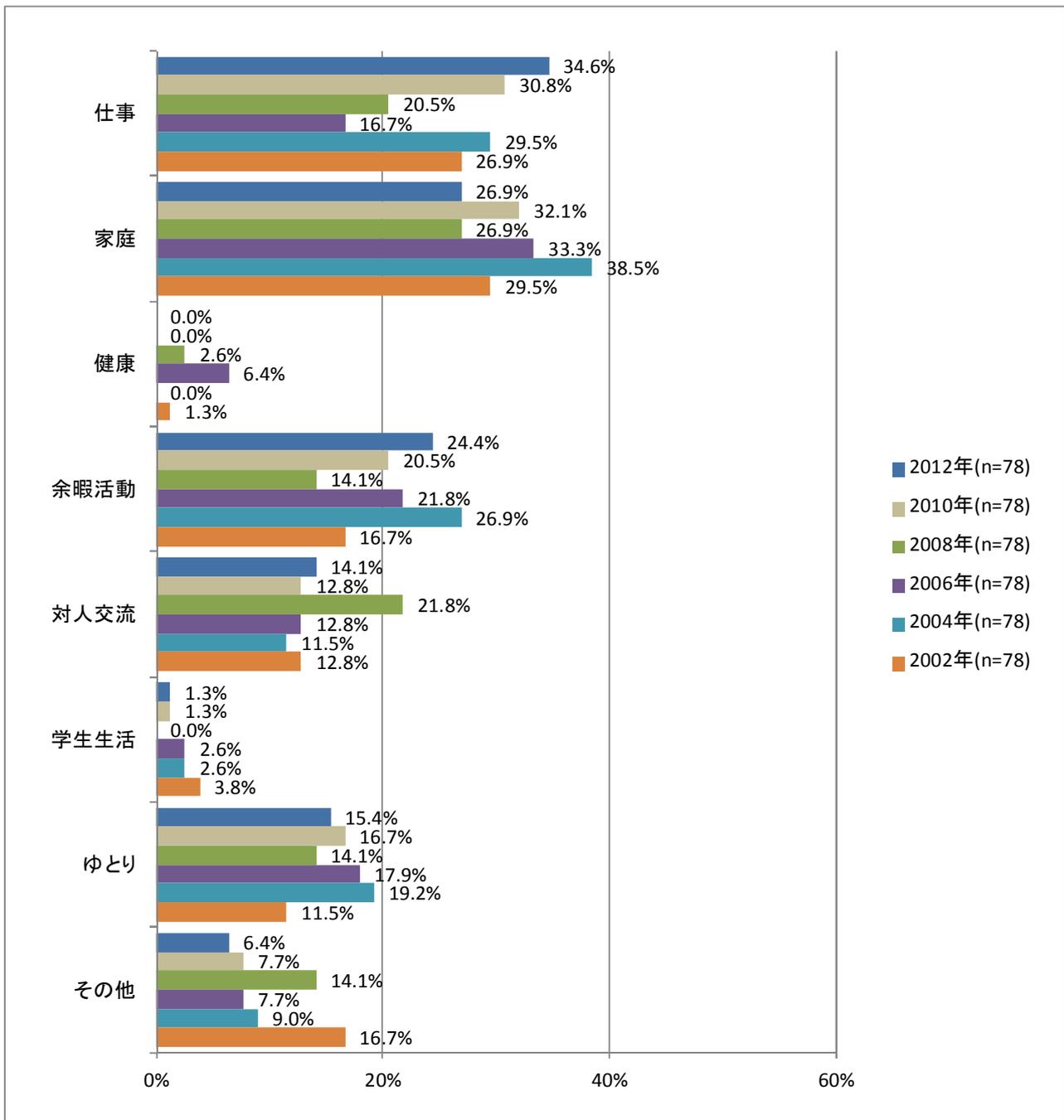
回答数(割合)



図表 3-3 これまで生活してきた一番楽しかったこと（前期高齢期群）※複数回答

	仕事	家庭	健康	余暇活動	対人交流	学生生活
2012年(n=78)	27 (34.6%)	21 (26.9%)	0 (0.0%)	19 (24.4%)	11 (14.1%)	1 (1.3%)
2010年(n=78)	24 (30.8%)	25 (32.1%)	0 (0.0%)	16 (20.5%)	10 (12.8%)	1 (1.3%)
2008年(n=78)	16 (20.5%)	21 (26.9%)	2 (2.6%)	11 (14.1%)	17 (21.8%)	0 (0.0%)
2006年(n=78)	13 (16.7%)	26 (33.3%)	5 (6.4%)	17 (21.8%)	10 (12.8%)	2 (2.6%)
2004年(n=78)	23 (29.5%)	30 (38.5%)	0 (0.0%)	21 (26.9%)	9 (11.5%)	2 (2.6%)
2002年(n=78)	21 (26.9%)	23 (29.5%)	1 (1.3%)	13 (16.7%)	10 (12.8%)	3 (3.8%)

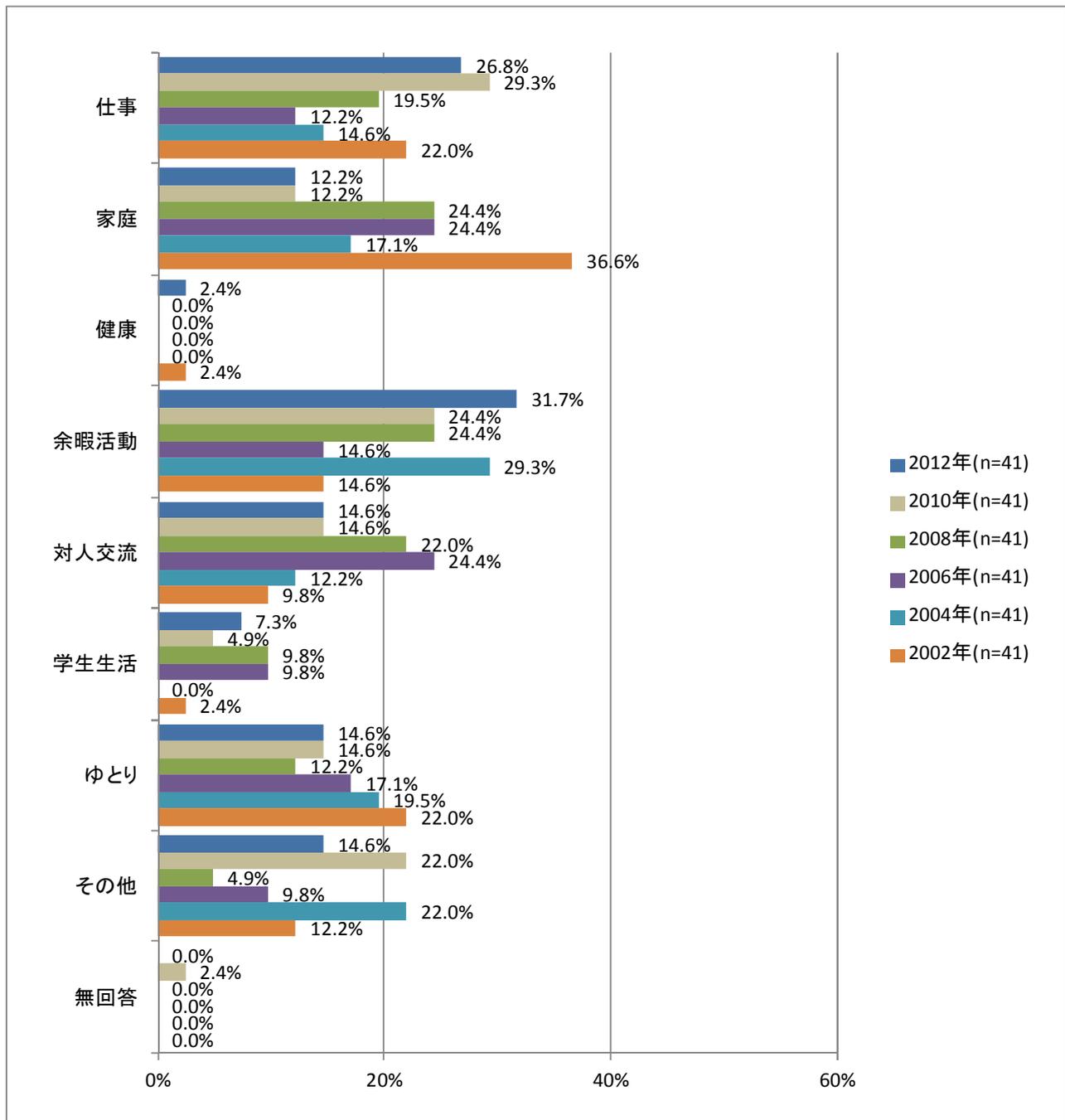
	ゆとり	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=78)	12 (15.4%)	5 (6.4%)	96	
2010年(n=78)	13 (16.7%)	6 (7.7%)	95	
2008年(n=78)	11 (14.1%)	11 (14.1%)	89	
2006年(n=78)	14 (17.9%)	6 (7.7%)	93	
2004年(n=78)	15 (19.2%)	7 (9.0%)	107	
2002年(n=78)	9 (11.5%)	13 (16.7%)	93	



図表 3-4 これまで生活してきた一番楽しかったこと（後期高齢期群）※複数回答

	仕事	家庭	健康	余暇活動	対人交流	学生生活
2012年(n=41)	11 (26.8%)	5 (12.2%)	1 (2.4%)	13 (31.7%)	6 (14.6%)	3 (7.3%)
2010年(n=41)	12 (29.3%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	10 (24.4%)	6 (14.6%)	2 (4.9%)
2008年(n=41)	8 (19.5%)	10 (24.4%)	0 (0.0%)	10 (24.4%)	9 (22.0%)	4 (9.8%)
2006年(n=41)	5 (12.2%)	10 (24.4%)	0 (0.0%)	6 (14.6%)	10 (24.4%)	4 (9.8%)
2004年(n=41)	6 (14.6%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	12 (29.3%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)
2002年(n=41)	9 (22.0%)	15 (36.6%)	1 (2.4%)	6 (14.6%)	4 (9.8%)	1 (2.4%)

	ゆとり	その他	無回答	回答数	回答数(割合)
2012年(n=41)	6 (14.6%)	6 (14.6%)	0 (0.0%)	51	
2010年(n=41)	6 (14.6%)	9 (22.0%)	1 (2.4%)	51	
2008年(n=41)	5 (12.2%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	48	
2006年(n=41)	7 (17.1%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	46	
2004年(n=41)	8 (19.5%)	9 (22.0%)	0 (0.0%)	47	
2002年(n=41)	9 (22.0%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	50	



■これまで生活してきた一番楽しかったこと：【家庭】の具体的内容

（「Q.これまで生活してきた一番楽しかったこと」で「家庭」について挙げた人のみ）

（全体の結果）

楽しかったこと（家庭）のうち、「出産・子育て」を挙げる人が最も多く、初回調査時（2002年）から2004年調査時まで4割近くで推移しているが、2006年調査時以降はほぼ半数を占めている。（図表3-5）

（壮年期群→Y0）

楽しかったこと（家庭）のうち、「出産・子育て」を挙げる人が最も多く、すべての調査時で約4割を超えている。初回調査時（2002年）が36.8%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2008年調査時では61.1%と最も多い（+24.3ポイント）。しかし、2008年調査時以降は漸減傾向にあり、2012年調査時では50.0%となっている（-11.1ポイント）。（図表3-6）

（前期高齢期群→00）

楽しかったこと（家庭）で「出産・子育て」を挙げる人は、2004年調査時が26.7%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2008年調査時では57.1%と大きく増加している（+30.4ポイント）。「家族・夫婦」に関する回答は、2006年調査時が30.8%と最も多いが、2008年調査時では14.3%と2年間で16.5ポイントに減少している。2008年調査時以降はやや増加し、2012年調査時では23.8%となっている（+9.5ポイント）。（図表3-7）

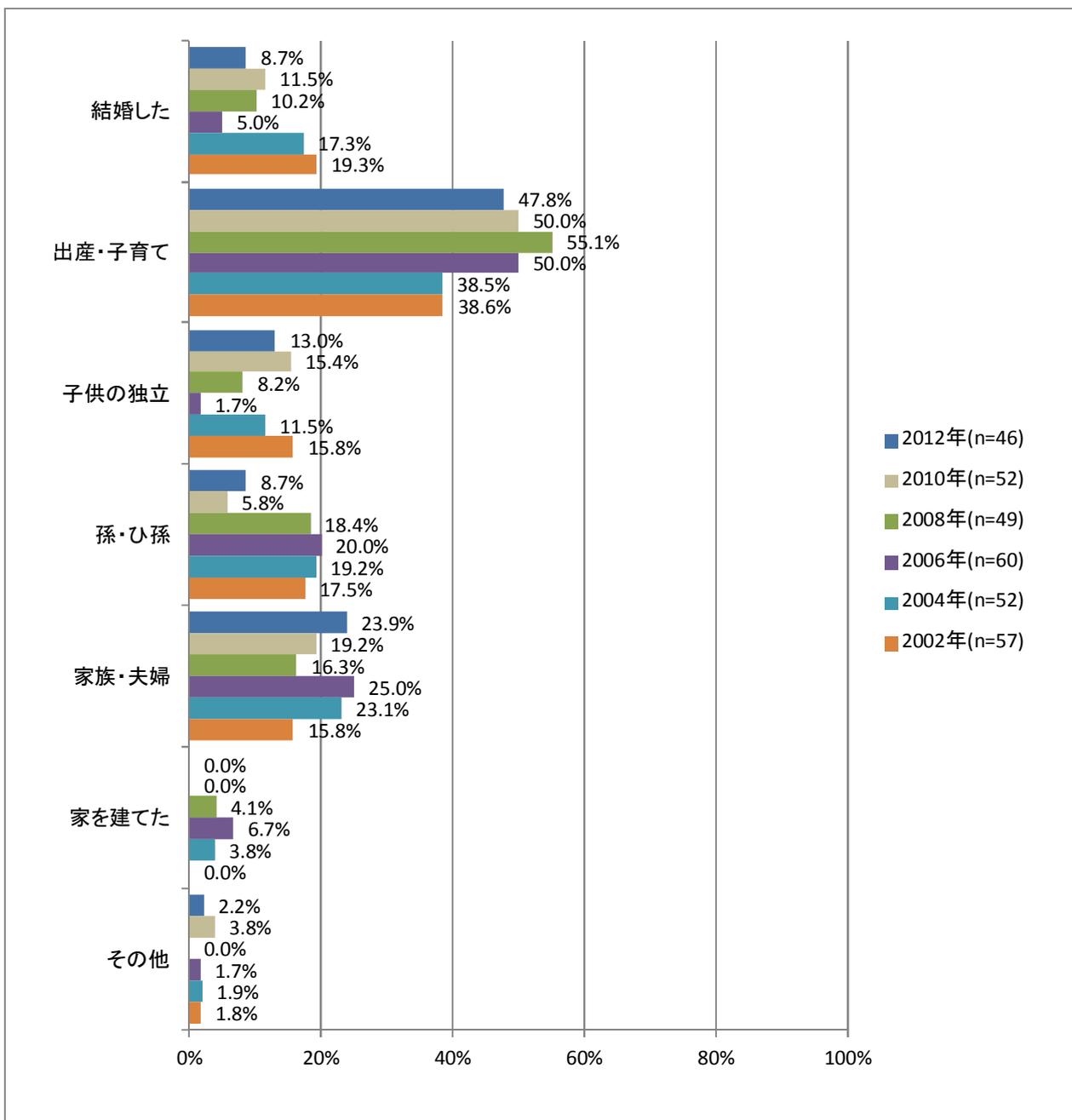
（後期高齢期群→0d0）

楽しかったこと（家庭）で「出産・子育て」を挙げる人は、2004年調査時が71.4%と最も多いが、それ以外は4割程度で推移し、2010年調査時以降は回答がみられない。「家族・夫婦」に関する回答は、初回調査時（2002年）から2004年調査時まで1割程度で推移しているが、その後は2008年調査時を除いて4割を占めている。（図表3-8）

図表 3-5 これまで生活してきた一番楽しかったこと【家庭】（全体）※複数回答

	結婚した	出産・子育て	子供の独立	孫・ひ孫	家族・夫婦
2012年(n=46)	4 (8.7%)	22 (47.8%)	6 (13.0%)	4 (8.7%)	11 (23.9%)
2010年(n=52)	6 (11.5%)	26 (50.0%)	8 (15.4%)	3 (5.8%)	10 (19.2%)
2008年(n=49)	5 (10.2%)	27 (55.1%)	4 (8.2%)	9 (18.4%)	8 (16.3%)
2006年(n=60)	3 (5.0%)	30 (50.0%)	1 (1.7%)	12 (20.0%)	15 (25.0%)
2004年(n=52)	9 (17.3%)	20 (38.5%)	6 (11.5%)	10 (19.2%)	12 (23.1%)
2002年(n=57)	11 (19.3%)	22 (38.6%)	9 (15.8%)	10 (17.5%)	9 (15.8%)

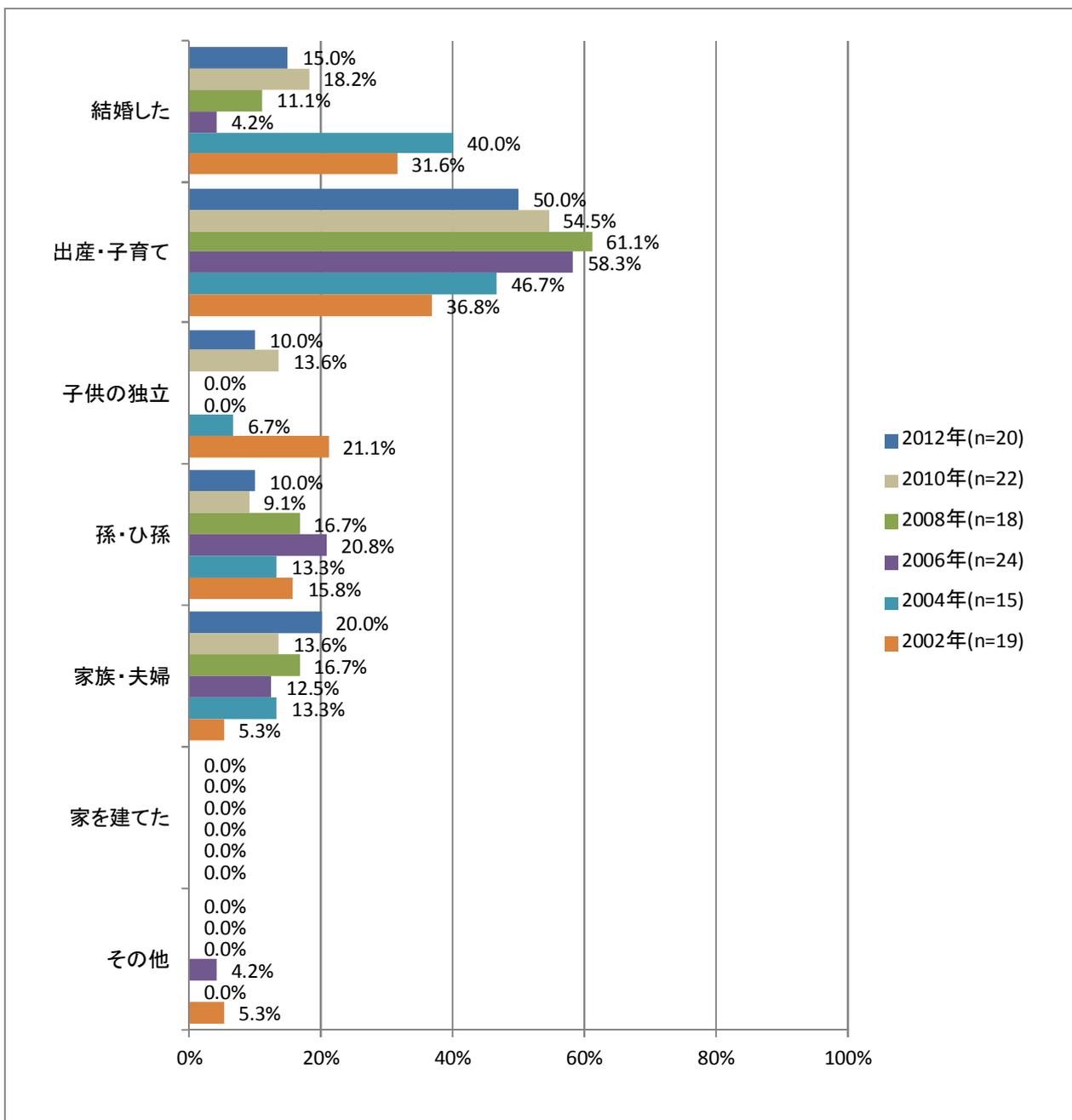
	家建てた	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=46)	0 (0.0%)	1 (2.2%)	48	
2010年(n=52)	0 (0.0%)	2 (3.8%)	55	
2008年(n=49)	2 (4.1%)	0 (0.0%)	55	
2006年(n=60)	4 (6.7%)	1 (1.7%)	66	
2004年(n=52)	2 (3.8%)	1 (1.9%)	60	
2002年(n=57)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	62	



図表 3-6 これまで生活してきた一番楽しかったこと【家庭】（壮年期群）※複数回答

	結婚した	出産・子育て	子供の独立	孫・ひ孫	家族・夫婦
2012年(n=20)	3 (15.0%)	10 (50.0%)	2 (10.0%)	2 (10.0%)	4 (20.0%)
2010年(n=22)	4 (18.2%)	12 (54.5%)	3 (13.6%)	2 (9.1%)	3 (13.6%)
2008年(n=18)	2 (11.1%)	11 (61.1%)	0 (0.0%)	3 (16.7%)	3 (16.7%)
2006年(n=24)	1 (4.2%)	14 (58.3%)	0 (0.0%)	5 (20.8%)	3 (12.5%)
2004年(n=15)	6 (40.0%)	7 (46.7%)	1 (6.7%)	2 (13.3%)	2 (13.3%)
2002年(n=19)	6 (31.6%)	7 (36.8%)	4 (21.1%)	3 (15.8%)	1 (5.3%)

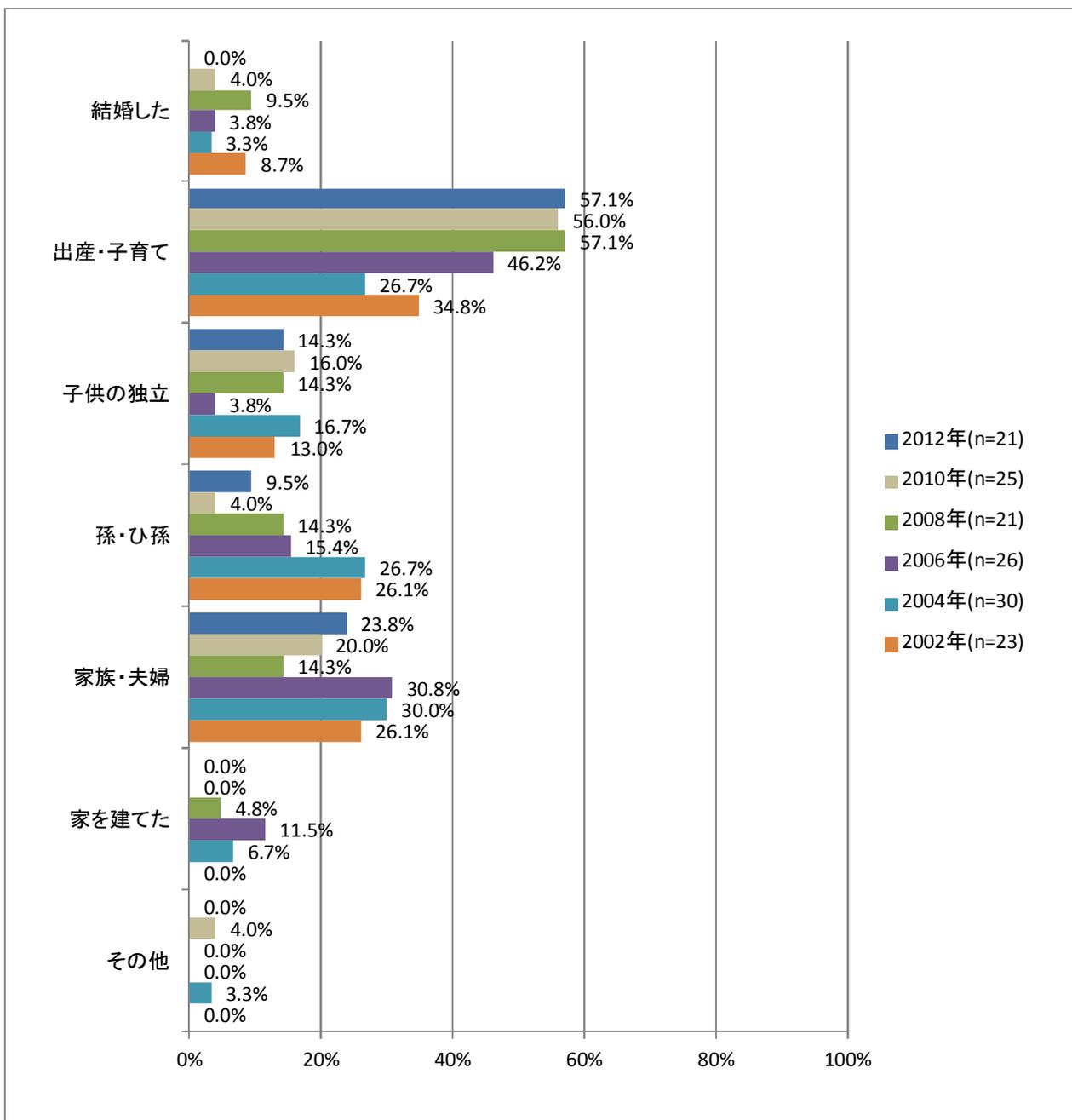
	家建てた	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=20)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	21	
2010年(n=22)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	24	
2008年(n=18)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19	
2006年(n=24)	0 (0.0%)	1 (4.2%)	24	
2004年(n=15)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	18	
2002年(n=19)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	22	



図表 3-7 これまで生活してきた一番楽しかったこと【家庭】（前期高齢期群）※複数回答

	結婚した	出産・子育て	子供の独立	孫・ひ孫	家族・夫婦
2012年(n=21)	0 (0.0%)	12 (57.1%)	3 (14.3%)	2 (9.5%)	5 (23.8%)
2010年(n=25)	1 (4.0%)	14 (56.0%)	4 (16.0%)	1 (4.0%)	5 (20.0%)
2008年(n=21)	2 (9.5%)	12 (57.1%)	3 (14.3%)	3 (14.3%)	3 (14.3%)
2006年(n=26)	1 (3.8%)	12 (46.2%)	1 (3.8%)	4 (15.4%)	8 (30.8%)
2004年(n=30)	1 (3.3%)	8 (26.7%)	5 (16.7%)	8 (26.7%)	9 (30.0%)
2002年(n=23)	2 (8.7%)	8 (34.8%)	3 (13.0%)	6 (26.1%)	6 (26.1%)

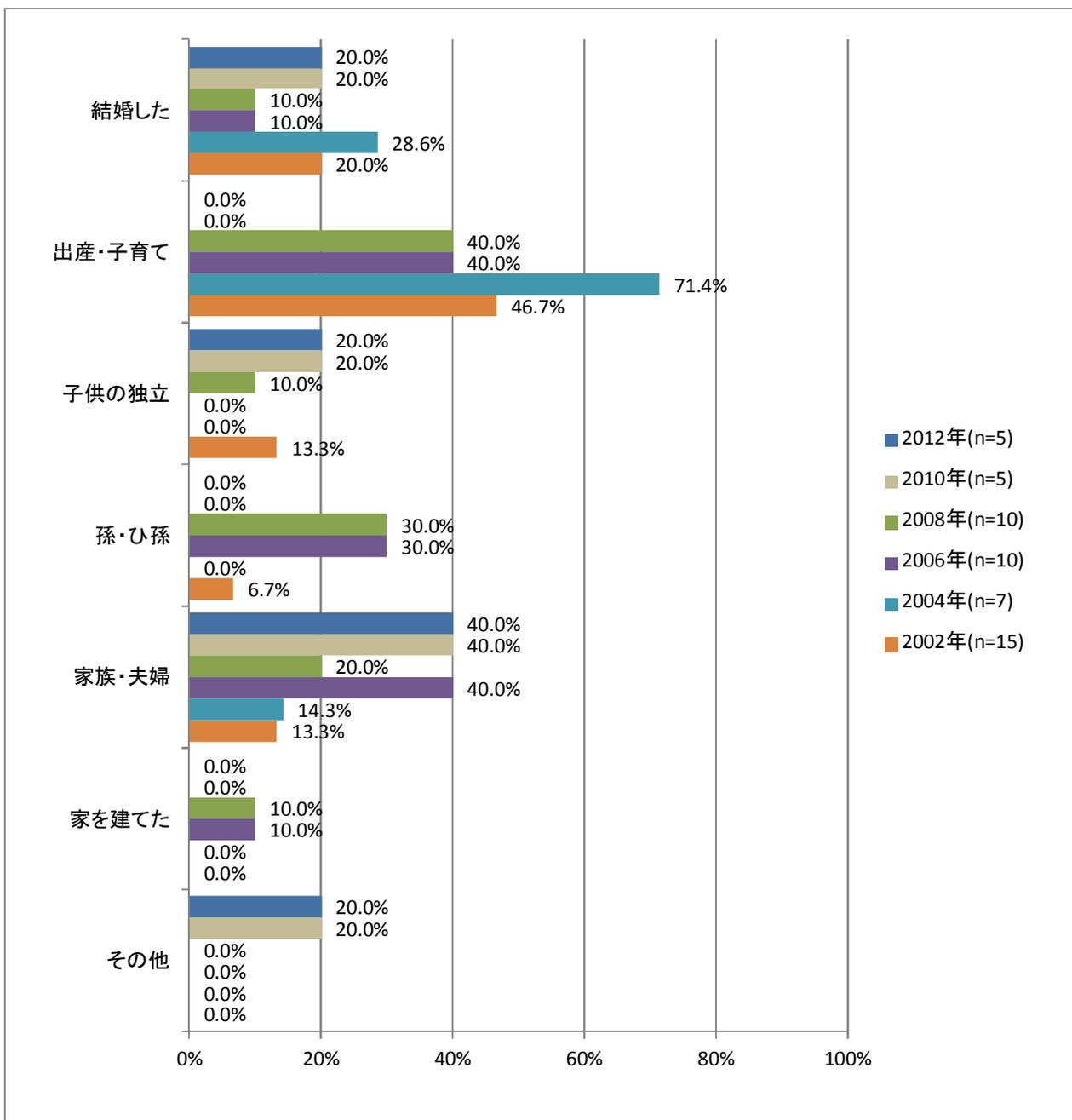
	家建てた	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=21)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22	
2010年(n=25)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	26	
2008年(n=21)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	24	
2006年(n=26)	3 (11.5%)	0 (0.0%)	29	
2004年(n=30)	2 (6.7%)	1 (3.3%)	34	
2002年(n=23)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25	



図表 3-8 これまで生活してきた一番楽しかったこと【家庭】（後期高齢期群）※複数回答

	結婚した	出産・子育て	子供の独立	孫・ひ孫	家族・夫婦
2012年(n=5)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)
2010年(n=5)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)
2008年(n=10)	1 (10.0%)	4 (40.0%)	1 (10.0%)	3 (30.0%)	2 (20.0%)
2006年(n=10)	1 (10.0%)	4 (40.0%)	0 (0.0%)	3 (30.0%)	4 (40.0%)
2004年(n=7)	2 (28.6%)	5 (71.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)
2002年(n=15)	3 (20.0%)	7 (46.7%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	2 (13.3%)

	家建てた	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=5)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	5	
2010年(n=5)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	5	
2008年(n=10)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	12	
2006年(n=10)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	13	
2004年(n=7)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8	
2002年(n=15)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15	



■これまで生活してきた一番楽しかったこと：【余暇活動】の具体的内容

(「Q.これまで生活してきた一番楽しかったこと」で「余暇活動」について挙げた人のみ)

(全体の結果)

楽しかったこと(余暇活動)のうち「旅行」を挙げる人が最も多く、すべての調査時でほぼ6割を超えている。初回調査時(2002年)から漸増傾向にあり、2006年調査時では90.0%と最も多い(+22.3ポイント)。しかし、2008年調査時では59.4%と2年間で大きく減少し(-30.6ポイント)、その後は8割程度で推移している。(図表3-9)

(壮年期群→Y0)

楽しかったこと(余暇活動)のうち「旅行」を挙げる人が最も多く、すべての調査時で6割以上を占めている。初回調査時(2002年)から漸増傾向にあり、2006年調査時が100.0%と最も多い(+25.0ポイント)。しかし、2008年調査時では63.6%と2年間で大きく減少し(-36.4ポイント)、その後は7割~8割程度で推移している。(図表3-10)

(前期高齢期群→00)

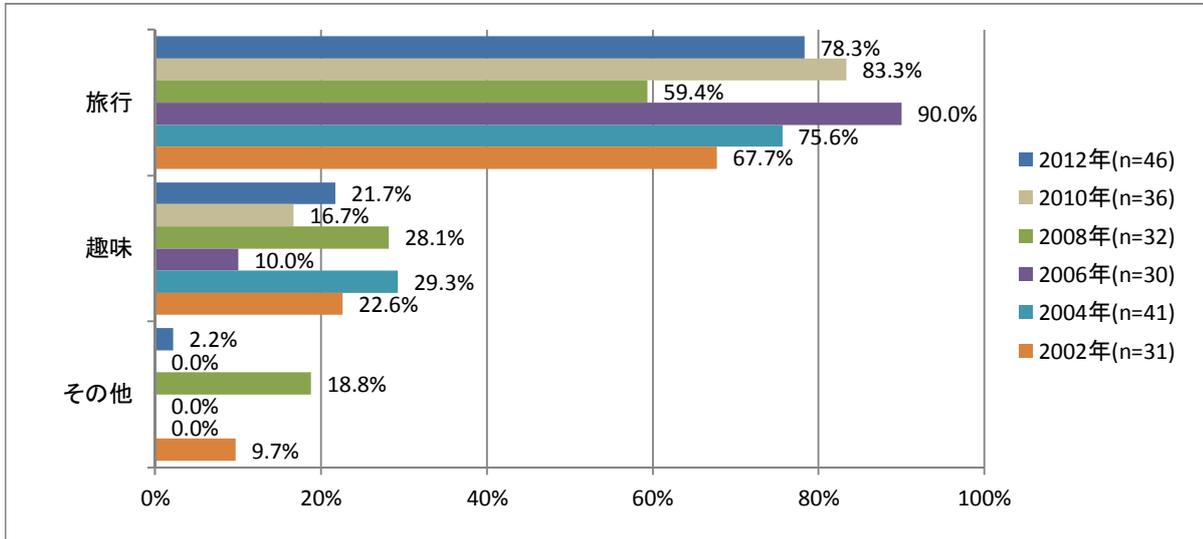
楽しかったこと(余暇活動)のうち「旅行」を挙げる人が最も多く、2004年調査時が61.9%と最も少ないが、それ以外は7割~8割程度で推移している。(図表3-11)

(後期高齢期群→0d0)

楽しかったこと(余暇活動)のうち「旅行」を挙げる人が最も多く、初回調査時(2002年)と2008年調査時を除いて、8割以上を占めており、2010年調査時以降は9割以上を維持している。(図表3-12)

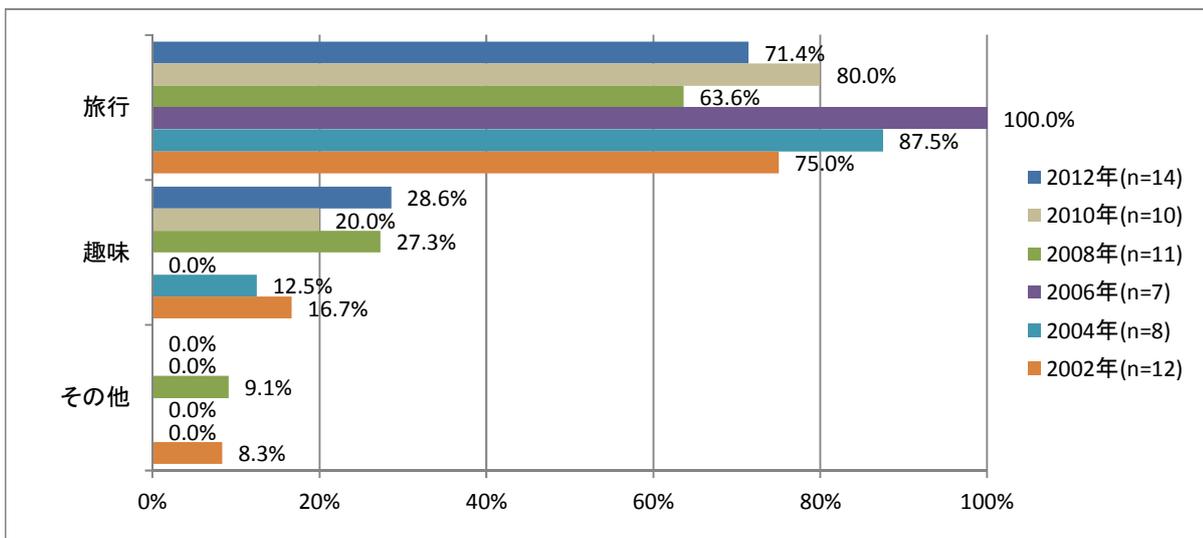
図表 3-9 これまで生活してきて一番楽しかったこと【余暇活動】（全体）※複数回答

	旅行	趣味	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=46)	36 (78.3%)	10 (21.7%)	1 (2.2%)	47	
2010年(n=36)	30 (83.3%)	6 (16.7%)	0 (0.0%)	36	
2008年(n=32)	19 (59.4%)	9 (28.1%)	6 (18.8%)	34	
2006年(n=30)	27 (90.0%)	3 (10.0%)	0 (0.0%)	30	
2004年(n=41)	31 (75.6%)	12 (29.3%)	0 (0.0%)	43	
2002年(n=31)	21 (67.7%)	7 (22.6%)	3 (9.7%)	31	



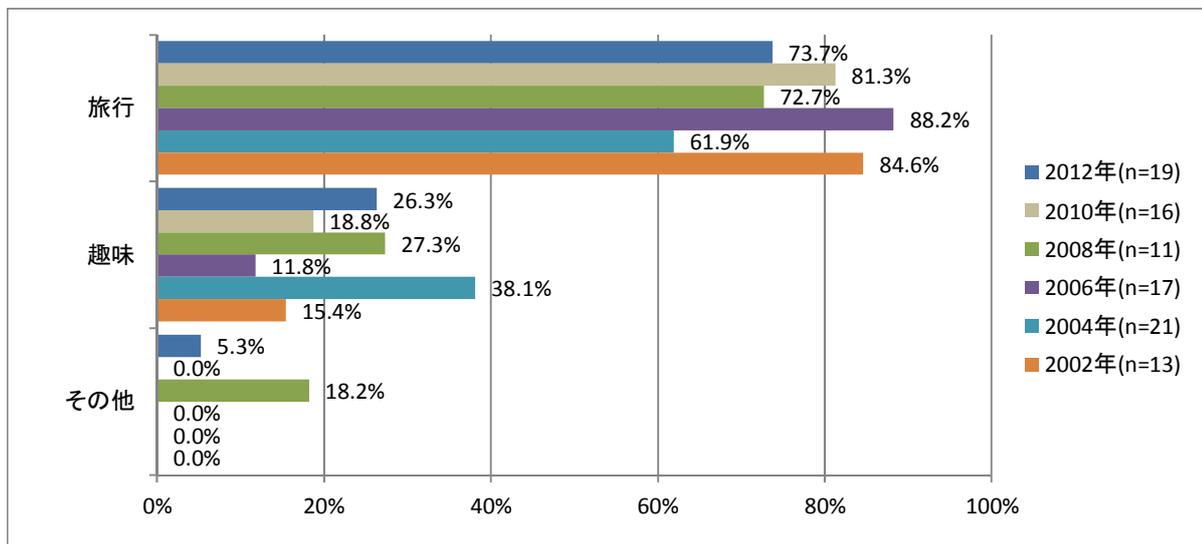
図表 3-10 これまで生活してきて一番楽しかったこと【余暇活動】（壮年期群）※複数回答

	旅行	趣味	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=14)	10 (71.4%)	4 (28.6%)	0 (0.0%)	14	
2010年(n=10)	8 (80.0%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	10	
2008年(n=11)	7 (63.6%)	3 (27.3%)	1 (9.1%)	11	
2006年(n=7)	7 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7	
2004年(n=8)	7 (87.5%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	8	
2002年(n=12)	9 (75.0%)	2 (16.7%)	1 (8.3%)	12	



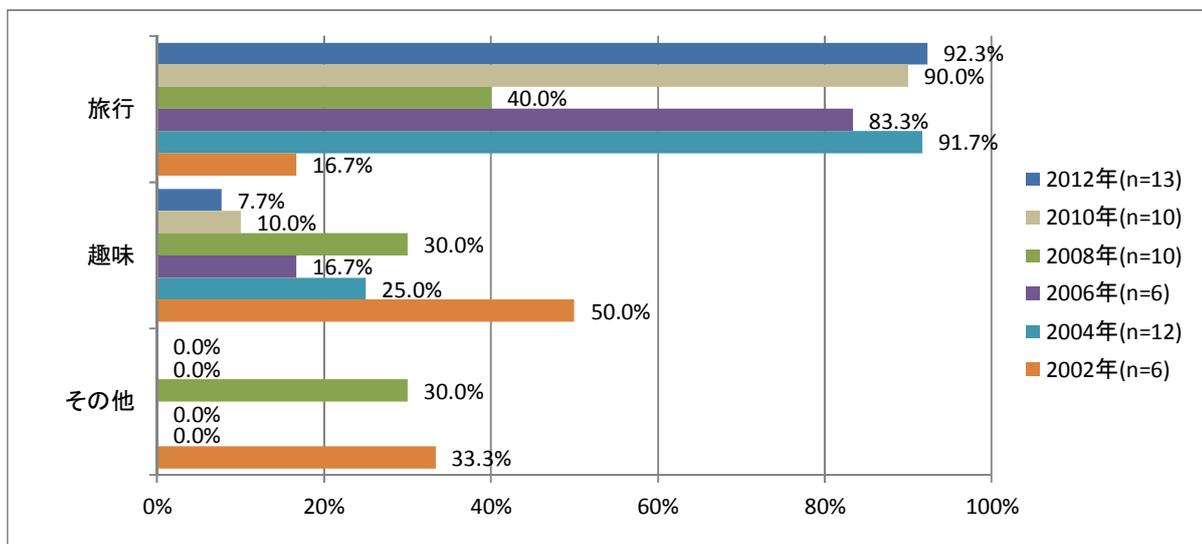
図表 3-11 これまで生活してきた一番楽しかったこと【余暇活動】（前期高齢期群）※複数回答

	旅行	趣味	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=19)	14 (73.7%)	5 (26.3%)	1 (5.3%)	20	
2010年(n=16)	13 (81.3%)	3 (18.8%)	0 (0.0%)	16	
2008年(n=11)	8 (72.7%)	3 (27.3%)	2 (18.2%)	13	
2006年(n=17)	15 (88.2%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	17	
2004年(n=21)	13 (61.9%)	8 (38.1%)	0 (0.0%)	21	
2002年(n=13)	11 (84.6%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)	13	



図表 3-12 これまで生活してきた一番楽しかったこと【余暇活動】（後期高齢期群）※複数回答

	旅行	趣味	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=13)	12 (92.3%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	13	
2010年(n=10)	9 (90.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	10	
2008年(n=10)	4 (40.0%)	3 (30.0%)	3 (30.0%)	10	
2006年(n=6)	5 (83.3%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	6	
2004年(n=12)	11 (91.7%)	3 (25.0%)	0 (0.0%)	14	
2002年(n=6)	1 (16.7%)	3 (50.0%)	2 (33.3%)	6	



■これまで生活してきた一番楽しかったこと：【ゆとり】の具体的内容

(「Q.これまで生活してきた一番楽しかったこと」で「ゆとり」について挙げた人のみ)

(全体の結果)

楽しかったこと(ゆとり)のうち「時間的ゆとり」を挙げる人は、初回調査時(2002年)から2004年調査時まで約3割で推移しているが、2006年調査時以降は1割~2割程度に減少している。「精神的ゆとり」を挙げる人は、2004年調査時が48.5%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2010年調査時では17.9%と大きく減少している(-30.6ポイント)。一方「経済的ゆとり」を挙げる人は、初回調査時(2002年)が3.4%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2010年調査時では35.7%と大きく増加している(+32.3ポイント)。(図表3-13)

(壮年期群→Y0)

楽しかったこと(ゆとり)のうち「時間的ゆとり」を挙げる人は、2004年調査時が50.0%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2008年調査時では16.7%と大きく減少している(-33.3ポイント)。「精神的ゆとり」を挙げる人は、2004年調査時が50.0%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2010年調査時では11.1%と大きく減少している(-38.9ポイント)。一方「経済的ゆとり」を挙げる人は、2006年調査時以降33.3%を維持している。(図表3-14)

(前期高齢期群→00)

楽しかったこと(ゆとり)のうち「精神的ゆとり」を挙げる人は、2006年調査時が64.3%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2010年調査時では23.1%と大きく減少している(-41.2ポイント)。「好きなことができる」を挙げる人は、2008年調査時が54.5%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2012年調査時では25.0%と大きく減少している(-29.5ポイント)。一方「経済的ゆとり」を挙げる人は、初回調査時(2002年)から1割程度で推移しており、2008年調査時では9.1%と最も少ない。しかし、2008年調査時以降は漸増傾向にあり、2012年調査時では33.3%と最も多くなっている(+24.2ポイント)。(図表3-15)

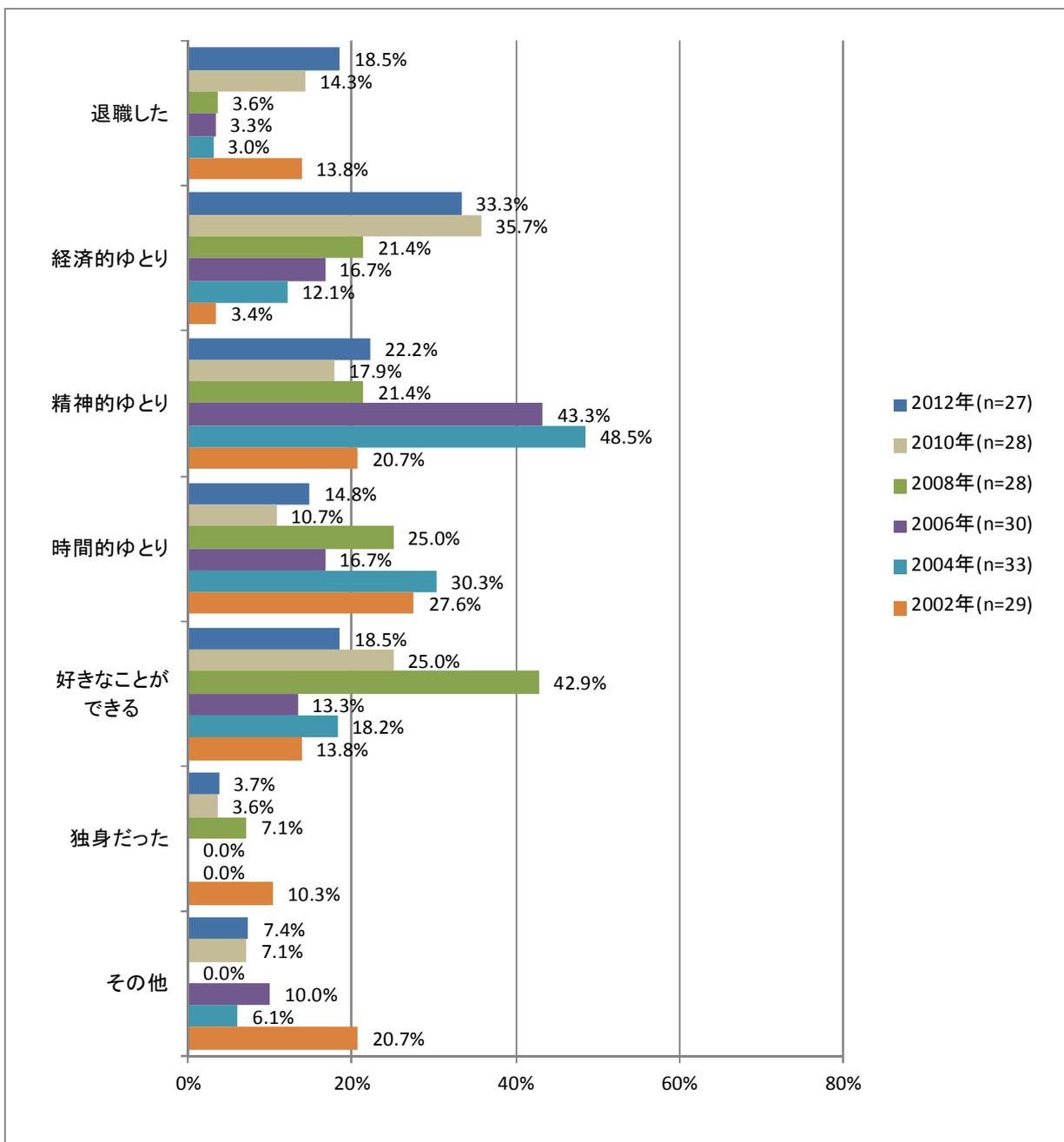
(後期高齢期群→0d0)

楽しかったこと(ゆとり)のうち「時間的ゆとり」を挙げる人は、2004年調査時から漸増傾向にあり、2008年調査時では60.0%と大きく増加している(+47.5ポイント)。しかし、2010年調査時では回答がみられず、その後も1割程度である。「精神的ゆとり」を挙げる人は、2004年調査時が62.5%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2010年調査時では16.7%と大きく減少している(-45.8ポイント)。一方「経済的ゆとり」を挙げる人は、初回調査時(2002年)から2006年調査時まで回答がみられないが、2008年調査時以降は2割~5割で推移している。(図表3-16)

図表 3-13 これまで生活してきた一番楽しかったこと【ゆとり】（全体）※複数回答

	退職した	経済的ゆとり	精神的ゆとり	時間的ゆとり	好きなことができる
2012年(n=27)	5 (18.5%)	9 (33.3%)	6 (22.2%)	4 (14.8%)	5 (18.5%)
2010年(n=28)	4 (14.3%)	10 (35.7%)	5 (17.9%)	3 (10.7%)	7 (25.0%)
2008年(n=28)	1 (3.6%)	6 (21.4%)	6 (21.4%)	7 (25.0%)	12 (42.9%)
2006年(n=30)	1 (3.3%)	5 (16.7%)	13 (43.3%)	5 (16.7%)	4 (13.3%)
2004年(n=33)	1 (3.0%)	4 (12.1%)	16 (48.5%)	10 (30.3%)	6 (18.2%)
2002年(n=29)	4 (13.8%)	1 (3.4%)	6 (20.7%)	8 (27.6%)	4 (13.8%)

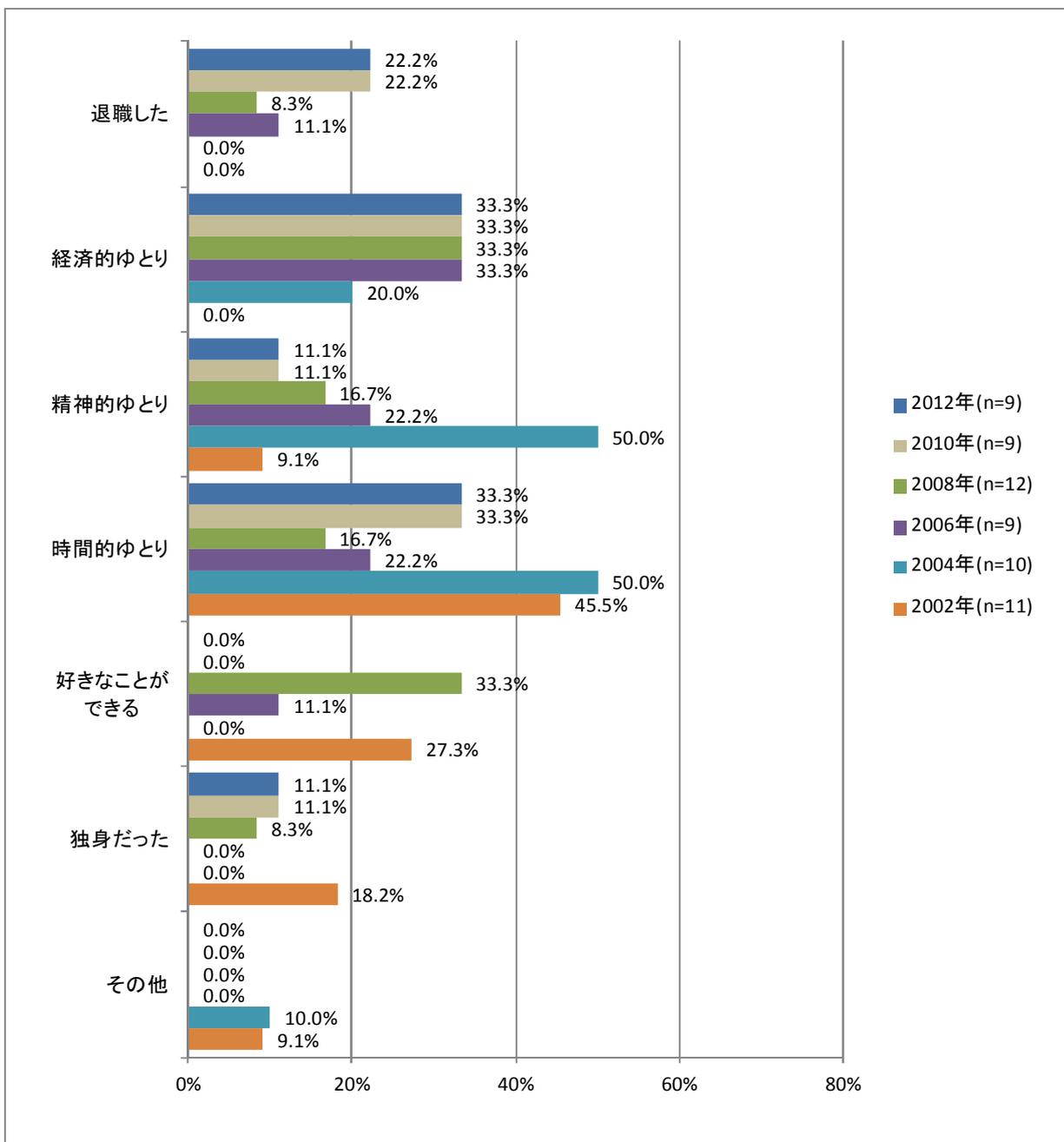
	独身だった	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=27)	1 (3.7%)	2 (7.4%)	3	32
2010年(n=28)	1 (3.6%)	2 (7.1%)	3	32
2008年(n=28)	2 (7.1%)	0 (0.0%)	2	34
2006年(n=30)	0 (0.0%)	3 (10.0%)	3	31
2004年(n=33)	0 (0.0%)	2 (6.1%)	2	39
2002年(n=29)	3 (10.3%)	6 (20.7%)	9	32



図表 3-14 これまで生活してきた一番楽しかったこと【ゆとり】（壮年期群）※複数回答

	退職した	経済的ゆとり	精神的ゆとり	時間的ゆとり	好きなことができる
2012年(n=9)	2 (22.2%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	3 (33.3%)	0 (0.0%)
2010年(n=9)	2 (22.2%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	3 (33.3%)	0 (0.0%)
2008年(n=12)	1 (8.3%)	4 (33.3%)	2 (16.7%)	2 (16.7%)	4 (33.3%)
2006年(n=9)	1 (11.1%)	3 (33.3%)	2 (22.2%)	2 (22.2%)	1 (11.1%)
2004年(n=10)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	5 (50.0%)	5 (50.0%)	0 (0.0%)
2002年(n=11)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (9.1%)	5 (45.5%)	3 (27.3%)

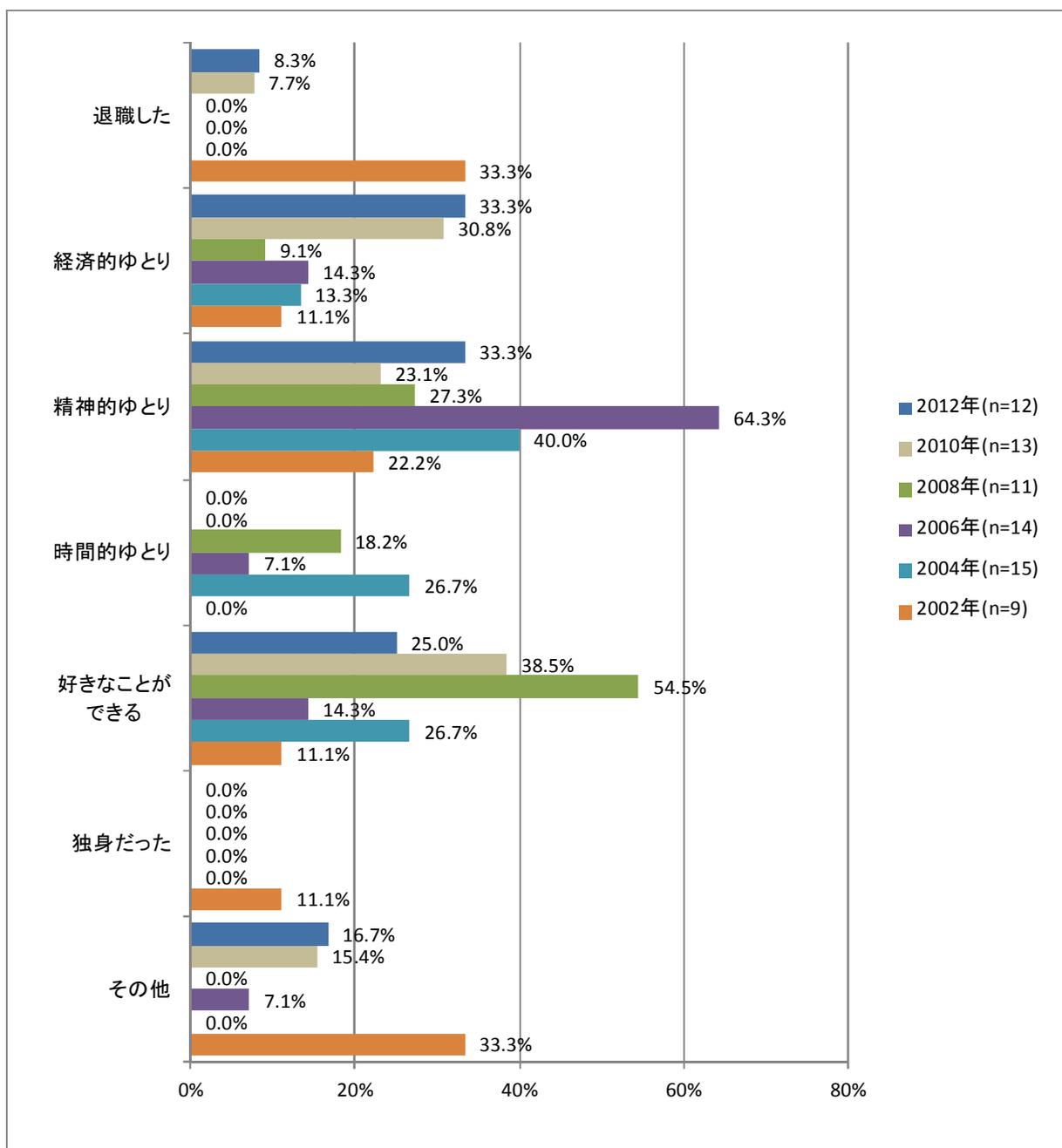
	独身だった	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=9)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	10	
2010年(n=9)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	10	
2008年(n=12)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	14	
2006年(n=9)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9	
2004年(n=10)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	13	
2002年(n=11)	2 (18.2%)	1 (9.1%)	12	



図表 3-15 これまで生活してきた一番楽しかったこと【ゆとり】（前期高齢期群）※複数回答

	退職した	経済的ゆとり	精神的ゆとり	時間的ゆとり	好きなことができる
2012年(n=12)	1 (8.3%)	4 (33.3%)	4 (33.3%)	0 (0.0%)	3 (25.0%)
2010年(n=13)	1 (7.7%)	4 (30.8%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)	5 (38.5%)
2008年(n=11)	0 (0.0%)	1 (9.1%)	3 (27.3%)	2 (18.2%)	6 (54.5%)
2006年(n=14)	0 (0.0%)	2 (14.3%)	9 (64.3%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)
2004年(n=15)	0 (0.0%)	2 (13.3%)	6 (40.0%)	4 (26.7%)	4 (26.7%)
2002年(n=9)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	2 (22.2%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)

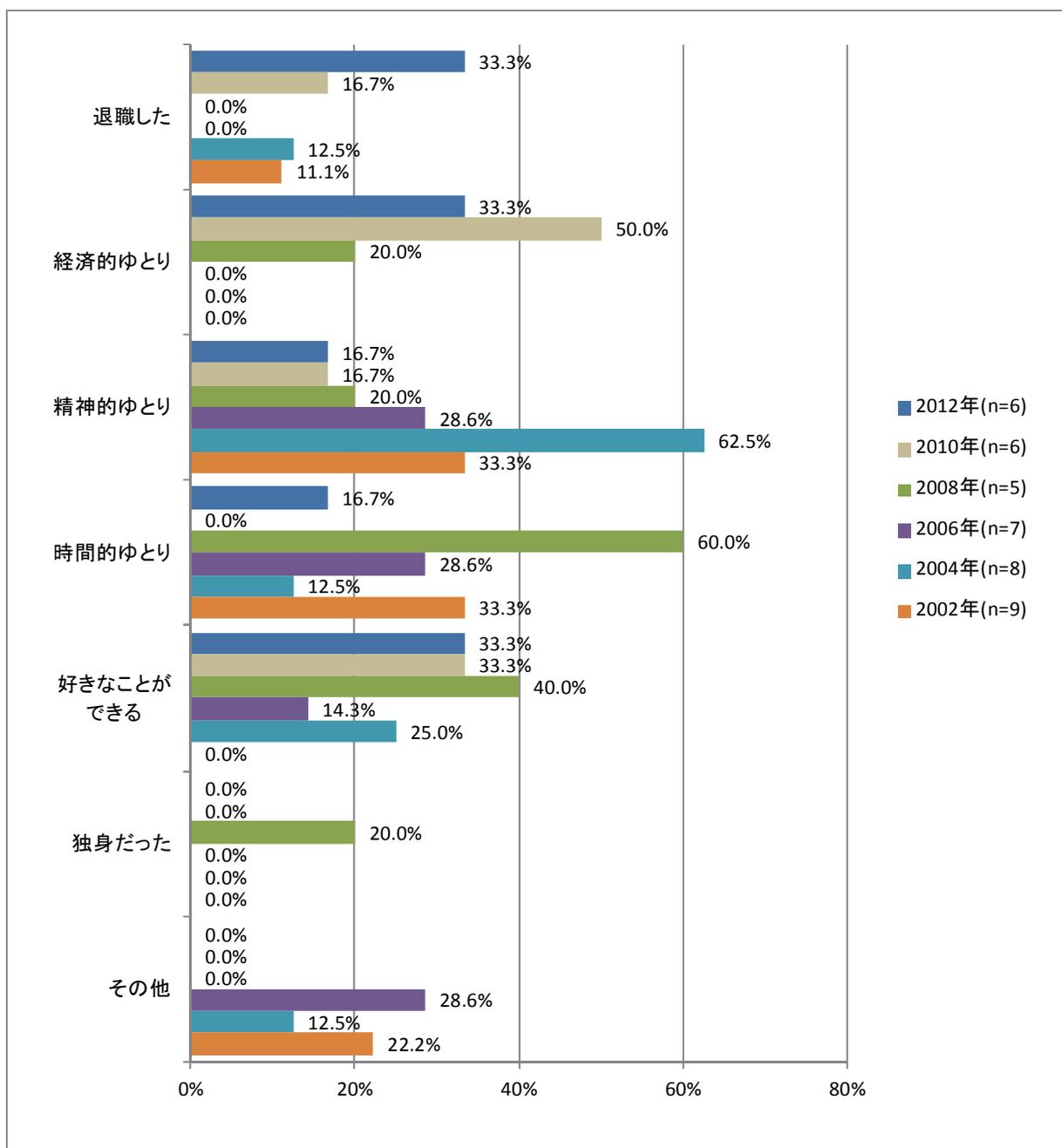
	独身だった	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=12)	0 (0.0%)	2 (16.7%)	14	
2010年(n=13)	0 (0.0%)	2 (15.4%)	15	
2008年(n=11)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12	
2006年(n=14)	0 (0.0%)	1 (7.1%)	15	
2004年(n=15)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	16	
2002年(n=9)	1 (11.1%)	3 (33.3%)	11	



図表 3-16 これまで生活してきた一番楽しかったこと【ゆとり】（後期高齢期群）※複数回答

	退職した	経済的ゆとり	精神的ゆとり	時間的ゆとり	好きなことができる
2012年(n=6)	2 (33.3%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)
2010年(n=6)	1 (16.7%)	3 (50.0%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)
2008年(n=5)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)
2006年(n=7)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)
2004年(n=8)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	5 (62.5%)	1 (12.5%)	2 (25.0%)
2002年(n=9)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	3 (33.3%)	3 (33.3%)	0 (0.0%)

	独身だった	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=6)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8	
2010年(n=6)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7	
2008年(n=5)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	8	
2006年(n=7)	0 (0.0%)	2 (28.6%)	7	
2004年(n=8)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	10	
2002年(n=9)	0 (0.0%)	2 (22.2%)	9	



4) 生活の質 (QOL)

■今の生活に満足しているか

(全体の結果)

今の生活に「満足している」人は、初回調査時 (2002年) から2010年調査時まで8割以上を維持しているが、2012年調査時では62.1%と2010年調査時以降の2年間で大きく減少している (-21.0ポイント)。(図表4-1)

(壮年期群→Y0)

今の生活に「満足している」人は、2004年調査時が81.0%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2012年調査時では48.3%と大幅に減少している (-32.7ポイント)。特に、2010年調査時以降の2年間で25.8ポイントと大きく減少している。(図表4-2)

(前期高齢期群→00)

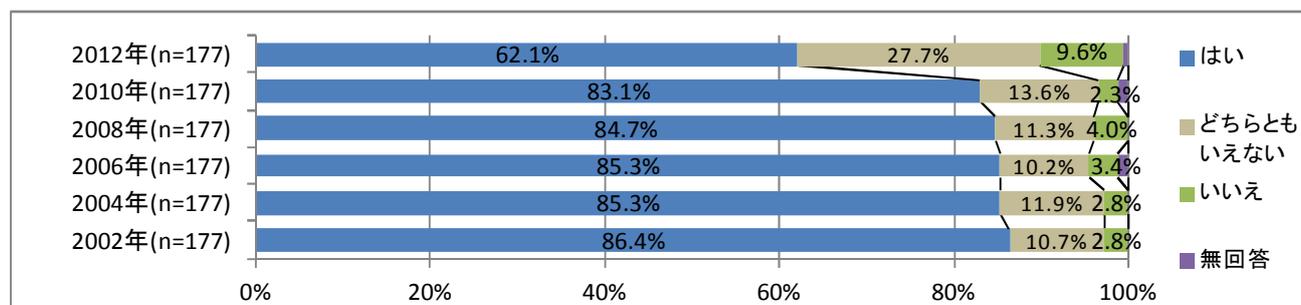
今の生活に「満足している」人は、初回調査時 (2002年) から2010年調査時まで9割近くを占めているが、2012年調査時では66.7%と2010年調査時以降の2年間で大きく減少している (-23.0ポイント)。(図表4-3)

(後期高齢期群→0d0)

今の生活に「満足している」人は、初回調査時 (2002年) から2012年調査時まで7割以上を占めている。2008年調査時から漸減傾向にあり、2012年調査時では73.2%と最も少なくなっている (-17.0ポイント)。(図表4-4)

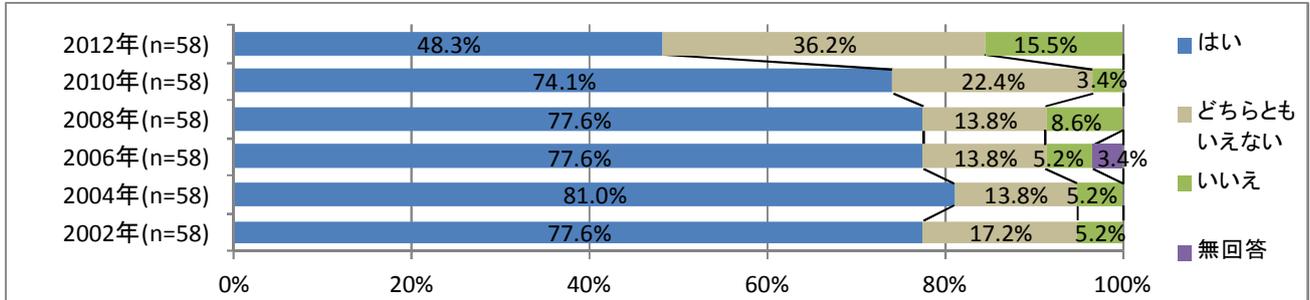
図表4-1 今の生活に満足しているか (全体)

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	110 (62.1%)	49 (27.7%)	17 (9.6%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	147 (83.1%)	24 (13.6%)	4 (2.3%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	150 (84.7%)	20 (11.3%)	7 (4.0%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	151 (85.3%)	18 (10.2%)	6 (3.4%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	151 (85.3%)	21 (11.9%)	5 (2.8%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	153 (86.4%)	19 (10.7%)	5 (2.8%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



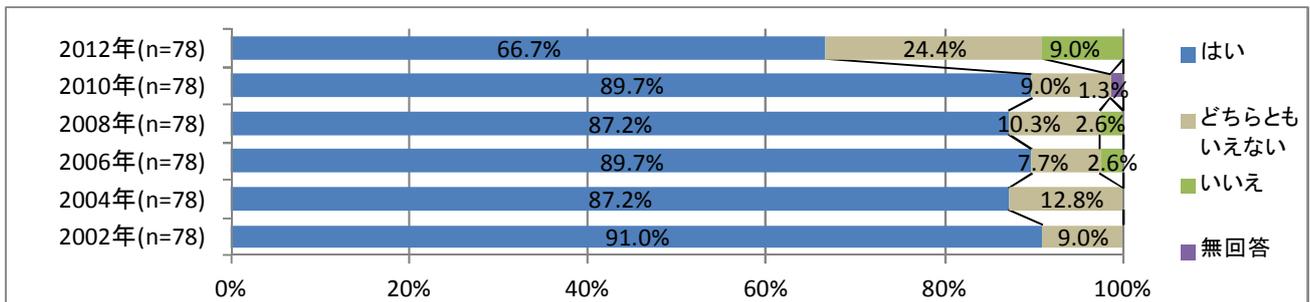
図表 4-2 今の生活に満足しているか（壮年期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	28 (48.3%)	21 (36.2%)	9 (15.5%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	43 (74.1%)	13 (22.4%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	45 (77.6%)	8 (13.8%)	5 (8.6%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	45 (77.6%)	8 (13.8%)	3 (5.2%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	47 (81.0%)	8 (13.8%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	45 (77.6%)	10 (17.2%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



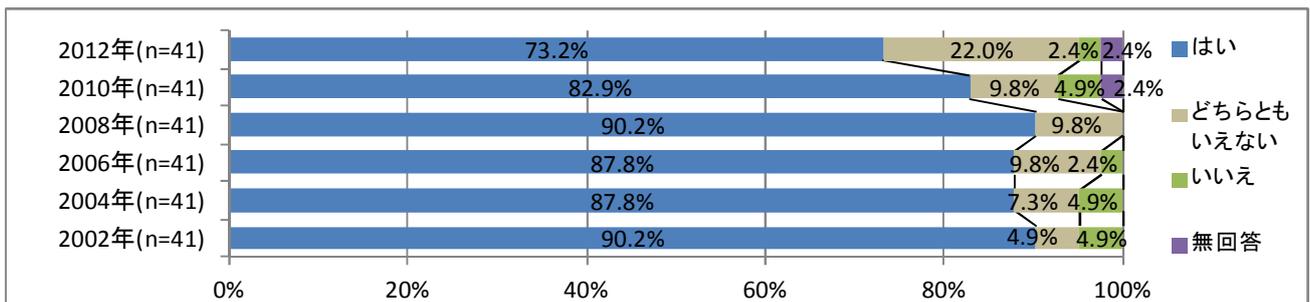
図表 4-3 今の生活に満足しているか（前期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	52 (66.7%)	19 (24.4%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	70 (89.7%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	68 (87.2%)	8 (10.3%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	70 (89.7%)	6 (7.7%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	68 (87.2%)	10 (12.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	71 (91.0%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 4-4 今の生活に満足しているか（後期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	30 (73.2%)	9 (22.0%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	34 (82.9%)	4 (9.8%)	2 (4.9%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	37 (90.2%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	36 (87.8%)	4 (9.8%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	36 (87.8%)	3 (7.3%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	37 (90.2%)	2 (4.9%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■ ささいなことが気になって眠れないことがあるか

(全体の結果)

ささいなことが気になって「眠れない」ことがある人は、2004年調査時と2008年調査時がそれぞれ41.2%と最も多く、それ以外は3割程度で推移している。一方「眠れる」人は、初回調査時（2002年）が57.6%と最も多く、それ以降は4割程度で推移している。（図表4-5）

(壮年期群→Y0)

ささいなことが気になって「眠れない」ことがある人は、すべての調査時で3割以上を占めており、2012年調査時が44.8%と最も多い。一方「眠れる」人は、初回調査時（2002年）が58.6%と最も多く、それ以降は4割程度で推移し、2012年調査時では34.5%となっており、10年間で24.1ポイント減少している。（図表4-6）

(前期高齢期群→00)

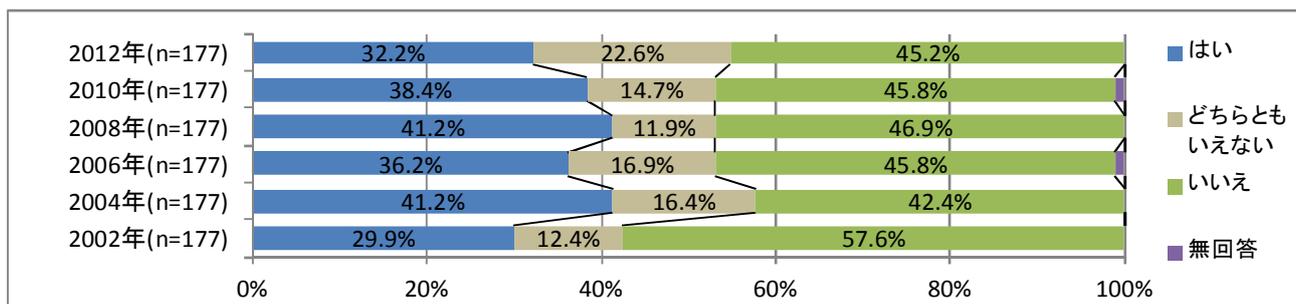
ささいなことが気になって「眠れない」ことがある人は、2004年調査時の42.3%をピークに漸減傾向にあり、2012年調査時では25.6%と最も少ない（-16.7ポイント）。一方「眠れる」人は、初回調査時（2002年）が59.0%と最も多いが、2004年調査時では42.3%に減少している（-16.7ポイント）。2004年調査時以降は、2010年調査時を除いて漸増傾向にあり、2012年調査時では53.8%と半数以上を占めている（+11.5ポイント）。（図表4-7）

(後期高齢期群→0d0)

ささいなことが気になって「眠れない」ことがある人は、初回調査時（2002年）から漸増傾向にあり、2008年調査時では51.2%と最も多い（+19.5ポイント）。しかし、2008年調査時以降は漸減し、2012年調査時では26.8%と最も少なくなっている（-24.4ポイント）。（図表4-8）

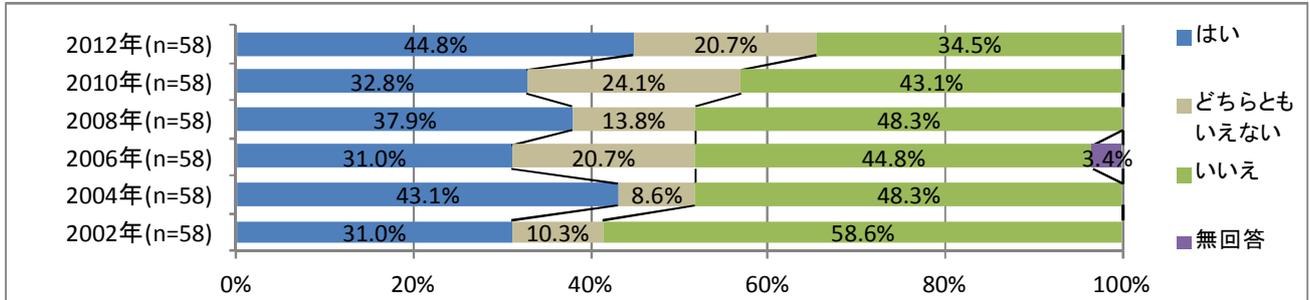
図表4-5 ささいなことが気になって眠れないことがあるか（全体）

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	57 (32.2%)	40 (22.6%)	80 (45.2%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	68 (38.4%)	26 (14.7%)	81 (45.8%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	73 (41.2%)	21 (11.9%)	83 (46.9%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	64 (36.2%)	30 (16.9%)	81 (45.8%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	73 (41.2%)	29 (16.4%)	75 (42.4%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	53 (29.9%)	22 (12.4%)	102 (57.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



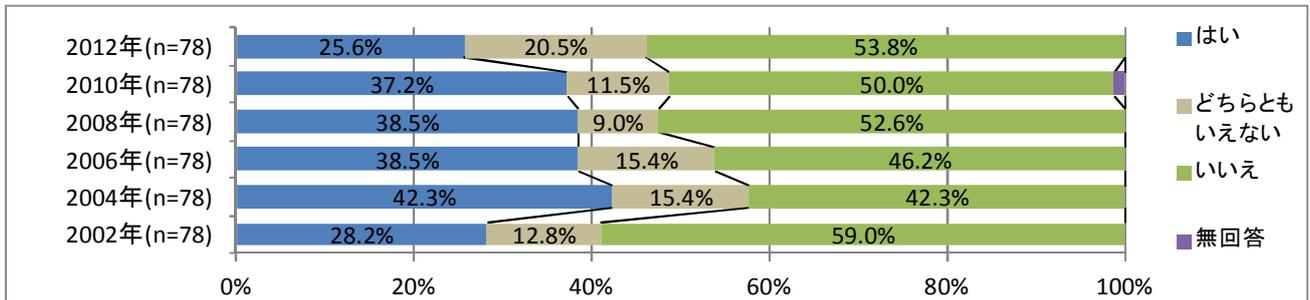
図表 4-6 ささいなことが気になって眠れないことがあるか（壮年期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	26 (44.8%)	12 (20.7%)	20 (34.5%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	19 (32.8%)	14 (24.1%)	25 (43.1%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	22 (37.9%)	8 (13.8%)	28 (48.3%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	18 (31.0%)	12 (20.7%)	26 (44.8%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	25 (43.1%)	5 (8.6%)	28 (48.3%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	18 (31.0%)	6 (10.3%)	34 (58.6%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



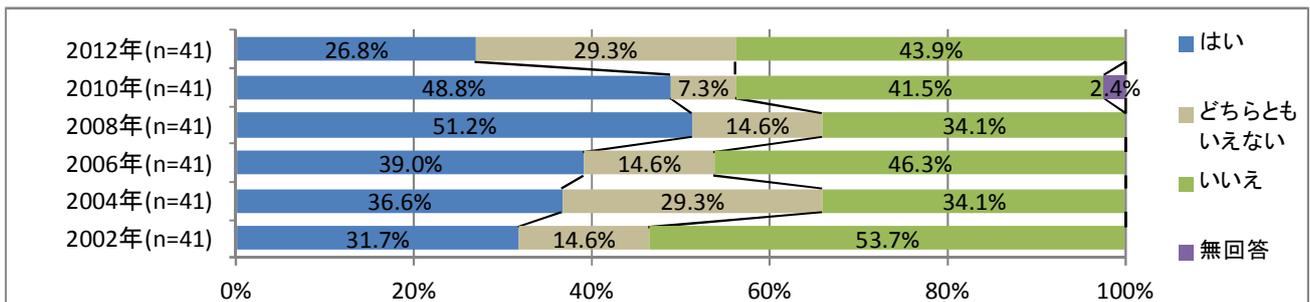
図表 4-7 ささいなことが気になって眠れないことがあるか（前期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	20 (25.6%)	16 (20.5%)	42 (53.8%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	29 (37.2%)	9 (11.5%)	39 (50.0%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	30 (38.5%)	7 (9.0%)	41 (52.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	30 (38.5%)	12 (15.4%)	36 (46.2%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	33 (42.3%)	12 (15.4%)	33 (42.3%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	22 (28.2%)	10 (12.8%)	46 (59.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 4-8 ささいなことが気になって眠れないことがあるか（後期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	11 (26.8%)	12 (29.3%)	18 (43.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	20 (48.8%)	3 (7.3%)	17 (41.5%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	21 (51.2%)	6 (14.6%)	14 (34.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	16 (39.0%)	6 (14.6%)	19 (46.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	15 (36.6%)	12 (29.3%)	14 (34.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	13 (31.7%)	6 (14.6%)	22 (53.7%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■若い頃と同じように、興味ややる気があるか

(全体の結果)

若い頃と同じように「興味ややる気がある」人は、初回調査時（2002年）が70.6%と最も多く、その後は2010年調査時を除いて漸減傾向にあり、2012年調査時では36.2%と最も少なくなっている（-34.4ポイント）。特に、2010年調査時以降の2年間で22.6ポイントと大きく減少している。（図表4-9）

(壮年期群→Y0)

若い頃と同じように「興味ややる気がある」人は、初回調査時（2002年）が75.9%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2012年調査時では48.3%と大きく減少している（-27.6ポイント）。（図表4-10）

(前期高齢期群→00)

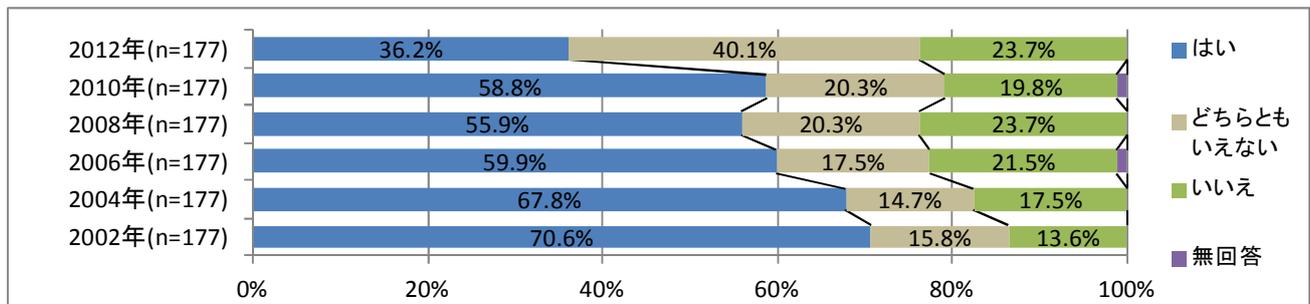
若い頃と同じように「興味ややる気がある」人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで約6割～7割で推移しているが、2012年調査時では28.2%と最も少なく、2010年調査時以降の2年間で非常に大きく減少している（-41.0ポイント）。（図表4-11）

(後期高齢期群→0d0)

若い頃と同じように「興味ややる気がある」人は、初回調査時（2002年）が75.6%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2012年調査時では34.1%と非常に大きく減少している（-41.5ポイント）。（図表4-12）

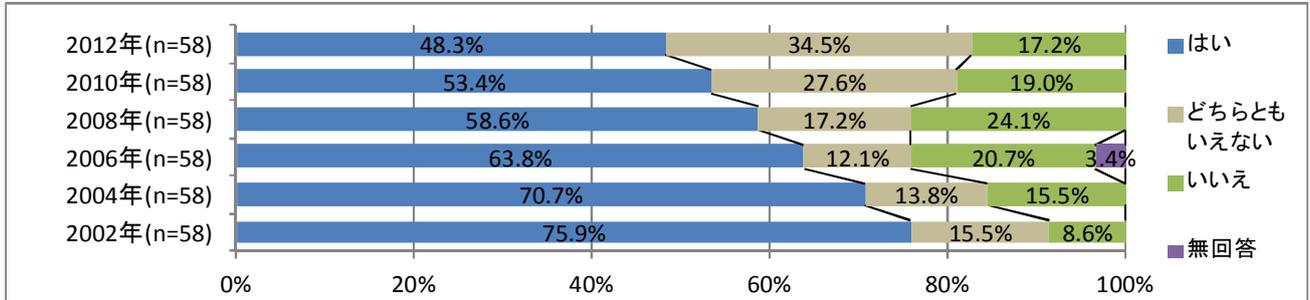
図表4-9 若い頃と同じように、興味ややる気があるか（全体）

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	64 (36.2%)	71 (40.1%)	42 (23.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	104 (58.8%)	36 (20.3%)	35 (19.8%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	99 (55.9%)	36 (20.3%)	42 (23.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	106 (59.9%)	31 (17.5%)	38 (21.5%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	120 (67.8%)	26 (14.7%)	31 (17.5%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	125 (70.6%)	28 (15.8%)	24 (13.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



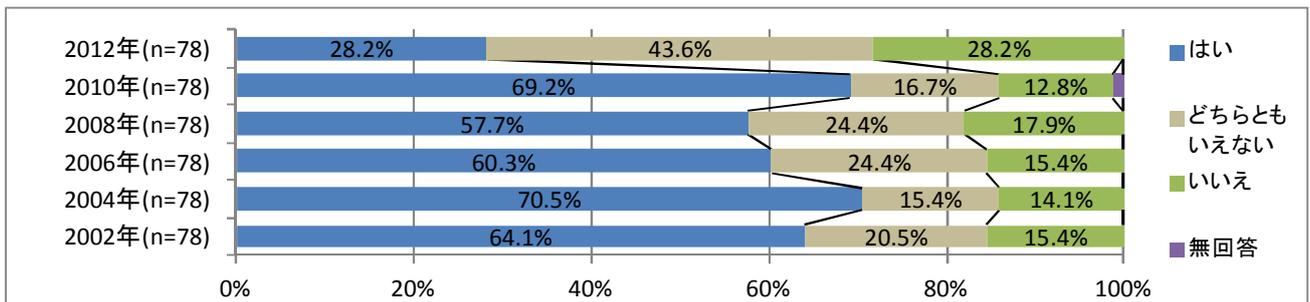
図表 4-10 若い頃と同じように、興味ややる気があるか (壮年期群)

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	28 (48.3%)	20 (34.5%)	10 (17.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	31 (53.4%)	16 (27.6%)	11 (19.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	34 (58.6%)	10 (17.2%)	14 (24.1%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	37 (63.8%)	7 (12.1%)	12 (20.7%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	41 (70.7%)	8 (13.8%)	9 (15.5%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	44 (75.9%)	9 (15.5%)	5 (8.6%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



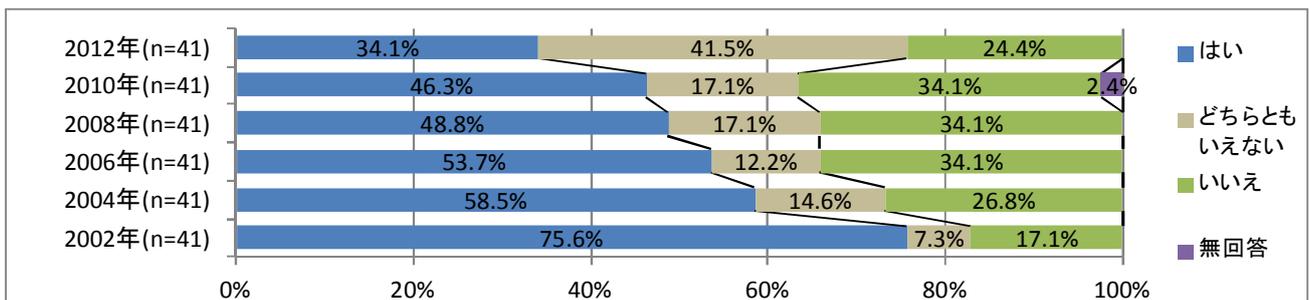
図表 4-11 若い頃と同じように、興味ややる気があるか (前期高齢期群)

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	22 (28.2%)	34 (43.6%)	22 (28.2%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	54 (69.2%)	13 (16.7%)	10 (12.8%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	45 (57.7%)	19 (24.4%)	14 (17.9%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	47 (60.3%)	19 (24.4%)	12 (15.4%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	55 (70.5%)	12 (15.4%)	11 (14.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	50 (64.1%)	16 (20.5%)	12 (15.4%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 4-12 若い頃と同じように、興味ややる気があるか (後期高齢期群)

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	14 (34.1%)	17 (41.5%)	10 (24.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	19 (46.3%)	7 (17.1%)	14 (34.1%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	20 (48.8%)	7 (17.1%)	14 (34.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	22 (53.7%)	5 (12.2%)	14 (34.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	24 (58.5%)	6 (14.6%)	11 (26.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	31 (75.6%)	3 (7.3%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■たとえ病気があっても自分なりの生活ができていると思うか

(全体の結果)

たとえ病気があっても「自分なりの生活ができている」と回答した人は、2004年調査時から2012年調査時まで7割以上を維持しているが、2012年調査時では80.2%と最も多くなっている。(図表4-13)

(壮年期群→Y0)

たとえ病気があっても「自分なりの生活ができている」と回答した人は、2004年調査時から2012年調査時まで8割程度で推移しているが、2008年調査時と2012年調査時では84.5%と最も多くなっている。(図表4-14)

(前期高齢期群→00)

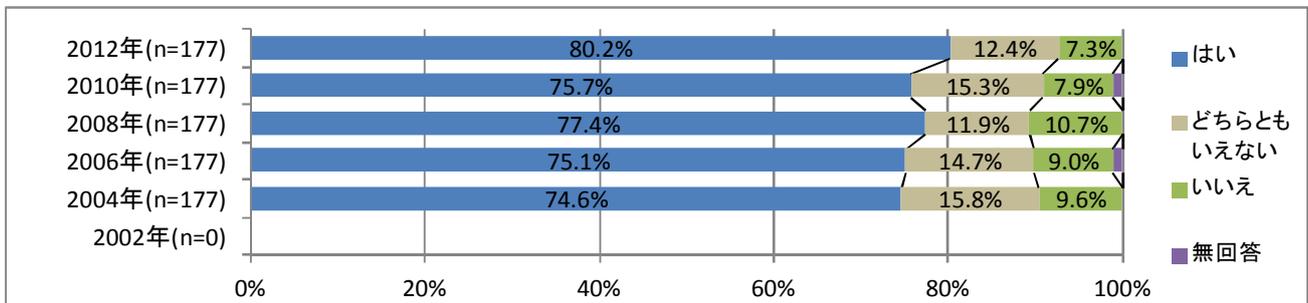
たとえ病気があっても「自分なりの生活ができている」と回答した人は、2004年調査時から2012年調査時まで7割以上を維持しているが、2012年調査時では82.1%と最も多くなっている。(図表4-15)

(後期高齢期群→0d0)

たとえ病気があっても「自分なりの生活ができている」と回答した人は、2006年調査時から漸増傾向にあり、2010年調査時では70.7%を占めている(+7.3ポイント)。(図表4-16)

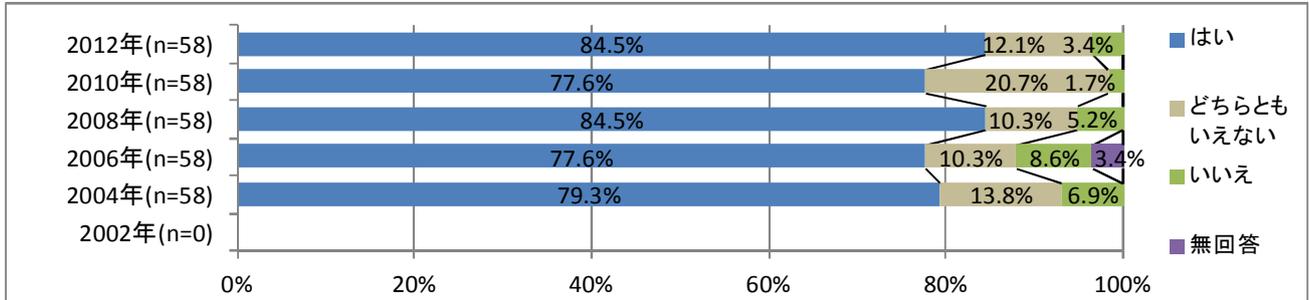
図表4-13 たとえ病気があっても自分なりの生活ができていると思うか(全体)

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	142 (80.2%)	22 (12.4%)	13 (7.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	134 (75.7%)	27 (15.3%)	14 (7.9%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	137 (77.4%)	21 (11.9%)	19 (10.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	133 (75.1%)	26 (14.7%)	16 (9.0%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	132 (74.6%)	28 (15.8%)	17 (9.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=0)						



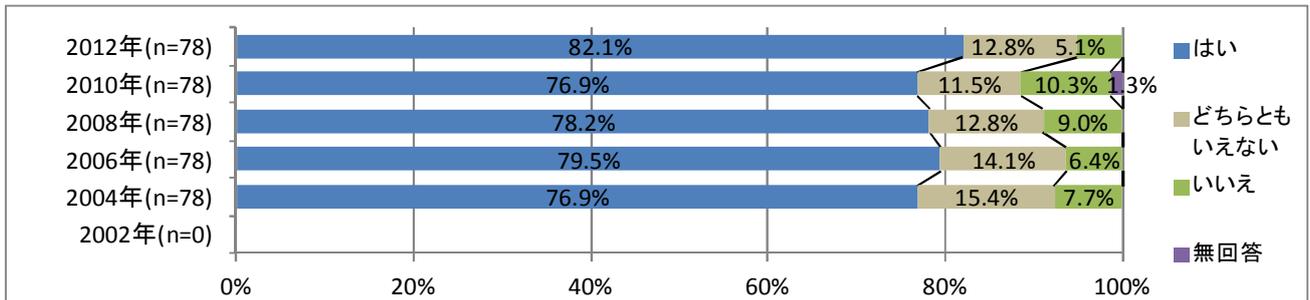
図表 4-14 たとえ病気があっても自分なりの生活ができていると思うか（壮年期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	49 (84.5%)	7 (12.1%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	45 (77.6%)	12 (20.7%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	49 (84.5%)	6 (10.3%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	45 (77.6%)	6 (10.3%)	5 (8.6%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	46 (79.3%)	8 (13.8%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=0)						



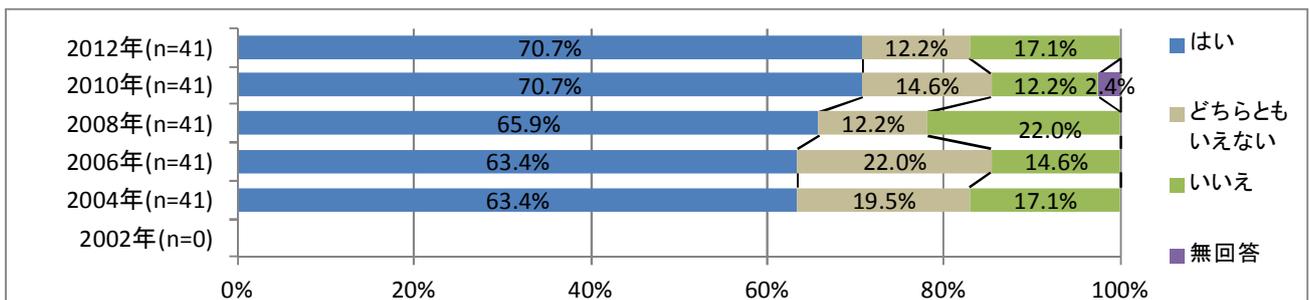
図表 4-15 たとえ病気があっても自分なりの生活ができていると思うか（前期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	64 (82.1%)	10 (12.8%)	4 (5.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	60 (76.9%)	9 (11.5%)	8 (10.3%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	61 (78.2%)	10 (12.8%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	62 (79.5%)	11 (14.1%)	5 (6.4%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	60 (76.9%)	12 (15.4%)	6 (7.7%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=0)						



図表 4-16 たとえ病気があっても自分なりの生活ができていると思うか（後期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	29 (70.7%)	5 (12.2%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	29 (70.7%)	6 (14.6%)	5 (12.2%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	27 (65.9%)	5 (12.2%)	9 (22.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	26 (63.4%)	9 (22.0%)	6 (14.6%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	26 (63.4%)	8 (19.5%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=0)						



■今、楽しく暮らしているか

(全体の結果)

「楽しく暮らしている」人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで8割以上で推移しているが、2012年調査時では72.9%と最も少なく、2010年調査時以降の2年間で16.4ポイント減少している。（図表4-17）

(壮年期群→Y0)

「楽しく暮らしている」人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時までほぼ8割を維持しているが、2012年調査時では63.8%と最も少なく、2010年調査時以降の2年間で22.4ポイント減少している。（図表4-18）

(前期高齢期群→00)

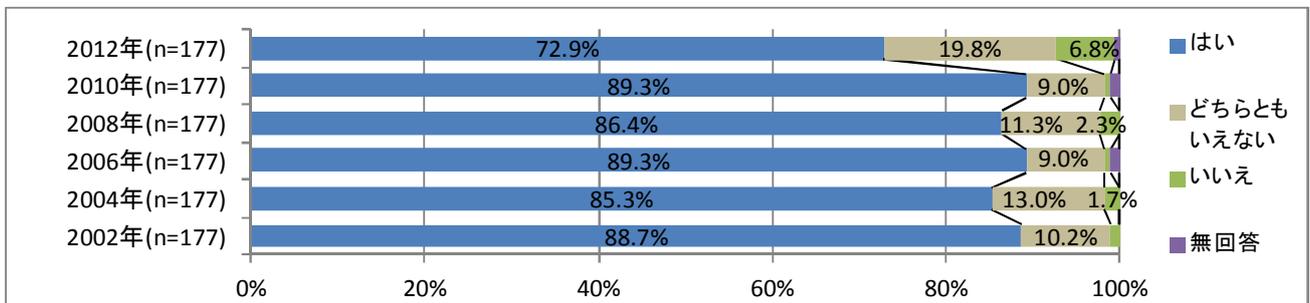
「楽しく暮らしている」人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで9割前後で推移しているが、2012年調査時では76.9%と最も少なく、2010年調査時以降の2年間で16.7ポイント減少している。（図表4-19）

(後期高齢期群→0d0)

「楽しく暮らしている」人は、すべての調査時において7割以上を占めている。2006年調査時から漸減傾向にあり、2012年調査時では78.0%と最も少なくなっている（-14.7ポイント）。（図表4-20）

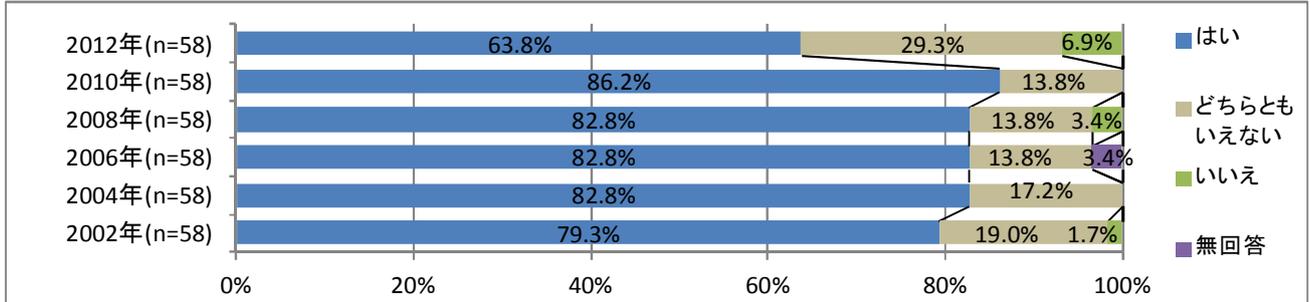
図表4-17 今、楽しく暮らしているか（全体）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	129 (72.9%)	35 (19.8%)	12 (6.8%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	158 (89.3%)	16 (9.0%)	1 (0.6%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	153 (86.4%)	20 (11.3%)	4 (2.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	158 (89.3%)	16 (9.0%)	1 (0.6%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	151 (85.3%)	23 (13.0%)	3 (1.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	157 (88.7%)	18 (10.2%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



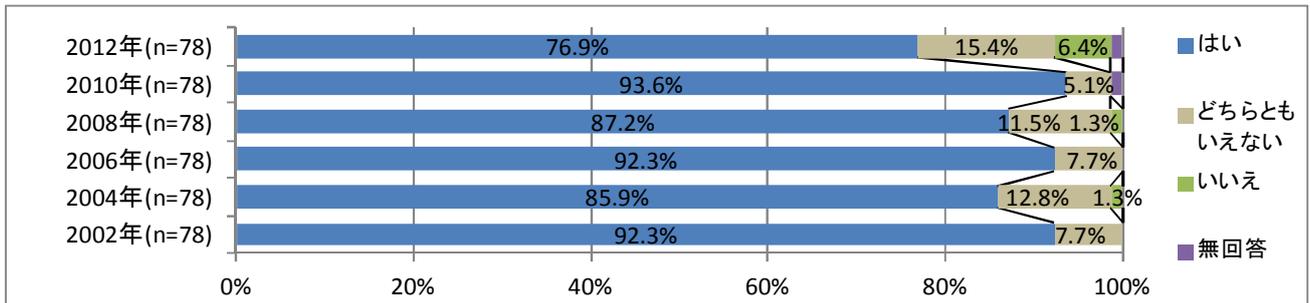
図表 4-18 今、楽しく暮らしているか（壮年期群）

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	37 (63.8%)	17 (29.3%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	50 (86.2%)	8 (13.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	48 (82.8%)	8 (13.8%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	48 (82.8%)	8 (13.8%)	0 (0.0%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	48 (82.8%)	10 (17.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	46 (79.3%)	11 (19.0%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



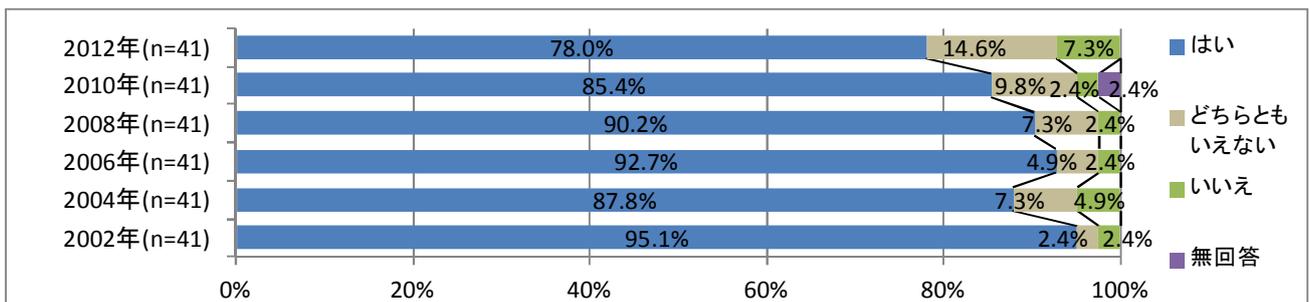
図表 4-19 今、楽しく暮らしているか（前期高齢期群）

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	60 (76.9%)	12 (15.4%)	5 (6.4%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	73 (93.6%)	4 (5.1%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	68 (87.2%)	9 (11.5%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	72 (92.3%)	6 (7.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	67 (85.9%)	10 (12.8%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	72 (92.3%)	6 (7.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 4-20 今、楽しく暮らしているか（後期高齢期群）

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	32 (78.0%)	6 (14.6%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	35 (85.4%)	4 (9.8%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	37 (90.2%)	3 (7.3%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	38 (92.7%)	2 (4.9%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	36 (87.8%)	3 (7.3%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	39 (95.1%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■何となく不安にかられることがあるか

(全体の結果)

何となく「不安にかられることがある」人は、2004年調査時が49.7%と最も多く、それ以降は4割程度で推移しているが、2012年調査時では36.7%と最も少なくなっている。(図表4-21)

(壮年期群→Y0)

何となく「不安にかられることがある」人は、すべての調査時で4割以上を占めている。2008年調査時が50.0%と最も多く、その後はやや漸減傾向にあり、2012年調査時では44.8%となっている(-5.2ポイント)。(図表4-22)

(前期高齢期群→00)

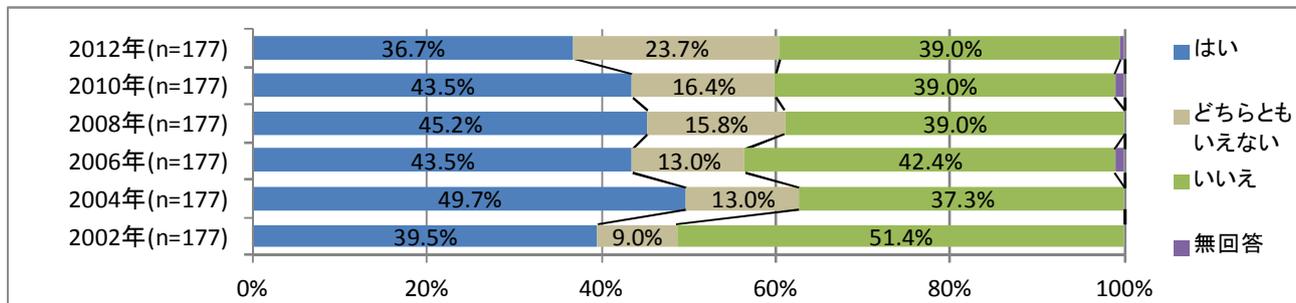
何となく「不安にかられることがある」人は、2004年調査時が57.7%と最も多く、その後は2008年調査時を除いて漸減傾向にあり、2012年調査時では29.5%と大きく減少している(-28.2ポイント)。(図表4-23)

(後期高齢期群→0d0)

何となく「不安にかられることがある」人は、2010年調査時が51.2%と最も多く、それ以外はほぼ4割程度で推移している。(図表4-24)

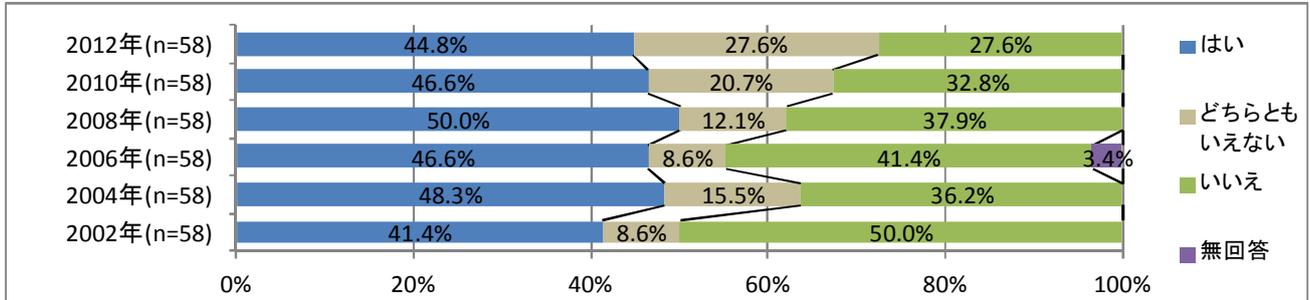
図表4-21 何となく不安にかられることがあるか (全体)

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	65 (36.7%)	42 (23.7%)	69 (39.0%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	77 (43.5%)	29 (16.4%)	69 (39.0%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	80 (45.2%)	28 (15.8%)	69 (39.0%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	77 (43.5%)	23 (13.0%)	75 (42.4%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	88 (49.7%)	23 (13.0%)	66 (37.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	70 (39.5%)	16 (9.0%)	91 (51.4%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



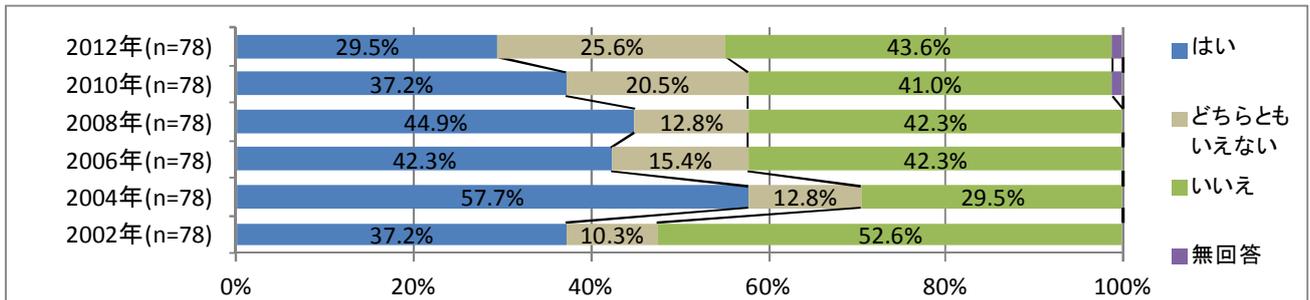
図表 4-22 何となく不安にかられることがあるか（壮年期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	26 (44.8%)	16 (27.6%)	16 (27.6%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	27 (46.6%)	12 (20.7%)	19 (32.8%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	29 (50.0%)	7 (12.1%)	22 (37.9%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	27 (46.6%)	5 (8.6%)	24 (41.4%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	28 (48.3%)	9 (15.5%)	21 (36.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	24 (41.4%)	5 (8.6%)	29 (50.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



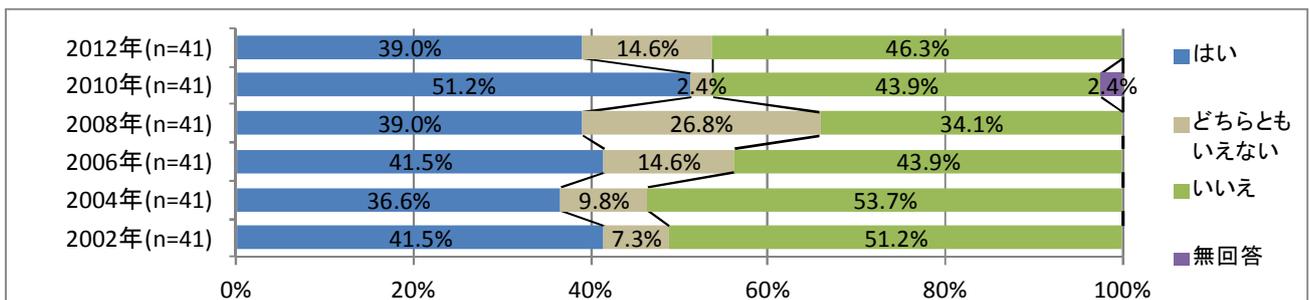
図表 4-23 何となく不安にかられることがあるか（前期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	23 (29.5%)	20 (25.6%)	34 (43.6%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	29 (37.2%)	16 (20.5%)	32 (41.0%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	35 (44.9%)	10 (12.8%)	33 (42.3%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	33 (42.3%)	12 (15.4%)	33 (42.3%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	45 (57.7%)	10 (12.8%)	23 (29.5%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	29 (37.2%)	8 (10.3%)	41 (52.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 4-24 何となく不安にかられることがあるか（後期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	16 (39.0%)	6 (14.6%)	19 (46.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	21 (51.2%)	1 (2.4%)	18 (43.9%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	16 (39.0%)	11 (26.8%)	14 (34.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	17 (41.5%)	6 (14.6%)	18 (43.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	15 (36.6%)	4 (9.8%)	22 (53.7%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	17 (41.5%)	3 (7.3%)	21 (51.2%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■今までの生活にかなり満足しているか

(全体の結果)

今までの生活に「満足している」人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで7割程度で推移しているが、2012年調査時では58.8%と最も少なくなっている。（図表4-25）

(壮年期群→Y0)

今までの生活に「満足している」人は、2004年調査時が69.0%と最も多く、その後は2008年調査時を除いて漸減傾向にあり、2012年調査時では46.6%と最も少なくなっている（-22.4ポイント）。（図表4-26）

(前期高齢期群→00)

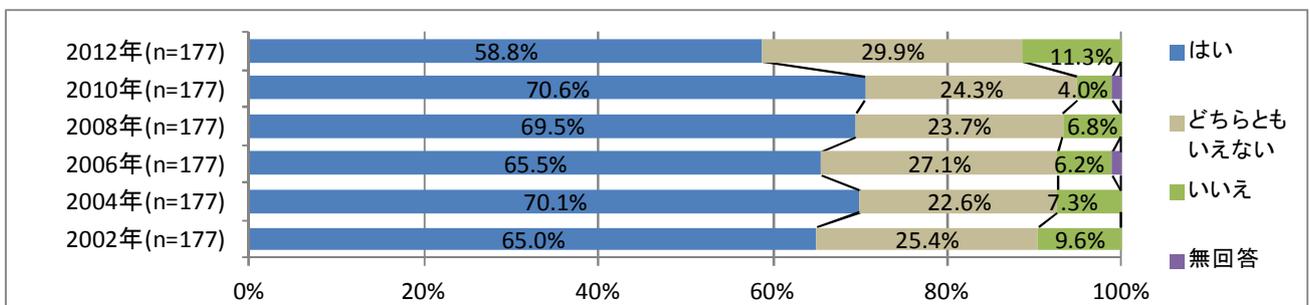
今までの生活に「満足している」人は、初回調査時（2002年）から2008年調査時を除いて漸増傾向にあり、2010年調査時では78.2%と最も多くなっている（+17.9ポイント）。しかし、2012年調査時では59.0%と最も少なく、2010年調査時からの2年間で19.2ポイント減少している。（図表4-27）

(後期高齢期群→0d0)

今までの生活に「満足している」人は、初回調査時（2002年）から2006年調査時まで7割程度で推移しているが、2008年調査時では80.5%と最も多く、その後も8割近くで推移している。（図表4-28）

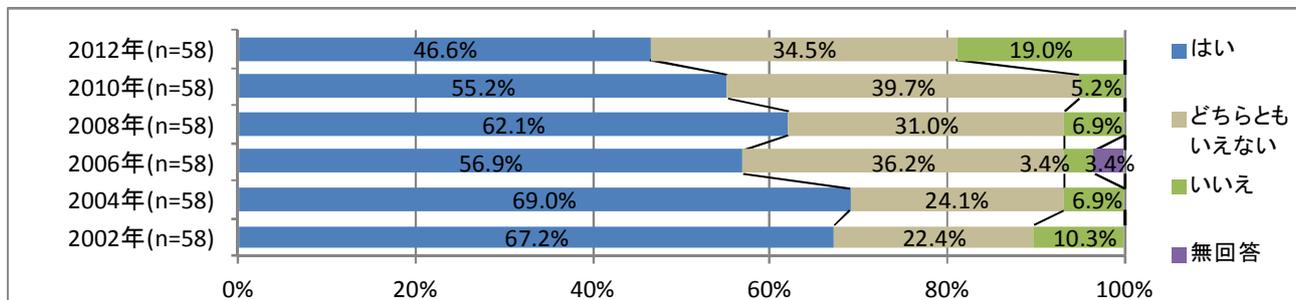
図表4-25 今までの生活にかなり満足しているか（全体）

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	104 (58.8%)	53 (29.9%)	20 (11.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	125 (70.6%)	43 (24.3%)	7 (4.0%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	123 (69.5%)	42 (23.7%)	12 (6.8%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	116 (65.5%)	48 (27.1%)	11 (6.2%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	124 (70.1%)	40 (22.6%)	13 (7.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	115 (65.0%)	45 (25.4%)	17 (9.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



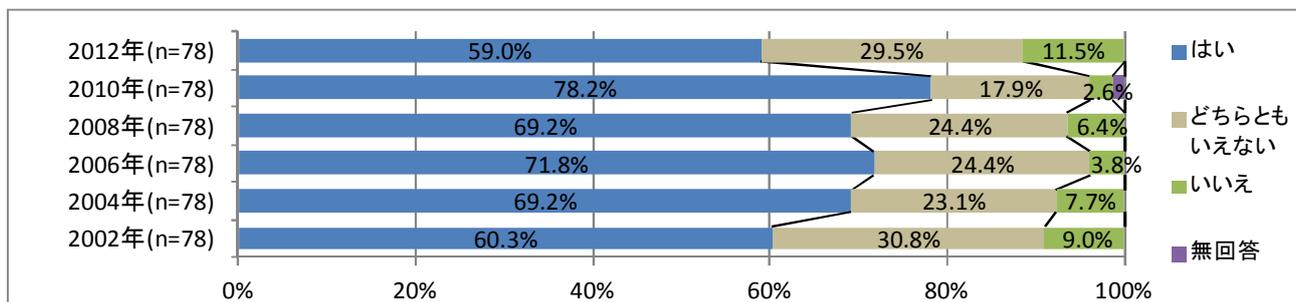
図表 4-26 今までの生活にかなり満足しているか（壮年期群）

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	27 (46.6%)	20 (34.5%)	11 (19.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	32 (55.2%)	23 (39.7%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	36 (62.1%)	18 (31.0%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	33 (56.9%)	21 (36.2%)	2 (3.4%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	40 (69.0%)	14 (24.1%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	39 (67.2%)	13 (22.4%)	6 (10.3%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



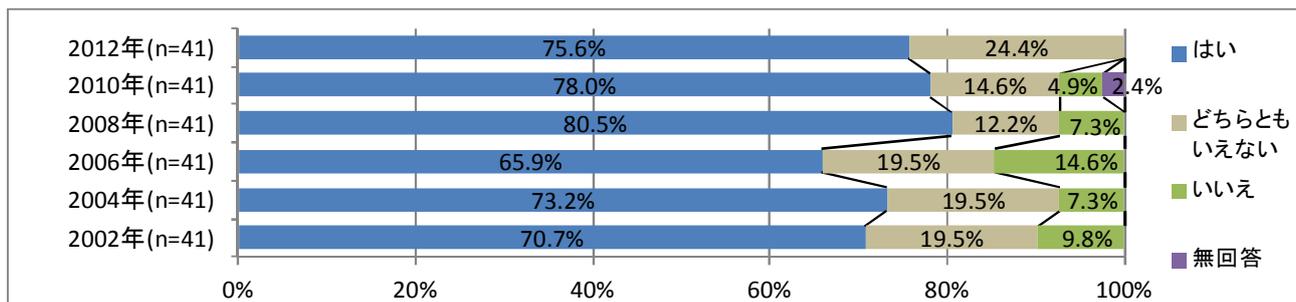
図表 4-27 今までの生活にかなり満足しているか（前期高齢期群）

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	46 (59.0%)	23 (29.5%)	9 (11.5%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	61 (78.2%)	14 (17.9%)	2 (2.6%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	54 (69.2%)	19 (24.4%)	5 (6.4%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	56 (71.8%)	19 (24.4%)	3 (3.8%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	54 (69.2%)	18 (23.1%)	6 (7.7%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	47 (60.3%)	24 (30.8%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 4-28 今までの生活にかなり満足しているか（後期高齢期群）

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	31 (75.6%)	10 (24.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	32 (78.0%)	6 (14.6%)	2 (4.9%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	33 (80.5%)	5 (12.2%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	27 (65.9%)	8 (19.5%)	6 (14.6%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	30 (73.2%)	8 (19.5%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	29 (70.7%)	8 (19.5%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■興味や楽しみごとを持って生活しているか

(全体の結果)

「興味や楽しみごとを持って生活している」人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで8割程度で推移しているが、2012年調査時では63.3%と最も少なく、2010年調査時以降の2年間で13.5ポイント減少している。（図表4-29）

(壮年期群→Y0)

「興味や楽しみごとを持って生活している」人は、すべての調査時で半数以上を占めている。2004年調査時から漸増傾向にあり、2008年調査時では77.6%と最も多い（+10.4ポイント）。しかし、2008年調査時以降は漸減傾向にあり、2012年調査時では55.2%と大きく減少している（-22.4ポイント）。（図表4-30）

(前期高齢期群→00)

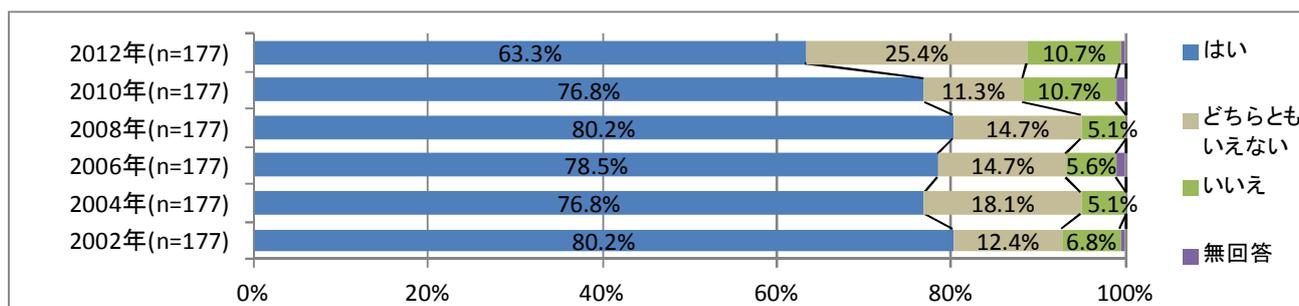
「興味や楽しみごとを持って生活している」人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで8割以上を維持しており、2008年調査時が87.2%と最も多い。2008年調査時以降は漸減傾向にあり、2012年調査時では69.2%と最も少なくなっている（-18.0ポイント）。（図表4-31）

(後期高齢期群→0d0)

「興味や楽しみごとを持って生活している」人は、初回調査時（2002年）が87.8%と最も多く、それ以降は7割～8割程度で推移しているが、2012年調査時では63.4%と最も少なく、10年間で24.4ポイント減少している。（図表4-32）

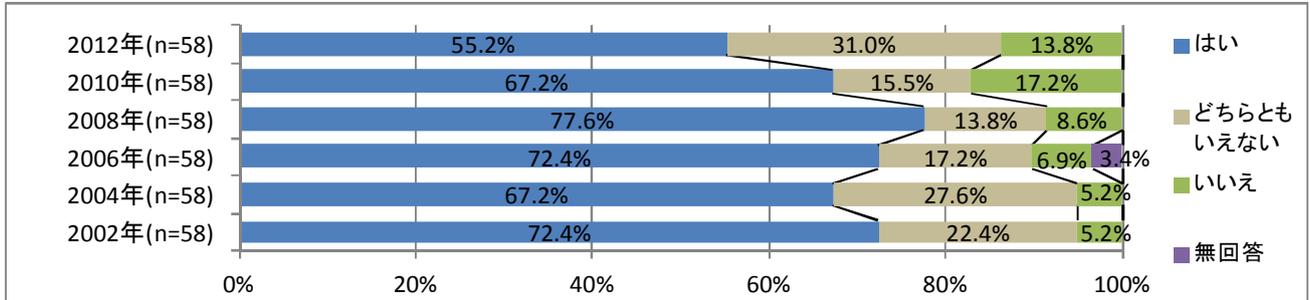
図表4-29 興味や楽しみごとを持って生活しているか（全体）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	112 (63.3%)	45 (25.4%)	19 (10.7%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	136 (76.8%)	20 (11.3%)	19 (10.7%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	142 (80.2%)	26 (14.7%)	9 (5.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	139 (78.5%)	26 (14.7%)	10 (5.6%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	136 (76.8%)	32 (18.1%)	9 (5.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	142 (80.2%)	22 (12.4%)	12 (6.8%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	



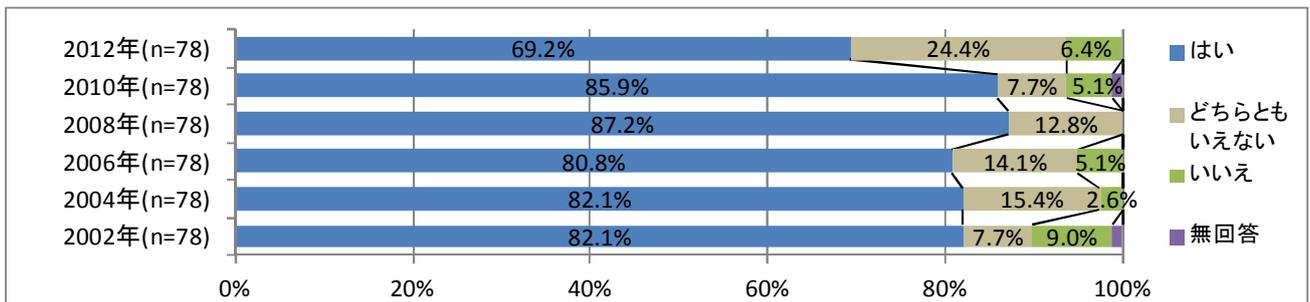
図表 4-30 興味や楽しみごとを持って生活しているか（壮年期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	32 (55.2%)	18 (31.0%)	8 (13.8%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	39 (67.2%)	9 (15.5%)	10 (17.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	45 (77.6%)	8 (13.8%)	5 (8.6%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	42 (72.4%)	10 (17.2%)	4 (6.9%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	39 (67.2%)	16 (27.6%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	42 (72.4%)	13 (22.4%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



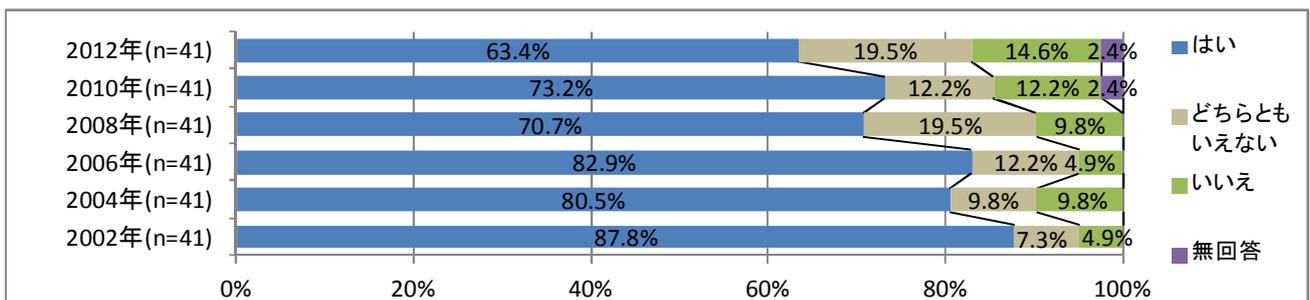
図表 4-31 興味や楽しみごとを持って生活しているか（前期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	54 (69.2%)	19 (24.4%)	5 (6.4%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	67 (85.9%)	6 (7.7%)	4 (5.1%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	68 (87.2%)	10 (12.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	63 (80.8%)	11 (14.1%)	4 (5.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	64 (82.1%)	12 (15.4%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	64 (82.1%)	6 (7.7%)	7 (9.0%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	



図表 4-32 興味や楽しみごとを持って生活しているか（後期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	26 (63.4%)	8 (19.5%)	6 (14.6%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	30 (73.2%)	5 (12.2%)	5 (12.2%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	29 (70.7%)	8 (19.5%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	34 (82.9%)	5 (12.2%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	33 (80.5%)	4 (9.8%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	36 (87.8%)	3 (7.3%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■自分の周囲に起きた問題は自分で解決するようにしているか

(全体の結果)

自分の周囲に起きた問題を「自分で解決するようにしている」人は、2004年調査時から2012年調査時までほぼ85%を維持しており、大きな変化はみられない。(図表4-33)

(壮年期群→Y0)

自分の周囲に起きた問題を「自分で解決するようにしている」人は、2004年調査時から2012年調査時まで8割以上を維持しており、大きな変化はみられない。(図表4-34)

(前期高齢期群→00)

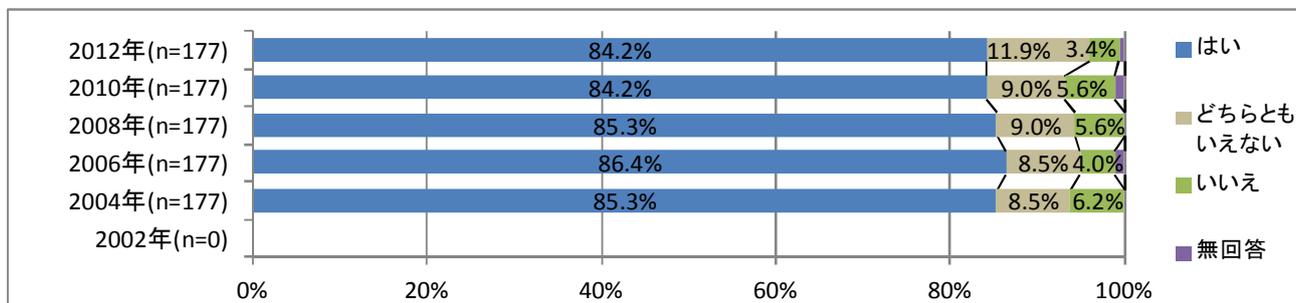
自分の周囲に起きた問題を「自分で解決するようにしている」人は、2004年調査時から2012年調査時までほぼ85%を維持しており、大きな変化はみられない。(図表4-35)

(後期高齢期群→0d0)

自分の周囲に起きた問題を「自分で解決するようにしている」人は、2004年調査時が90.2%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2012年調査時では73.2%と最も少なくなっている(−17.0ポイント)。(図表4-36)

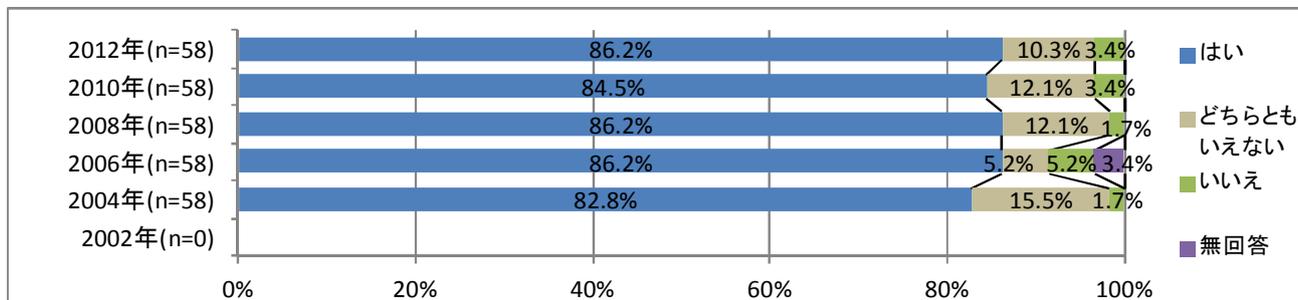
図表4-33 自分の周囲に起きた問題は自分で解決するようにしているか(全体)

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	149 (84.2%)	21 (11.9%)	6 (3.4%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	149 (84.2%)	16 (9.0%)	10 (5.6%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	151 (85.3%)	16 (9.0%)	10 (5.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	153 (86.4%)	15 (8.5%)	7 (4.0%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	151 (85.3%)	15 (8.5%)	11 (6.2%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=0)						



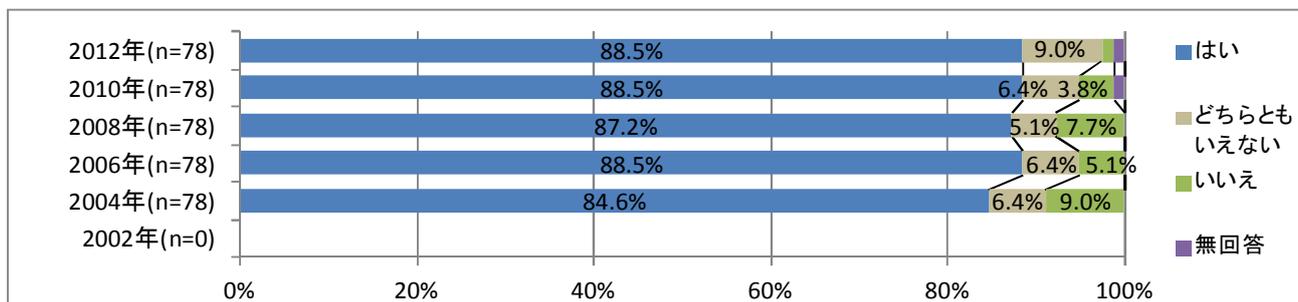
図表 4-34 自分の周囲に起きた問題は自分で解決するようにしているか（壮年期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	50 (86.2%)	6 (10.3%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	49 (84.5%)	7 (12.1%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	50 (86.2%)	7 (12.1%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	50 (86.2%)	3 (5.2%)	3 (5.2%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	48 (82.8%)	9 (15.5%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=0)						



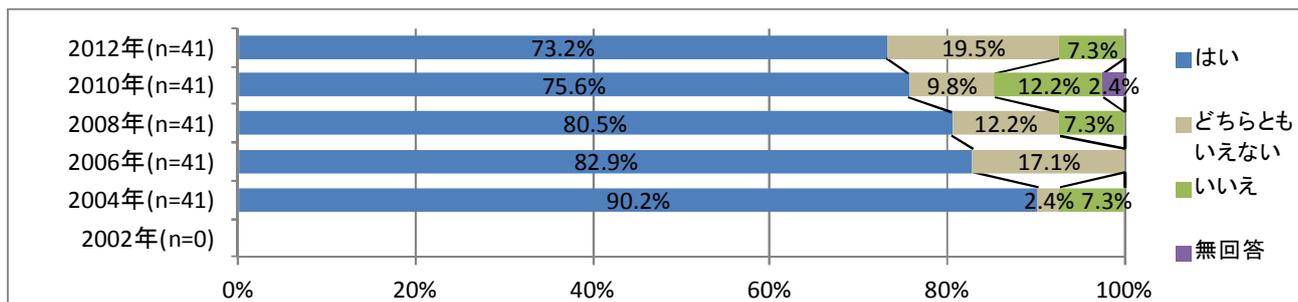
図表 4-35 自分の周囲に起きた問題は自分で解決するようにしているか（前期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	69 (88.5%)	7 (9.0%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	69 (88.5%)	5 (6.4%)	3 (3.8%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	68 (87.2%)	4 (5.1%)	6 (7.7%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	69 (88.5%)	5 (6.4%)	4 (5.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	66 (84.6%)	5 (6.4%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=0)						



図表 4-36 自分の周囲に起きた問題は自分で解決するようにしているか（後期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	30 (73.2%)	8 (19.5%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	31 (75.6%)	4 (9.8%)	5 (12.2%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	33 (80.5%)	5 (12.2%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	34 (82.9%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	37 (90.2%)	1 (2.4%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=0)						



■ささいなことでも気にするようになったと思うか

(全体の結果)

ささいなことを「気にするようになった」人は、すべての調査時において3割程度で推移しており、大きな変化はみられない。一方「気にしない」人は、すべての調査時で4割以上を占めており、初回調査時(2002年)が53.1%と最も多い。2008年調査時から漸減傾向にあり、2012年調査時では42.4%と最も少なくなっている(−9.6ポイント)。(図表4-37)

(壮年期群→Y0)

ささいなことを「気にするようになった」人は、初回調査時(2002年)から2006年調査時まで3割以上で推移しているが、2008年調査時以降は2割程度に減少している。一方「気にしない」人は、すべての調査時でほぼ4割を超えているが、2008年調査時の58.6%をピークに漸減し、2012年調査時では37.9%と最も少なくなっている(−20.7ポイント)。(図表4-38)

(前期高齢期群→00)

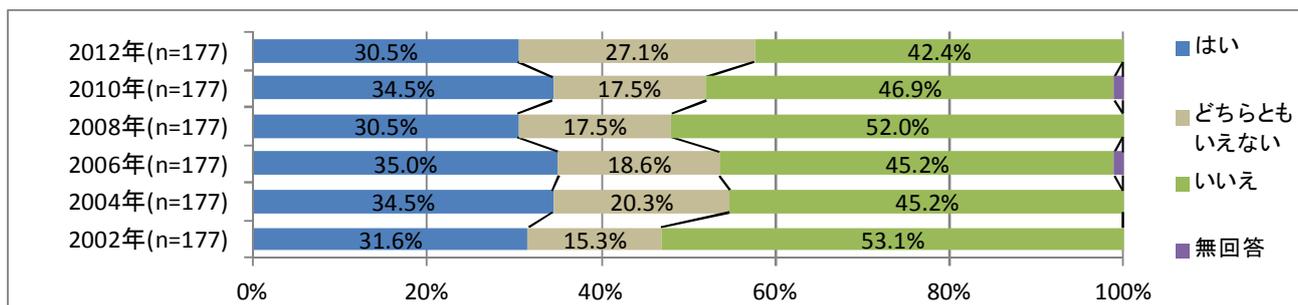
ささいなことを「気にするようになった」人は、すべての調査時において3割以上で推移しているが、2008年調査時の42.3%をピークに漸減傾向にあり、2012年調査時では33.3%となっている(−9.0ポイント)。一方「気にしない」人は、初回調査時(2002年)が55.1%と最も多く、その後は増減を示しながら4割程度で推移している。(図表4-39)

(後期高齢期群→0d0)

ささいなことを「気にするようになった」人は、初回調査時(2002年)から漸増傾向にあり、2006年調査時では39.0%と最も多い(+9.7ポイント)。しかし、2008年調査時では22.0%に減少し(−17.0ポイント)、その後は3割程度で推移している。(図表4-40)

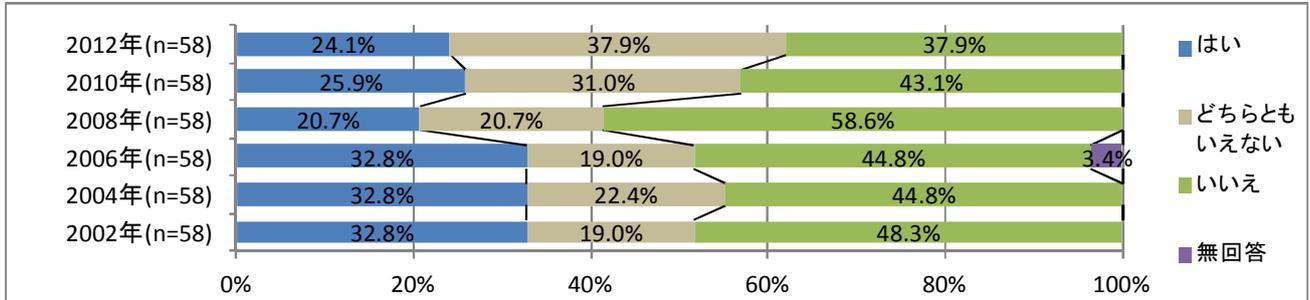
図表4-37 ささいなことでも気にするようになったと思うか(全体)

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	54 (30.5%)	48 (27.1%)	75 (42.4%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	61 (34.5%)	31 (17.5%)	83 (46.9%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	54 (30.5%)	31 (17.5%)	92 (52.0%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	62 (35.0%)	33 (18.6%)	80 (45.2%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	61 (34.5%)	36 (20.3%)	80 (45.2%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	56 (31.6%)	27 (15.3%)	94 (53.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



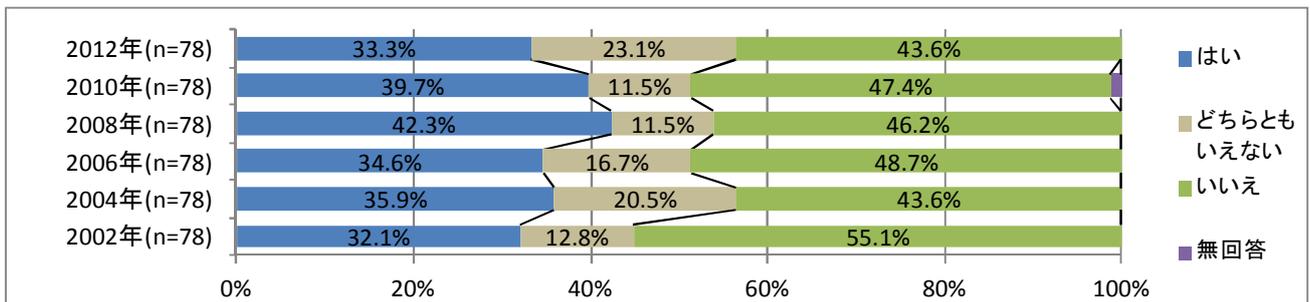
図表 4-38 ささいなことでも気にするようになったと思うか（壮年期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	14 (24.1%)	22 (37.9%)	22 (37.9%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	15 (25.9%)	18 (31.0%)	25 (43.1%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	12 (20.7%)	12 (20.7%)	34 (58.6%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	19 (32.8%)	11 (19.0%)	26 (44.8%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	19 (32.8%)	13 (22.4%)	26 (44.8%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	19 (32.8%)	11 (19.0%)	28 (48.3%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



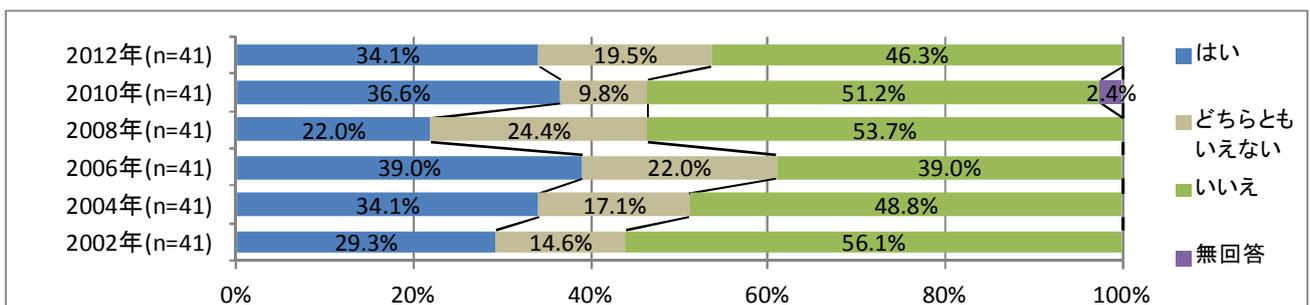
図表 4-39 ささいなことでも気にするようになったと思うか（前期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	26 (33.3%)	18 (23.1%)	34 (43.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	31 (39.7%)	9 (11.5%)	37 (47.4%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	33 (42.3%)	9 (11.5%)	36 (46.2%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	27 (34.6%)	13 (16.7%)	38 (48.7%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	28 (35.9%)	16 (20.5%)	34 (43.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	25 (32.1%)	10 (12.8%)	43 (55.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 4-40 ささいなことでも気にするようになったと思うか（後期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	14 (34.1%)	8 (19.5%)	19 (46.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	15 (36.6%)	4 (9.8%)	21 (51.2%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	9 (22.0%)	10 (24.4%)	22 (53.7%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	16 (39.0%)	9 (22.0%)	16 (39.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	14 (34.1%)	7 (17.1%)	20 (48.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	12 (29.3%)	6 (14.6%)	23 (56.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■今、幸福だと思うか

(全体の結果)

「幸福だと思っている」人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時までほぼ8割で推移しているが、2012年調査時では66.7%と最も少なく、2010年調査時以降の2年間で13.0ポイント減少している。（図表4-41）

(壮年期群→Y0)

「幸福だと思っている」人は、2006年調査時から漸増傾向にあり、2010年調査時では74.1%となっている（+5.1ポイント）。しかし、2012年調査時では58.6%と最も少なく、2010年調査時からの2年間で15.5ポイント減少している。（図表4-42）

(前期高齢期群→00)

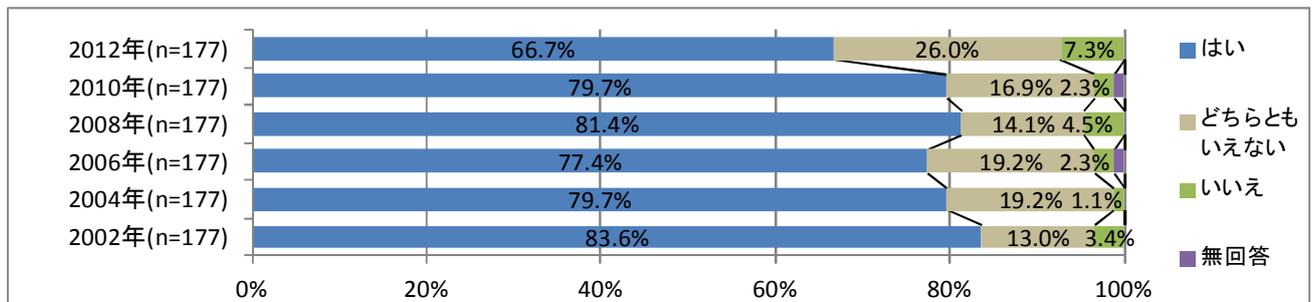
「幸福だと思っている」人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで8割以上で推移しているが、2012年調査時では69.2%と最も少なく、2010年調査時からの2年間で16.7ポイント減少している。（図表4-43）

(後期高齢期群→0d0)

「幸福だと思っている」人は、すべての調査時で7割以上を占めている。初回調査時（2002年）が90.2%と最も多く、その後は2008年調査時を除いて漸減傾向にあり、2012年調査時では73.2%と最も少なくなっている（-17.0ポイント）。（図表4-44）

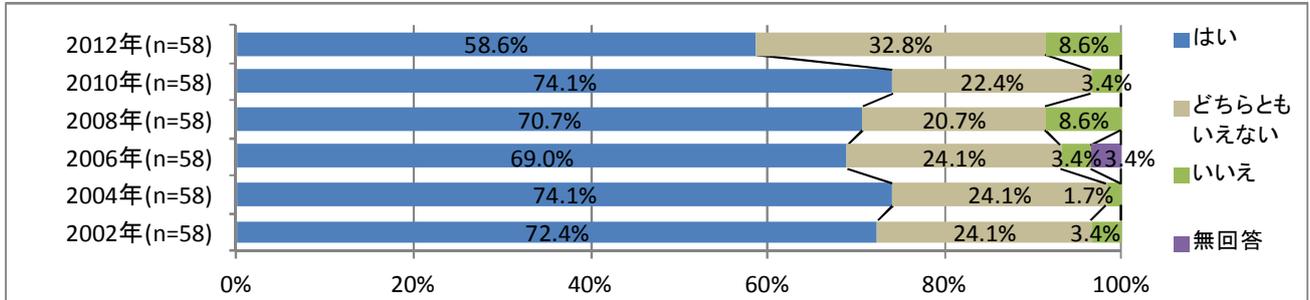
図表4-41 今、幸福だと思うか（全体）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	118 (66.7%)	46 (26.0%)	13 (7.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	141 (79.7%)	30 (16.9%)	4 (2.3%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	144 (81.4%)	25 (14.1%)	8 (4.5%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	137 (77.4%)	34 (19.2%)	4 (2.3%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	141 (79.7%)	34 (19.2%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	148 (83.6%)	23 (13.0%)	6 (3.4%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



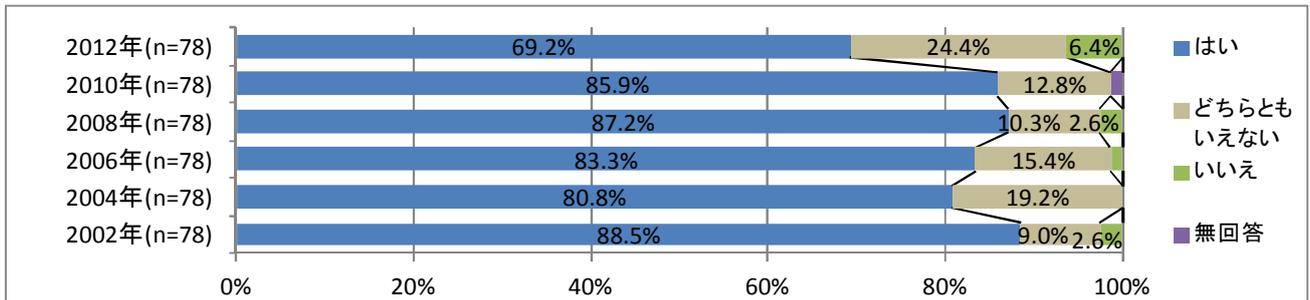
図表 4-42 今、幸福だと思うか（壮年期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	34 (58.6%)	19 (32.8%)	5 (8.6%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	43 (74.1%)	13 (22.4%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	41 (70.7%)	12 (20.7%)	5 (8.6%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	40 (69.0%)	14 (24.1%)	2 (3.4%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	43 (74.1%)	14 (24.1%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	42 (72.4%)	14 (24.1%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



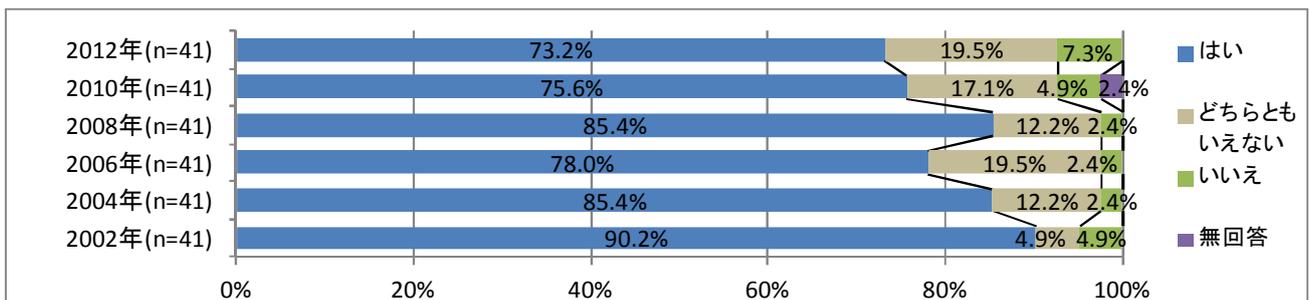
図表 4-43 今、幸福だと思うか（前期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	54 (69.2%)	19 (24.4%)	5 (6.4%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	67 (85.9%)	10 (12.8%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	68 (87.2%)	8 (10.3%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	65 (83.3%)	12 (15.4%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	63 (80.8%)	15 (19.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	69 (88.5%)	7 (9.0%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 4-44 今、幸福だと思うか（後期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	30 (73.2%)	8 (19.5%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	31 (75.6%)	7 (17.1%)	2 (4.9%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	35 (85.4%)	5 (12.2%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	32 (78.0%)	8 (19.5%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	35 (85.4%)	5 (12.2%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	37 (90.2%)	2 (4.9%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■気分の落ち込むことがあるか

(全体の結果)

「気分の落ち込むことがある」人は、すべての調査時において3割程度で推移しており、大きな変化はみられない。一方「落ち込むことがない」人は、すべての調査時で4割以上を占めており、初回調査時(2002年)が54.2%と最も多い。2008年調査時から漸減傾向にあり、2012年調査時では44.1%となっている(−9.6ポイント)。(図表4-45)

(壮年期群→Y0)

「気分の落ち込むことがある」人は、2004年調査時の44.8%をピークに漸減傾向にあり、2008年調査時では32.8%と最も少ないが(−12.0ポイント)、その後は3割~4割程度で推移している。一方「落ち込むことがない」人は、2004年調査時から漸増傾向にあり、2008年調査時では51.7%と最も多いが(+12.0ポイント)、その後は4割近くで推移している。(図表4-46)

(前期高齢期群→00)

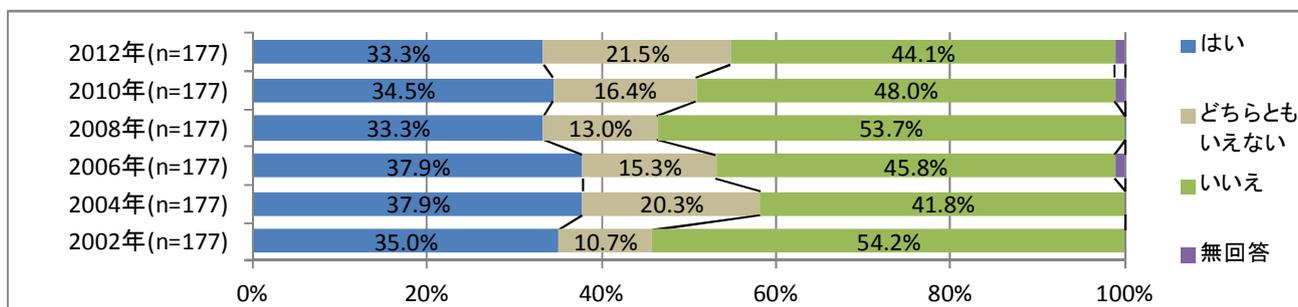
「気分の落ち込むことがある」人は、すべての調査時において3割程度で推移しているが、2006年調査時の37.2%をピークに漸減傾向にあり、2012年調査時では29.5%と最も少ない(−7.7ポイント)。一方「落ち込むことがない」人は、すべての調査時で4割以上を占めており、初回調査時(2002年)が60.3%と最も多い。2008年調査時から漸減傾向にあり、2012年調査時では46.2%となっている(−8.9ポイント)。(図表4-47)

(後期高齢期群→0d0)

「気分の落ち込むことがある」人は、すべての調査時において3割程度で推移している。2006年調査時から漸減傾向にあり、2010年調査時では29.3%と最も少ないが(−9.7ポイント)、2012年調査時では39.0%と2年間で増加している(+9.7ポイント)。一方「落ち込むことがない」人は、すべての調査時でほぼ4割を超えている。2004年調査時が39.0%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2010年調査時では56.1%と最も多い(+17.1ポイント)。しかし、2012年調査時では46.3%と2年間で9.8ポイント減少している。(図表4-48)

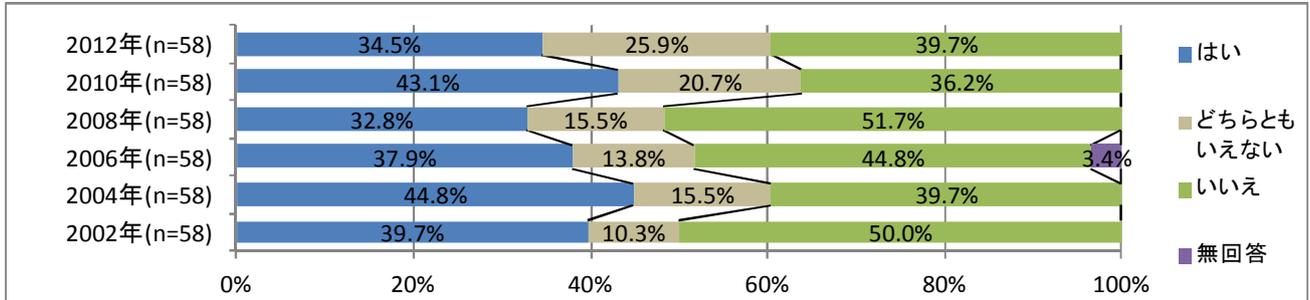
図表 4-45 気分の落ち込むことがあるか (全体)

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	59 (33.3%)	38 (21.5%)	78 (44.1%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	61 (34.5%)	29 (16.4%)	85 (48.0%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	59 (33.3%)	23 (13.0%)	95 (53.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	67 (37.9%)	27 (15.3%)	81 (45.8%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	67 (37.9%)	36 (20.3%)	74 (41.8%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	62 (35.0%)	19 (10.7%)	96 (54.2%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



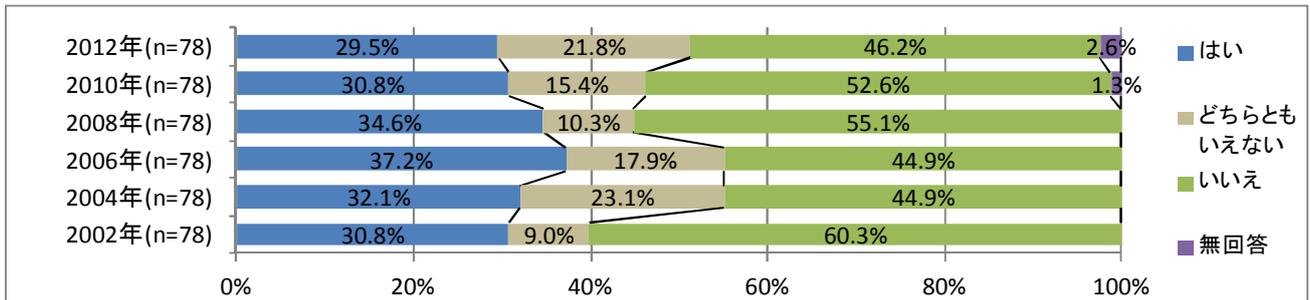
図表 4-46 気分の落ち込むことがあるか（壮年期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	20 (34.5%)	15 (25.9%)	23 (39.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	25 (43.1%)	12 (20.7%)	21 (36.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	19 (32.8%)	9 (15.5%)	30 (51.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	22 (37.9%)	8 (13.8%)	26 (44.8%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	26 (44.8%)	9 (15.5%)	23 (39.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	23 (39.7%)	6 (10.3%)	29 (50.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



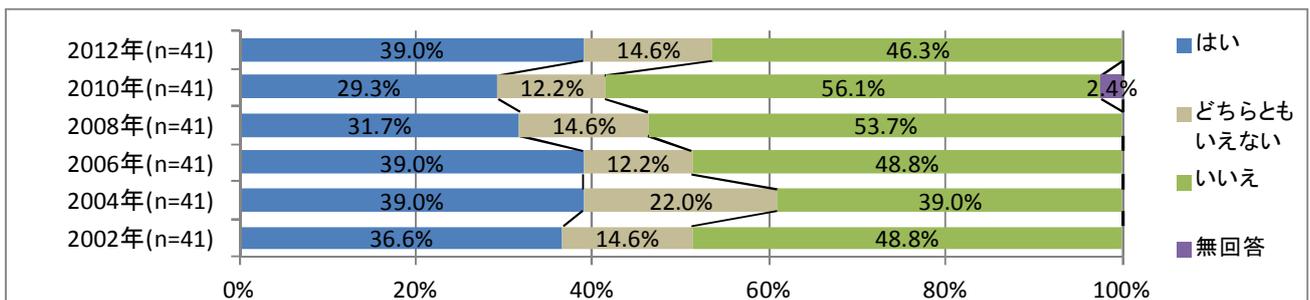
図表 4-47 気分の落ち込むことがあるか（前期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	23 (29.5%)	17 (21.8%)	36 (46.2%)	2 (2.6%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	24 (30.8%)	12 (15.4%)	41 (52.6%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	27 (34.6%)	8 (10.3%)	43 (55.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	29 (37.2%)	14 (17.9%)	35 (44.9%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	25 (32.1%)	18 (23.1%)	35 (44.9%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	24 (30.8%)	7 (9.0%)	47 (60.3%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 4-48 気分の落ち込むことがあるか（後期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	16 (39.0%)	6 (14.6%)	19 (46.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	12 (29.3%)	5 (12.2%)	23 (56.1%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	13 (31.7%)	6 (14.6%)	22 (53.7%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	16 (39.0%)	5 (12.2%)	20 (48.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	16 (39.0%)	9 (22.0%)	16 (39.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	15 (36.6%)	6 (14.6%)	20 (48.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■何かをするとき、活力をもってやっているか

(全体の結果)

何かをするときに「活力をもってやっている」人は、すべての調査時で7割以上を維持している。初回調査時(2002年)が84.2%と最も多く、その後は7割~8割程度で推移しているが、2012年調査時では71.8%と最も少ない。(図表4-49)

(壮年期群→Y0)

何かをするときに「活力をもってやっている」人は、すべての調査時で6割以上を維持している。2008年調査時が86.2%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2012年調査時では67.2%と最も少ない(-19.0ポイント)。(図表4-50)

(前期高齢期群→00)

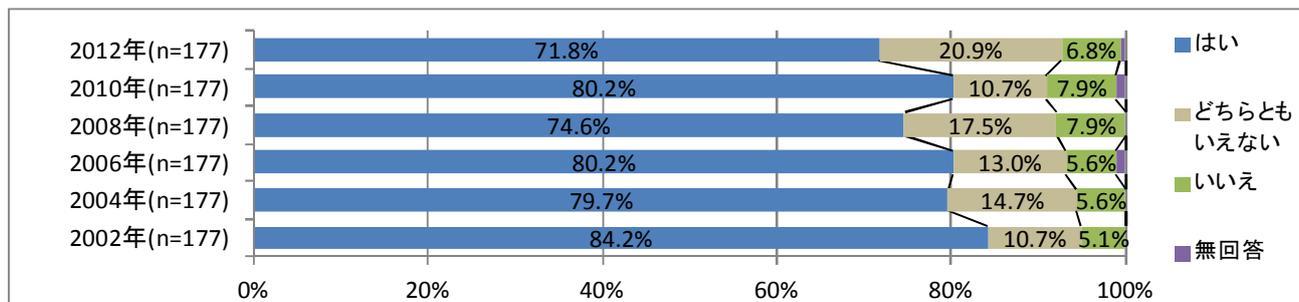
何かをするときに「活力をもってやっている」人は、2008年調査時が70.5%と最も少なく、それ以外は8割程度で推移している。(図表4-51)

(後期高齢期群→0d0)

何かをするときに「活力をもってやっている」人は、すべての調査時で6割以上を維持している。初回調査時(2002年)が80.5%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2010年調査時では63.4%と最も少なくなっている(-17.1ポイント)。(図表4-52)

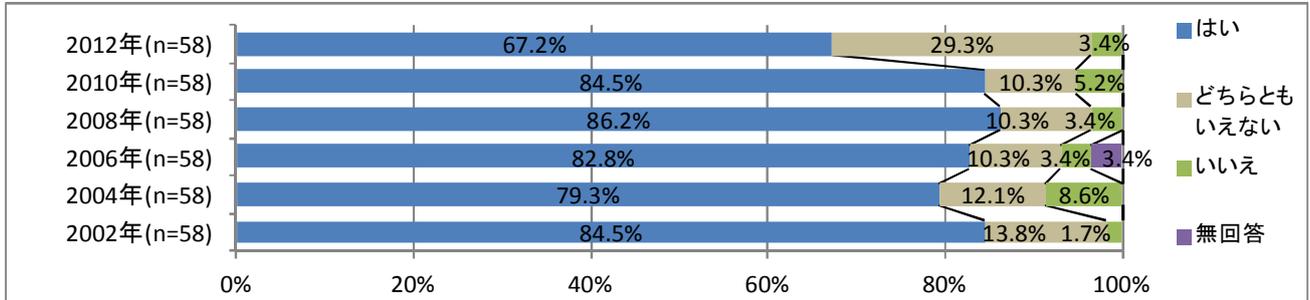
図表4-49 何かをするとき、活力をもってやっているか (全体)

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	127 (71.8%)	37 (20.9%)	12 (6.8%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	142 (80.2%)	19 (10.7%)	14 (7.9%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	132 (74.6%)	31 (17.5%)	14 (7.9%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	142 (80.2%)	23 (13.0%)	10 (5.6%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	141 (79.7%)	26 (14.7%)	10 (5.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	149 (84.2%)	19 (10.7%)	9 (5.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



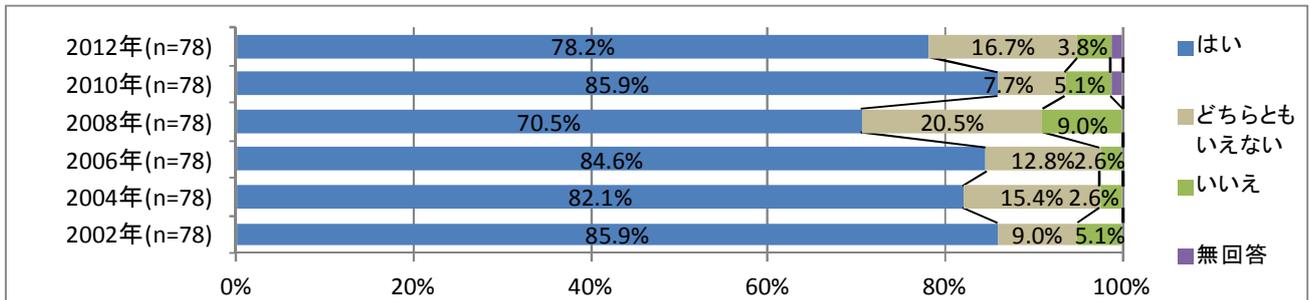
図表 4-50 何かするとき、活力をもってやっているか（壮年期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	39 (67.2%)	17 (29.3%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	49 (84.5%)	6 (10.3%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	50 (86.2%)	6 (10.3%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	48 (82.8%)	6 (10.3%)	2 (3.4%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	46 (79.3%)	7 (12.1%)	5 (8.6%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	49 (84.5%)	8 (13.8%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



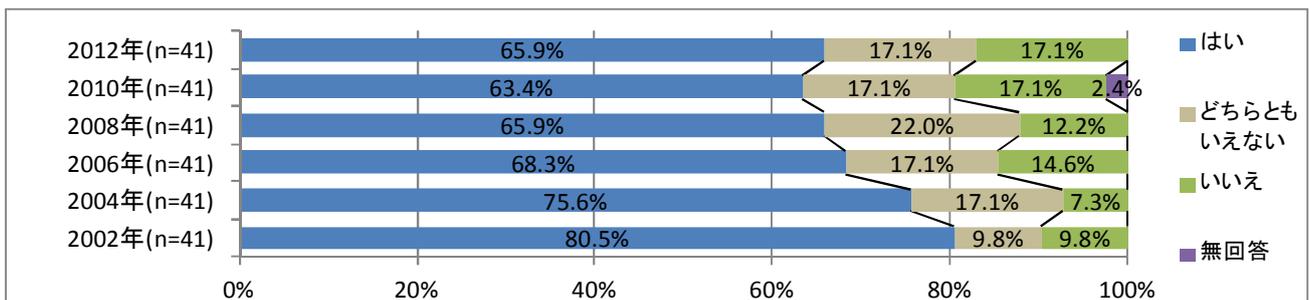
図表 4-51 何かするとき、活力をもってやっているか（前期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	61 (78.2%)	13 (16.7%)	3 (3.8%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	67 (85.9%)	6 (7.7%)	4 (5.1%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	55 (70.5%)	16 (20.5%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	66 (84.6%)	10 (12.8%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	64 (82.1%)	12 (15.4%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	67 (85.9%)	7 (9.0%)	4 (5.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 4-52 何かするとき、活力をもってやっているか（後期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	27 (65.9%)	7 (17.1%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	26 (63.4%)	7 (17.1%)	7 (17.1%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	27 (65.9%)	9 (22.0%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	28 (68.3%)	7 (17.1%)	6 (14.6%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	31 (75.6%)	7 (17.1%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	33 (80.5%)	4 (9.8%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■家族以外の周りの人とうまくやっているか

(全体の結果)

家族以外の周りの人と「うまくやっている」人は、2004年調査時から2012年調査時まで9割以上を維持しており、大きな変化はみられない。(図表4-53)

(壮年期群→Y0)

家族以外の周りの人と「うまくやっている」人は、2004年調査時から2012年調査時までほぼ9割を超えている。2008年調査時の98.3%をピークに漸減傾向にあり、2012年調査時では91.4%とわずかに減少している(－6.9ポイント)。(図表4-54)

(前期高齢期群→00)

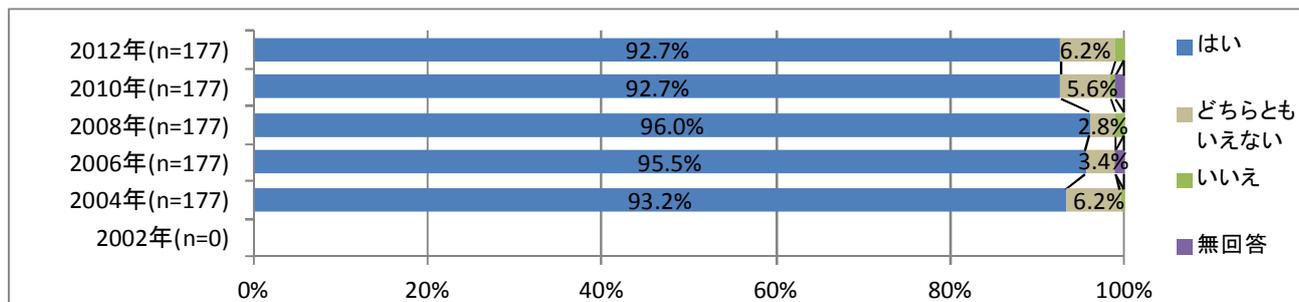
家族以外の周りの人と「うまくやっている」人は、2004年調査時から2012年調査時まで9割以上を維持している。2006年調査時の97.4%をピークに漸減傾向にあり、2010年調査時では92.3%とわずかに減少している(－5.1ポイント)。(図表4-55)

(後期高齢期群→0d0)

家族以外の周りの人と「うまくやっている」人は、2004年調査時から2012年調査時まで9割以上を維持している。2006年調査時の100.0%をピークに漸減傾向にあり、2010年調査時では92.7%とわずかに減少している(－7.3ポイント)。(図表4-56)

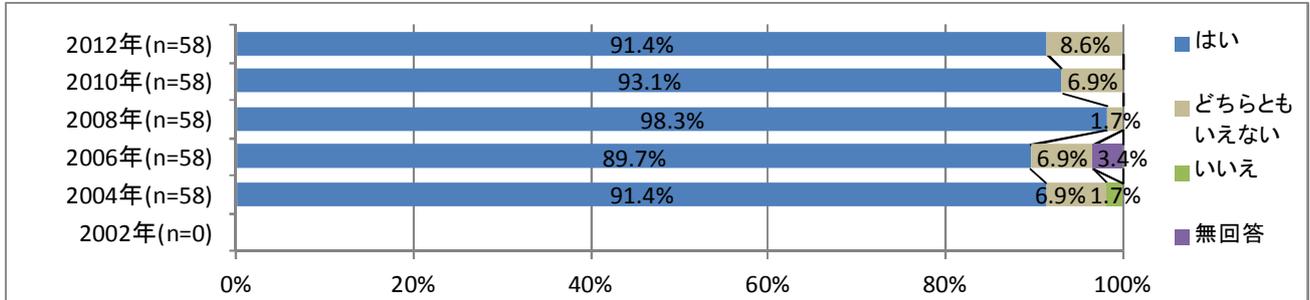
図表4-53 家族以外の周りの人とうまくやっているか (全体)

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	164 (92.7%)	11 (6.2%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	164 (92.7%)	10 (5.6%)	1 (0.6%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	170 (96.0%)	5 (2.8%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	169 (95.5%)	6 (3.4%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	165 (93.2%)	11 (6.2%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=0)						



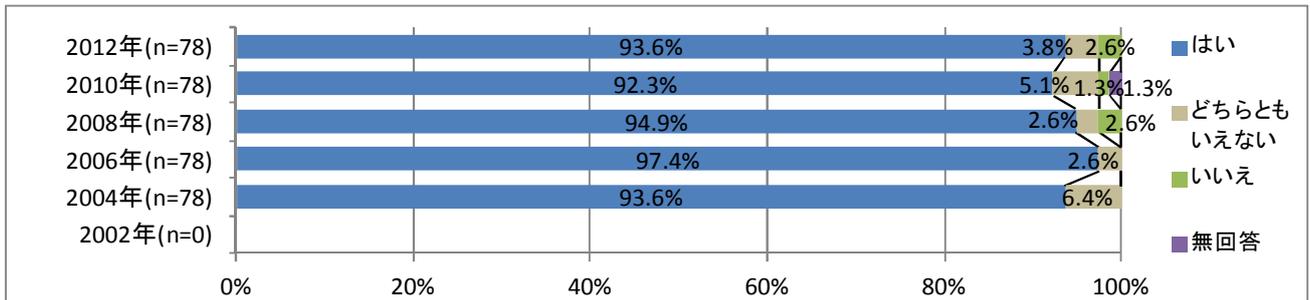
図表 4-54 家族以外の周りの人とうまくやっているか (壮年期群)

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	53 (91.4%)	5 (8.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	54 (93.1%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	57 (98.3%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	52 (89.7%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	53 (91.4%)	4 (6.9%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=0)						



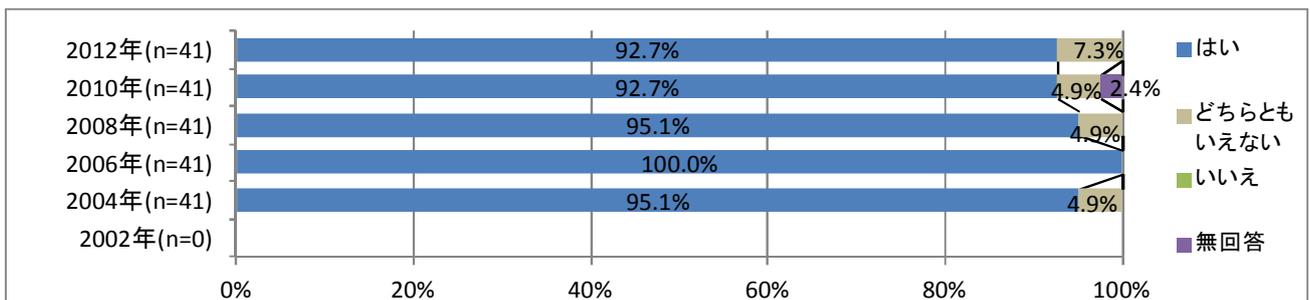
図表 4-55 家族以外の周りの人とうまくやっているか (前期高齢期群)

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	73 (93.6%)	3 (3.8%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	72 (92.3%)	4 (5.1%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	74 (94.9%)	2 (2.6%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	76 (97.4%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	73 (93.6%)	5 (6.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=0)						



図表 4-56 家族以外の周りの人とうまくやっているか (後期高齢期群)

	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	38 (92.7%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	38 (92.7%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	39 (95.1%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	41 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	39 (95.1%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=0)						



■これから先、何か楽しいことが起こると思うか

(全体の結果)

今後、「楽しいことが起こると思っている」人は、初回調査時（2002年）が55.4%と最も多く、その後は2010年調査時まで45%程度で推移している。しかし、2012年調査時では30.5%と最も少なく、2010年調査時以降の2年間で15.8ポイント減少している。（図表4-57）

(壮年期群→Y0)

今後、「楽しいことが起こると思っている」人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで半数以上で推移している。2008年調査時が60.3%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2012年調査時では36.2%と最も少なくなっている（-24.1ポイント）。（図表4-58）

(前期高齢期群→00)

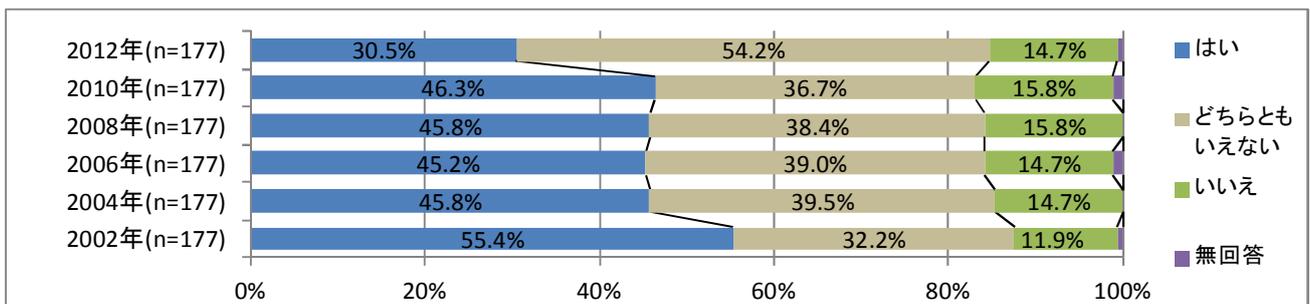
今後、「楽しいことが起こると思っている」人は、初回調査時（2002年）が52.6%と最も多く、その後は2010年調査時まで3割～4割程度で推移している。2012年調査時では21.8%と最も少なく、2010年調査時以降の2年間で20.5ポイント減少している。（図表4-59）

(後期高齢期群→0d0)

今後、「楽しいことが起こると思っている」人は、初回調査時（2002年）が58.5%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2008年調査時では31.7%と大きく減少している（-26.8ポイント）。しかし、2010年調査時では46.3%に増加し（+14.6ポイント）、その後も4割近くで推移している。（図表4-60）

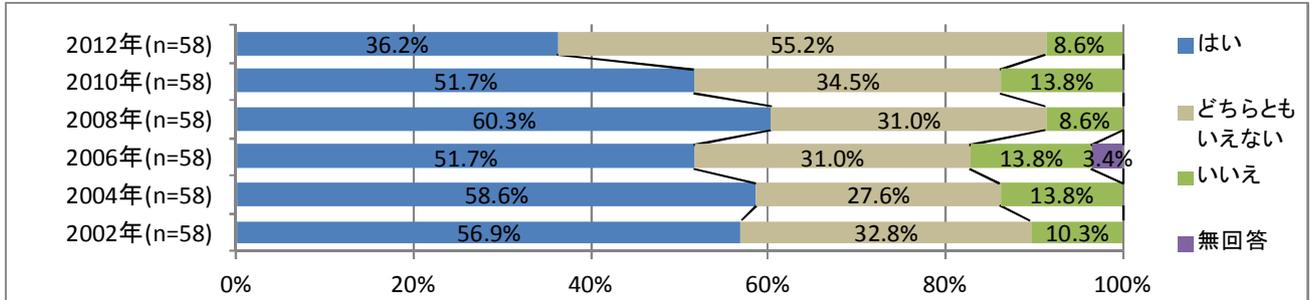
図表4-57 これから先、何か楽しいことが起こると思うか（全体）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	54 (30.5%)	96 (54.2%)	26 (14.7%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	82 (46.3%)	65 (36.7%)	28 (15.8%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	81 (45.8%)	68 (38.4%)	28 (15.8%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	80 (45.2%)	69 (39.0%)	26 (14.7%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	81 (45.8%)	70 (39.5%)	26 (14.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	98 (55.4%)	57 (32.2%)	21 (11.9%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	



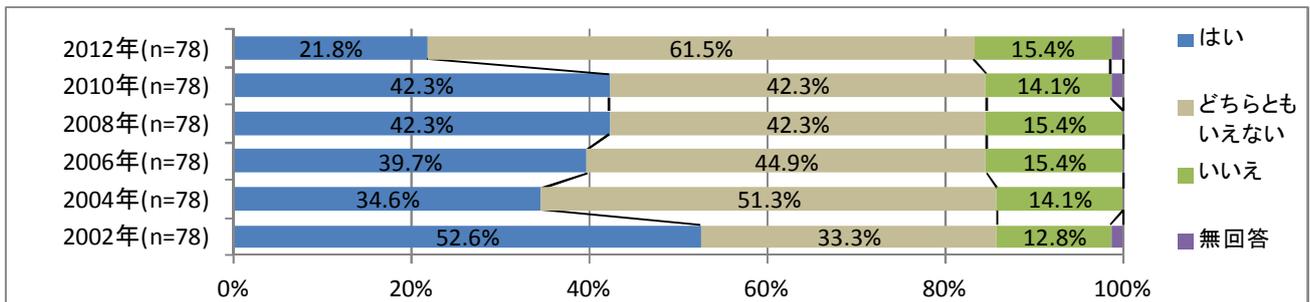
図表 4-58 これから先、何か楽しいことが起こると思うか（壮年期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	21 (36.2%)	32 (55.2%)	5 (8.6%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	30 (51.7%)	20 (34.5%)	8 (13.8%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	35 (60.3%)	18 (31.0%)	5 (8.6%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	30 (51.7%)	18 (31.0%)	8 (13.8%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	34 (58.6%)	16 (27.6%)	8 (13.8%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	33 (56.9%)	19 (32.8%)	6 (10.3%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



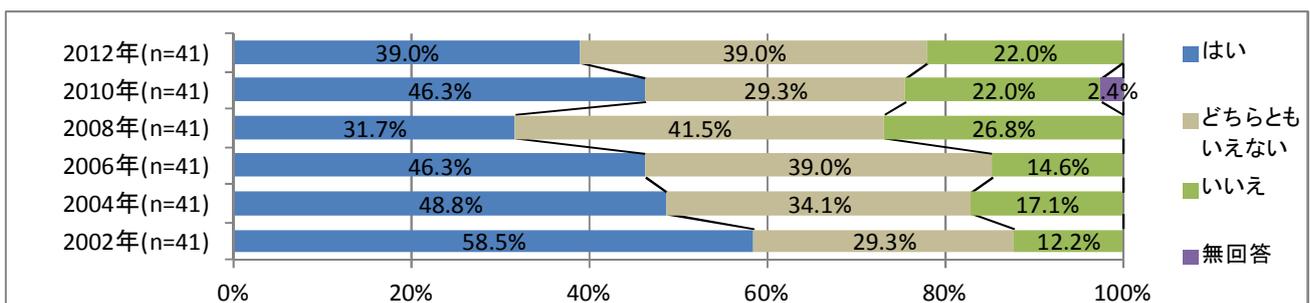
図表 4-59 これから先、何か楽しいことが起こると思うか（前期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	17 (21.8%)	48 (61.5%)	12 (15.4%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	33 (42.3%)	33 (42.3%)	11 (14.1%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	33 (42.3%)	33 (42.3%)	12 (15.4%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	31 (39.7%)	35 (44.9%)	12 (15.4%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	27 (34.6%)	40 (51.3%)	11 (14.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	41 (52.6%)	26 (33.3%)	10 (12.8%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	



図表 4-60 これから先、何か楽しいことが起こると思うか（後期高齢期群）

	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	16 (39.0%)	16 (39.0%)	9 (22.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	19 (46.3%)	12 (29.3%)	9 (22.0%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	13 (31.7%)	17 (41.5%)	11 (26.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	19 (46.3%)	16 (39.0%)	6 (14.6%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	20 (48.8%)	14 (34.1%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	24 (58.5%)	12 (29.3%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



5. 結果のまとめと考察

1) 一般健康状態

(病院にかかる病気の有無)

●通院するような病気が増えるのは、壮年期から前期高齢期に至るまでの10年間で最も多い。

・病院にかかる病気がある人は初回調査時では半数程度であったが、10年間で41.8%増加し、9割以上の人が病院にかかっている。この傾向は、壮年期から前期高齢期になる時期に最も多い。

(病院にかかる病気の種類)

●病気で最も多いのは循環器疾患であり、その中でも高血圧が最も多いのはすべての年齢群で共通している。また、壮年期から前期高齢期に至る群で2番目に多いのは代謝性疾患（糖尿病）であるが、後期高齢期群より上の年代は視覚器疾患となる。

・病院にかかる病気で最も多いのは循環器疾患であり、10年間で22.5ポイント上昇するなど他の疾患に比べると増加率は最も高い。そのうち8割以上は高血圧である。

壮年期から前期高齢期にかけて2番目に多いのは代謝性疾患となり、そのうち糖尿病が6割以上を占める。一方前期高齢期から後期高齢期、後期高齢期以上の人たちに2番目に多いのが視覚器の疾患であり、7割以上が白内障となる。

2) 健康状態に関する自覚

(ふだん自分で健康だと感じるか)

●健康と感じている人は7割程度で推移しているが、「とても健康」と感じている人は震災を挟んですべての年齢群で大幅に減少している。

・ふだん健康だと感じている人は比較的多いが、前期高齢期の年齢以上の人は10年間で少しずつ減少する。壮年期群から前期高齢期群に至る10年間では、増減を繰り返しながら6割から7割程度を推移する。一方で震災後、とても健康と感じる人はすべての年齢群で大幅に減少している。

(今の健康状態)

●全体で健康状態は前と変わらないという人は最も多い。前と変わらないと感じる人は、年齢が高い群ほど主観的健康感低下する。震災の影響は主観的健康感を低下させ、特に後期高齢期以上の年齢になると、前の方が健康だと感じる人は増える。

・健康状態は変わらないという人は10年間でほぼ4~5割で推移するが、年齢が高い群ほど主観的健康感低下する。特に後期高齢期以上の年齢の人ほどこの傾向は著しい。震災の影響は主観的健康感を低下させる。

(食欲や睡眠等)

●食欲に関する10年間の推移では、前と変わらないという解答がすべての年齢群で最も多く、安定している。

しかし、前期高齢期から後期高齢期に向かう10年間では、前の方が食欲があるという解答が増えていく。

・食欲は変わらないという解答はすべての年齢群で7~8割を占め、安定している。この傾向は、壮年期群から前期高齢期群に至る人たち、および後期高齢期以上の年齢群の人に共通している。一方前期高齢期から後期高齢期に至る10年間では、食欲は漸減する。

●睡眠に関する10年間の推移では、良好な人が7~8割で安定しており、震災を挟んだ2年間では、前期高齢期群以上の高齢の人ほど良好に変化している。眠れない人の場合、浅眠中途覚醒が最も多いが、後期高齢期以上の高齢者は入眠困難が最も多い。

・全体として8割以上の人の睡眠は良好であり、10年間で大きな変化はない。睡眠が良好なのは、前期高齢期から後期高齢期、後期高齢期からそれ以上の年齢の人ほど良好に変化しているが、壮年期から前期高齢期に至る10年間では睡眠良好の人は減っていく。眠れない人たちは、眠りが浅く、途中で目覚める人が最も多いが、寝付きが悪い人は10年間で減少していく。後期高齢期群以上の高齢群でも寝付きが悪い人が一定して多い。

- 排便に関する10年間の推移では、良好な人たちが8割以上で推移しており、特に壮年期から前期高齢期に至る群で顕著である。しかし、年齢が高い群ほど便秘の人が増え始め、この傾向は85歳以上の高齢者で著しい。
 - ・全体としては、排便が良好な人たちは、85%程度で推移しており、この傾向は特に壮年期から前期高齢期に至る群で一定している。一方前期高齢期から後期高齢期に至る人たちと、後期高齢期以上の高齢者になると、便秘気味の人が増え始める。特に85歳以上の人たちは、10年間で便秘気味の人たちは2割から4割まで増える。

3) Life history

(これまで生活してきた一番楽しかったこと)

- これまで生活してきた一番楽しかったことに関する10年間の推移では、全体として家庭に関する記載が安定して多かったが、その後仕事に関することが増えていく。この傾向は前期高齢期から後期高齢期、後期高齢期以上の高齢者に目立つ。一方壮年期から前期高齢期に至る人たちは、家庭に関する解答が最も多い。
 - ・全体としては、家庭に関する解答が最も多かったが、その後は仕事に関する解答が増え、家庭に関する解答を抜いて3割以上を占める。この傾向は、前期高齢期から後期高齢期に至る群、後期高齢期以上の高齢者群に共通している。しかし、壮年期から前期高齢期に至る群では、家庭に関する解答が最も多い。また後期高齢期以上の人たちは、余暇活動に関する解答が最も多くなる。

(これまで生活してきた一番楽しかったことの内容)

●【家庭のこと】

全体として「出産・子育て」が圧倒的に多く、半数近くを占める。次いで多いのは、「家族・夫婦」の解答であり、この傾向はすべての年齢群で共通している。壮年期から前期高齢期に至る群と、前期高齢期から後期高齢期に至る群では、「出産・子育て」に関する解答が圧倒的に多い。しかし後期高齢期以上の高齢者では、「出産・子育て」と、「家族・夫婦」の解答が同率になる。

●【余暇活動】

全体として、「旅行」が圧倒的に多く7割以上を占める。「趣味」の解答は、後期高齢期以上の高齢者で減少する傾向がある。

●【ゆとり】

全体として、精神的ゆとりが減り、経済的ゆとりが増える傾向がある。この傾向はすべての年齢群で共通している。

4) 生活の質 (QOL)

(今の生活に満足しているか)

- 全体として、今の生活に満足している人の割合は8割以上を維持していたが、震災を挟んだ2年間では減少していることから、震災の影響でQOLが低下したことが認められる。この傾向はすべての連0群で共通している。特にこの傾向は、年齢の低い群ほど顕著である。

(ささいなことが気になって眠れない)

- 全体として、ささいなことが気になって「眠れない」ことがある人は、10年間3割程度で推移しており、気になって眠れないことはない人の方が多い。しかし、壮年期から前期高齢期に至る群では、気になって眠れないことはない人が漸減し、特に震災を挟んだ2年間で眠れない人は増えている。

(若い頃と同じように興味ややる気があるか)

- 全体として、「興味ややる気がある」人は、初回調査時が7割程度であるが、その後漸減し、2012年調査時では36.2%まで減少する。特に前期高齢期から後期高齢期に至る群では、震災を挟んだ2年間で大きく減少している。

(たとえ病気があっても自分なりの生活ができていると思うか)

- たとえ病気があっても「自分なりの生活ができている」と回答した人は、10年間で7割以上を維持しているが、2012年調査時では最も多く、この傾向は壮年期から前期高齢期に至る群と、前期高齢期から後期高齢期に至る群で共通している。

(今、楽しく暮らしているか)

- 楽しく暮らしている人は、8割以上で推移してきたが、震災を挟んだ2年間では最も少なく、QOLの低下が認められる。この傾向はすべての年齢群で共通している。

(何となく不安にかられることがあるか)

- 何となく不安にかられることがある4割程度で推移したが、震災を挟んだ2年間でやや減少している。この傾向はすべての年齢群で共通している。

(今までの生活にかなり満足しているか)

- 今までの生活に満足している人は、7割程度で推移していたが、震災を挟んだ2年間では減少しており、この傾向はすべての年齢群で共通している。特に前期高齢期から後期高齢期に至る群で顕著に認められる。

(興味や楽しみごとを持って生活しているか)

- 興味や楽しみごとを持って生活している人は、8割程度で推移していたが、震災を挟んだ2年間では減少しており、QOLの低下が認められる。この傾向はすべての年齢群で共通している。

(自分の周囲に起きた問題は自分で解決するようにしているか)

- 自分の周囲に起きた問題を自分で解決するようにしている人は、10年間ほぼ85%を維持しており、大きな変化はない。しかし、後期高齢期以上の高齢者では漸減傾向にある。

(ささいなことでも気にするようになったと思うか)

- ささいなことを気にするようになった人は、10年間3割程度で推移しているが、気にしない人の方が多いのは10年間で一定している。しかし、気にしない人は壮年期から前期高齢期に至る群で減少傾向がある。

(今、幸福だと思うか)

- 幸福だと思っている人はほぼ8割で推移してきたが、震災を挟んだ2年間では大きく減少しており、QOLの低下が認められる。この傾向は、壮年期から前期高齢期に至る群と、前期高齢期から後期高齢期に至る群で顕著にみられる。

(気分の落ち込むことがあるか)

- 気分の落ち込むことがある人は、10年間3割程度で推移しており、大きな変化はみられない。また落ち込むことはない人は、すべての年齢群で落ち込む人よりも多いが、漸減傾向にある。

(何かするとき、活力をもってやっているか)

- 何かをするときに活力をもってやっている人は、すべての調査時で7割以上を維持している。しかし震災を挟んだ2年間では、壮年期から前期高齢期に至る群で減少が顕著である。

(家族以外の周りの人とうまくやっているか)

- 家族以外の周りの人とうまくやっている人は、10年間で9割以上を維持しており、大きな変化はみられない。この傾向はすべての年齢群で共通している。

(これから先、何か楽しいことが起こると思うか)

- 全体として、これから先楽しいことが起こると思っている人は、45%程度で推移していたが、震災を挟んだ2年間で減少しており、QOLの低下が認められる。この傾向は、壮年期から前期高齢期に至る群と、前期高齢期から後期高齢期に至る群で顕著である。

平成 25 年度認知症介護研究・研修仙台センター運営事業費研究事業

加齢と健康に関する縦断研究
ー心身の健康及びQOLの維持に関する要因分析ー

平成 26 年 3 月

発行所 社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター
〒989-3201 宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘 6-149-1
TEL 022-303-7550 FAX 022-303-7570

発行者 社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター
センター長 加藤伸司
